

右

コロヂニム劑トシテハ

○ヨードフォルムコロヂニム

ヨートフォルム

五〇

コロヂニム

九五〇

右振盪溶解ス

近時賞用ニ價スルモノハ

○一―二%リゾール水

右器械及手指ノ消毒ニ用フ

○デルマトール

右收斂乾燥ノ目的ヲ以テ單味或ハ五倍ノ澱粉混劑トシテ用フ

○クレ―デ銀軟膏

右大人ニハ三〇小兒ニハ一〇ヲ皮膚ニ塗擦ス

第二節 繃帶材料取扱法

縫合糸消毒法

縫合糸ハ十分ノ注意ヲ以テ消毒ヲ要スルモノニシテ常ニ之ヲ貯藏スルニ方リ有怪瓶
中ニ二十倍石炭酸グリスリンヲ盛り之ニ投入密閉シ置ク可シ

綿紗類保存法

單綿紗、ヨードフォルム綿紗、昇汞綿紗、ハ一旦脱脂シ或ハ之ニ藥品ヲ吸收セシメタルモ
ノニシテ貯法宜シキヲ得サレバ容易ク藥品ノ失効ヲ來シ反テ有害ノ作用ヲ來スニ至
ルヲ以テ包裝ノ儘清潔ナル器中ニ貯ヘ用時可及的塵埃ノ附着ヲ避ケ決シテ一旦消毒
シタル手指ニアラサレハ之ニ觸接セサル様注意スヘシ而シテ其包裝ヲ解キタル時ハ
密蓋アル瓶中ニ貯ヘ必用ノ部分丈ケ清潔ナル剪ヲ以テ截リ取ル可シ

第三節 外科治療ノ準備消毒

繃帶交換及手術等凡テ創傷ノ處置ヲナサントスル時ハ先ツ術者及手傳人トモ爪ヲ剪
リ肘關節以下ヲ露出シ石鹼刷毛温湯ヲ以テ充分清潔ニスルヲ要ス然ル後二十倍石炭
酸水又ハ千倍ノ昇汞水ニ浸シ後煮沸水ニテ洗滌シ尙一回アルコールヲ塗擦スベシ
患者ノ創傷部ハ温湯ヲ以テ清洗スルノ後汚物ヲ除キ毛髮ヲ剃去シ石鹼ヲ以テ充分洗
滌シタル後石炭酸水又ハアルコールニテ清拭スレハ可ナリ
器械類剪刀攝子ノ類ニシテ創部ニ直接スルモノハ特ニ石炭酸水ヲ用フ可シ昇汞水ハ
金屬具殊ニ刀刃ヲ有スルモノハ鈍麻ノ憂アルヲ以テ用フ可ラス

第四節 創傷繃帶

○ヨードフォルム繃帶 現今單簡ナル方法トシテ用フルモノニシテ消毒シタル創面

ニヨードフォルム綿紗ヲ被ヒ次テ三四層ノ重ネタル脱脂綿ヲ以テ被フ法ナリ
○殺菌綿紗繃帶トハ昇汞綿紗及殺菌綿紗ヲ以テ前條ノ如クスルモノナリト雖モ萬一
ノ場合細菌浸入ヲ保シ難シ

○到底化膿ノ避ク可カラサル創面ハ丁寧反復且ツ有力ノ消毒藥ヲ以テスル洗滌後乾
燥繃帶或ハ濕包繃帶ヲ行フ之レ日常屢々用フ可キモノナリ

繃帶ノ交換ハ左ノ如キ場合ニ行フ可キモノナルヲ以テ創部ノ状態ヲ注意スベシ

一 發熱等アリ全身ニ不快ヲ覺ユル時

二 患部疼痛ノ劇シキ時

三 血液及創液ノ漏出セル時

四 繃帶不快ナル臭氣ヲ發スル時

五 繃帶脱轉セル時

等ナリ而シテ縫合法ヲ行タル場合ハ局部無痛無臭ニシテ前記ノ繃帶交換ノ約束ヲ備
ヘサル以上普通二三日放置シ五七日ノ後注意シテ縫合糸ヲ拔去シ創面赤色ヲ呈シ肉
芽ノ發生ヲ見ル時ハ單ニ清潔ヲ保チ消毒綿紗ヲ置キ繃帶ヲ行フヘシ單一ナル創面ニ
於テハ膏藥ヲ用フルモ可ナリ軟膏ハ脱脂紋巴(リント)ヲ以テス

第五節 損傷

挫創

原因及症狀 挫傷トハ鈍體ノ衝突土砂ノ崩潰打撲車輪轉馬蹄ノ蹴傷等ニヨリ皮膚
破壊シ軟部挫傷スルヲ云フ時ニ骨ノ折傷ヲ兼ルコトアリ

療法 安靜ニ患部ヲ高舉シ適當ナル繃帶ヲナシ病毒ノ浸入ヲ防クニアリ

即チ患部ハ充分ニ清拭シ組織片皮膚ノ裂片等ハ直ニ剪去シ清潔ナルモノハ滅菌綿紗
又ハ昇汞綿紗ヲ以テ密包繃帶ヲ施シ不潔ナルモノハ防腐藥ヲ以テ充分洗滌シ粉末藥
ヲ撒布シタル後昇汞綿紗ヨードフォルム綿紗ヲ以テ繃帶ヲ行フ可シ

凡ソ撒布ニ用フル藥品左ノ如シ

○ヨードフォルム(ヨードホルム)

○次沒食子酸蒼鉛(デルマトール)

○次硝酸蒼鉛 (ピヌミット)

洗滌用トシテハ

○一千倍昇汞水

○三十倍—五十倍石炭酸水

○三百倍サリチール酸水

等ヲ用フ尙少量ノ出血ハ繃帶ニヨリテ自然止血スルモ多量ナルトキハ止血法ヲ行ヒ
創縁銳利ニシテ容易ニ接合シ得ル如クナレバ縫合ヲ行ヒ繃帶ス可シ但シ挫創ノ場合
ハ縫合ヲ適當トセサルコト多ク却テ藥液濕布繃帶ノ必用ナルコト多シ蓋シ挫創ハ紐

織ノ破壊サレタルモノナルヲ以テ化膿ニ陥リ易キ傾向アルガ故ナリ濕布繃帶ニ用フ
ル藥液左ノ如シ

○五十倍石炭酸水

○千倍昇汞水

普通脫脂綿紗ニ浸シ數層ヲ重ネ油紙ヲ以テ被ヒ繃帶ヲ施シ一日數回交換スルヲ要ス

打傷及捻挫(關節)

療法 打傷トハ皮膚ニ異常ナキ挫傷ニシテ捻挫ハ關節ノ或ル機轉ニ依テ捻挫シタル
モノナリ單純ナルモノハ患部ヲ清潔ニシ安靜濕布繃帶ヲ施セバ可ナリ時トシテ受傷
後急速腫脹ヲ來シ關節ニアリテハ運動不能ニ陥ルコトアリ是レ血管破裂ニヨリ内部
ニ出血シタル爲ナルヲ以テ可成速ニ壓抵的濕布繃帶ヲ施シ置ク可シ疼痛劇シキ時ハ
冷卷法氷囊卷法ヲ必用トス

輕症ノモノハヨロド丁幾カンフル丁幾ノ塗布又燒酎等ヲ代用スヘシ但シ骨折等アル
場合ハ之レカ處置ヲナスヘキコト勿論ナリトス

切創 刺創 裂創

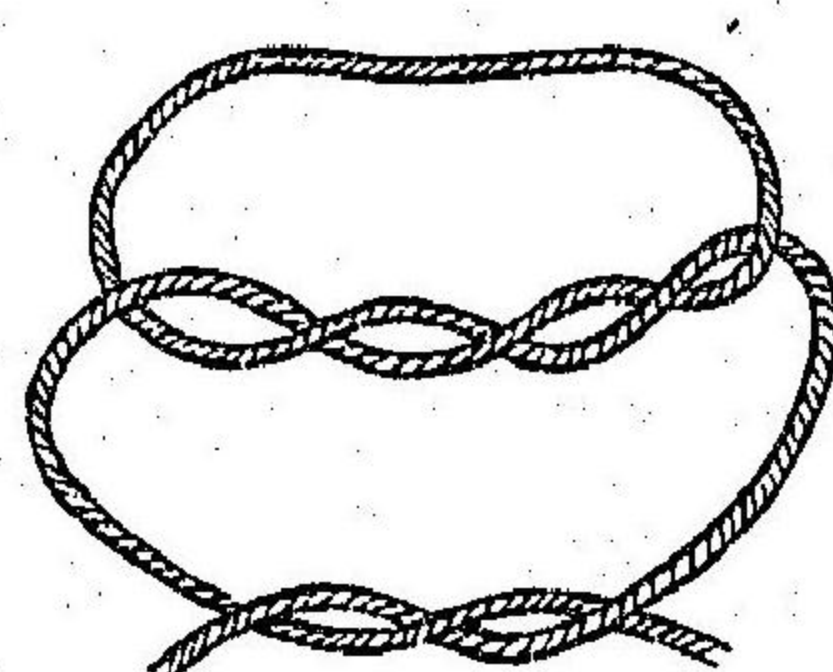
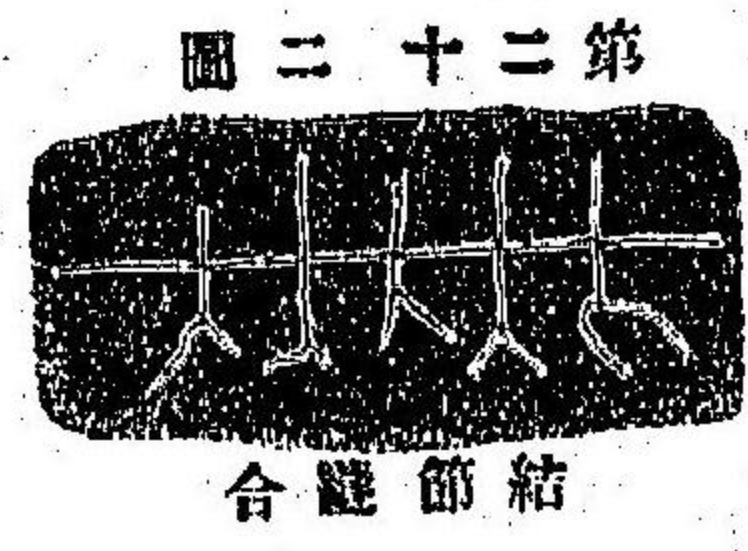
療法 大小深淺廣狹ニヨリ其趣ヲ異ニスルト雖モ創内ヲ細檢シテ諸般ノ異物土砂塵
埃等ヲ除去ス異物ハ防腐液ニテ洗滌シツ、流出セシメ必用ニ應シ撮子ニテ撮去ス可

シ而シテ後嚴重ナル消毒法ヲ行フ可シト雖モ創面清潔ニシテ異物等ナク利刀ニ依テ生
シタル切創ノ如キハ不潔ナラザル限リ洗滌ヲ避ケ單ニ昇汞綿紗及ヨロドフォルム綿紗
等ヲ貼シテ繃帶スレハ可ナリ是レ洗滌藥ハ創面ヲ多少破潰スルモノナルヲ以テ近來ハ
往時ノ如ク亂用スルコトナシ洗滌ニハ通例五十倍石炭酸水及千倍乃至二千倍ノ昇汞水
ヲ用フ

創面大ナルトキハ適宜ノ縫合法ヲ行ハサル可カラズ
小創ハ伴創膏ヲ貼リヨロドフォルムコロヂニムヲ塗布シテ創縁ヲ接着セシメヨロド
フォルムガーゼヲ抵テ被蓋繃帶ヲ行フ傷創不潔ニシテ化膿ノ恐レアルトキハ頭初ヨ
リ濕布繃帶ヲ行フ可シ其藥液ハ防腐藥ノ條下ニ記セルモノヲ用フ可シ

創傷縫合法

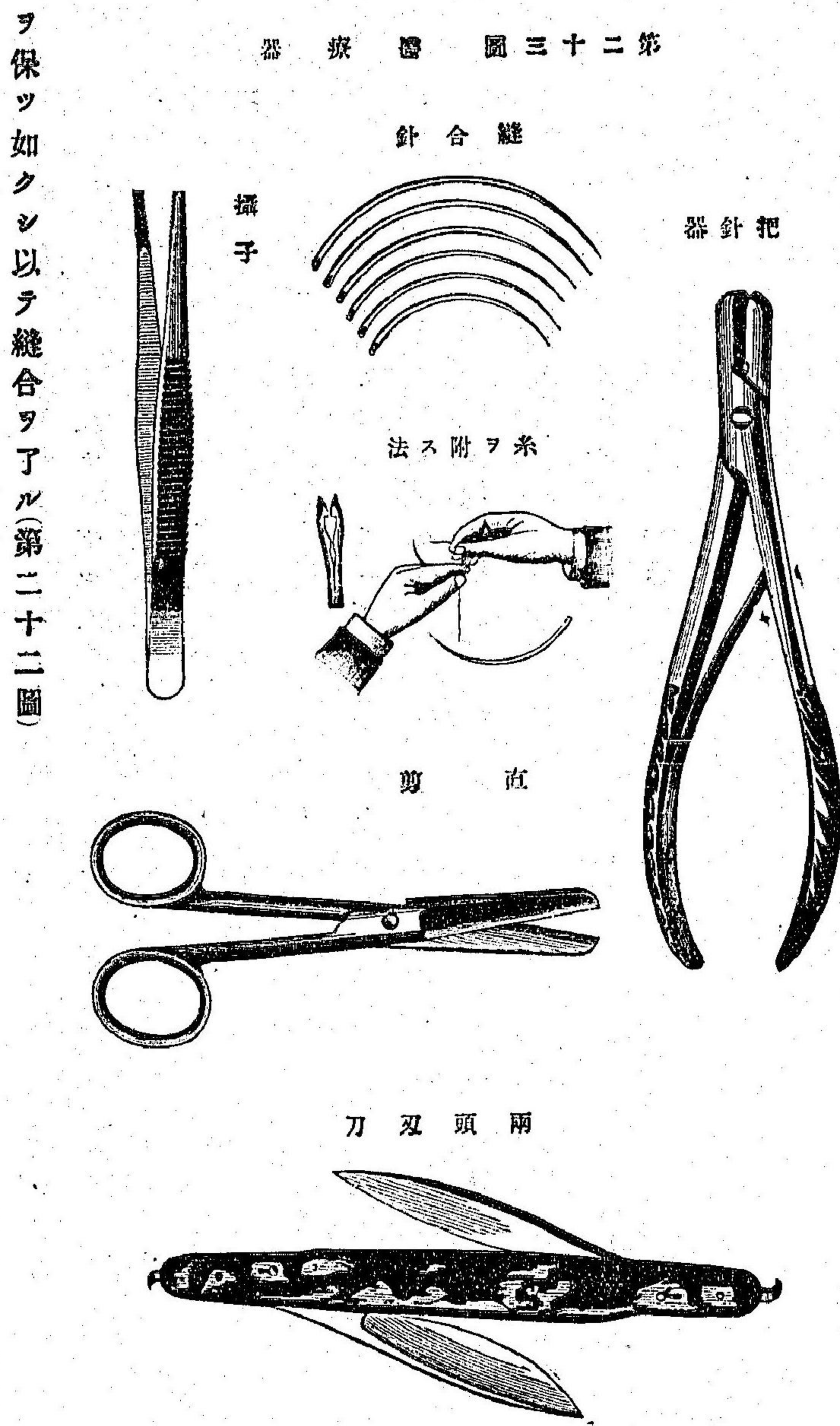
創面及術者ノ手指及器具ハ前條ノ法ニ從テ十分消毒シタル後縫合針ニ約六七寸ノ縫
合糸ヲ附シ一人ヲシテ創部ヲ保持セシメ左手ニ撮子ヲ
持チ右手ニ把針器ヲ持チ縫合針ヲ挟ミ先ツ創ノ中央ニ
於テ創縁ヲ去ル約二三分ノ部ニ針ヲ刺入シ除々他縁ノ
同一部ニ刺出ス而シテ一旦把針器ヲ放チ手又ハ把針器
ヲ以テ之ヲ引出シ針ヲ除キ創縁ノ内方ニ翻轉セズ皮膚
ノ適當ニ接着シアルヤ且ツ他物ノ籍入シアラザルヤヲ



外科的結節

檢シタル後注意シテ刺入口又ハ刺出口ニ近キ部ニ於テ結節ヲ作ル可シ但シ創縁ニ近キ時ハ癒合ヲ防グルヲ以テナリ數針ノ縫合ヲ要スルトキハ漸次其間隔半乃至一仙迷

第 三 十 二 圖 醫 療 器



縫合終レハ過剰ノ糸ハ結節ヲ去ル半仙迷ノ部ニ於テ剪斷シ消毒濕布ヲ以テ血液ヲ壓抵清拭後昇汞綿紗、ヨード、フオルム綿紗等ヲ置キ繃帶ヲ施スヘシ而シテ甚シキ疼痛發熱等ナキトキハ二三日放置シ適當五―七日ナル時期ヲ見テ糸ヲ絞去ス(第二十三圖)要スルニ消毒法完全ニシテ縫合宜シキヲ得レハ化膿ノ憂ナキモノニシテ中等大ノ創傷ト雖モ旬日ヲ經スシテ治ヲ見ル可シ

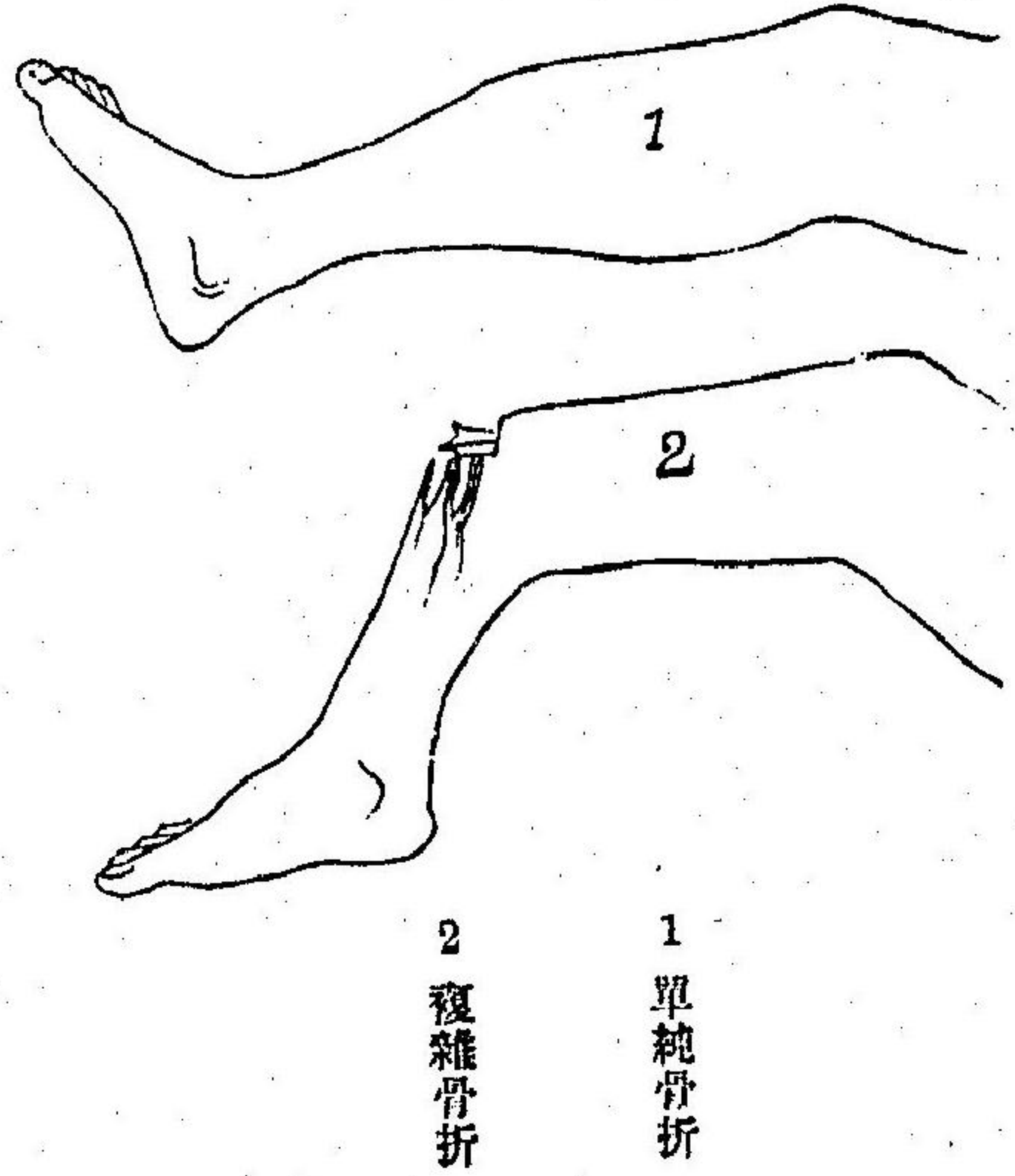
第 六 節 骨 折

原因 暴力(打撲衝突跌倒墜落跳躍)ニヨリ骨ノ連續ヲ失ヘルモノニシテ其ノ全ク離開シタルヲ全骨折ト云ヒ屈曲ニ止リタルヲ不全骨折ト云フ

一 般 症 狀

- 一 患肢ノ運動廢絶シ或ハ運動時一局部ノ劇痛ヲ發ス
- 二 患肢ノ變形及短縮ヲ來シ局部ニ於テ多クハ膨大ス
- 三 關節ナラサル部ニ運動ヲ來ス
- 四 軋音(兩骨折端ノ摩擦)ニヨリ一種ノ音響ヲ聞

第 四 十 二 圖 骨 折



キ又指頭ニ覺知ス(第二十四圖)

骨折ノ治療機

骨折ノ治療機ハ折端間ニ新ニ骨質假骨ヲ生シ連續スルモノニシテ其狀恰モ膠ヲ以テ物ヲ接クカ如シ治療ノ時間ハ種類部位及患者ノ年齢ニヨリ差違アルモ大約二週以上十週ヲ要ス

一般療法

一 骨折端ノ整復

二骨折端ノ固定及維持之ヲ行フニハ適當ナル繃帶及安保护装置ヲ要ス

骨折ヲ處置スルニハ先ツ被服ヲ(可成安靜ニスルヲ要ス止ムヲ得ズンバ剪ヲ以テ切り放チ或ハ縫目ヲ縫キ)除キ患肢ハ骨折部ノ上下方ヲ兩手ニ持チ今一人ヲシテ下端ヲ保持シ徐々ニ持扱フ可シ

骨折端ノ整復

整復ハ醫士ノ手ヲ以テナスモノナレトモ凡ソ完全ノ治ヲ得ントスレハ其折端ヲ正シク整復スルヲ第一トス整復ニハ牽引對引若クハ押壓ヲ用フ其法介者二人ヲシテ上部ト下部ヲ兩手ニテ握リ上部ノモノハ患者ノ身體ヲ固定スル如クシ下端ヨリ徐々ニ平等ノ力ヲ以テ引キ伸シ以テ長短及方向ヲ健側ト同一ナル如クナラシメ骨折部ニ手ヲ

當テ骨折端完全ニ整復セルヤ否ヤヲ十分検査スルニアリ

骨折繃帶

整復ヲ了リタル上ハ繃帶ヲ施シ患肢ヲ安保シ折端ニ動搖ヲ來サ、ル様固定ヲ要ス此目的ニハ副木繃帶、キブス繃帶等ヲ用フ骨折ニ用フヘキ適當ナル繃帶ナキカ或ハ醫士ノ來診ニ時間ヲ要スル時ハ一時救急繃帶ヲ用フ可シ即チ上膊骨或ハ前膊骨等ナレハ籠、蓆ノ如キモノニテ卷キ又ハ軟キモノヲ當テタル上ニ内側ニ短キ外側ニ長キ竹木或ハ薄板ノ類ヲ當テ括リ肘ヲ直角ニ曲ケ前胸ニ吊シテ支ヘ又ハ健側ノ手ニテ支ヘシメ置ク可シ大腿骨及下腿骨ナレハ單ニ長藁束或ハ卷キタル外套ノ一端ヲ大腿ノ中央ノ内側ニ當テ蹠ニテ折り曲ケ他端ヲ大腿ノ外側ニ達セシメ膝ノ上下ニテ括リ且患肢全部ヲ健肢ト共ニ結テ支フ可シ或ハ先ツ軟キ物ヲ當テタル上ニ下肢ノ内側ニ大腿ノ中央ニ達スル棒板類ヲ當テ外側ニハ腰部ニ達スル迄棒ノ類ヲ當テ括ル可シ

骨折患者ノ運搬及位置

上肢骨折ハ繃帶シタル後患者自身歩行スルヲ得可キモ下肢ノ骨折患者ハ擔架等ニテ運搬ス可シ

骨折患者ハ患肢ヲ動サ、ルコトニ注意ス可シ即チ軟キ枕ノ上ニ置キ其兩側ニ糠藁、砂囊等ヲ置キ異動ヲ防ク可シ下肢骨折ニハ比較的硬キ臥褥ヲ用ヒ布團等ハ吊リ下ケ直

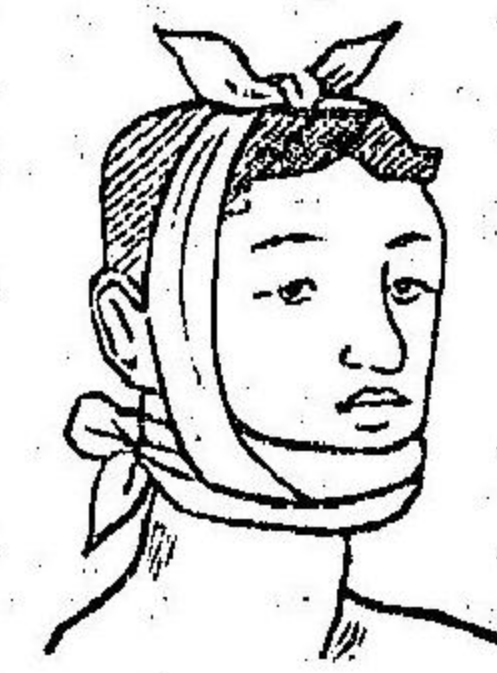
接患肢ニ觸レサル様ス可シ

○下顎骨折

症狀 下顎骨折ハ多ク中央ニ(兩門齒ノ間)來ルモノニシテ兩手ヲ以テ下顎ヲ保持スルニ依テ軋音ヲ發シ開口セシムレハ齒列ノ不整ナルヲ見ルヘシ

療法 之ヲ固定スルニハ護膜性ノ薄板又ハ厚紙ヲ取り綿花ニ包ミ中央ヲ頤部ニ兩端ヲ頤部ニ達セシメ副木トシ疊三角巾二個ヲ取り一ハ頤下ヨリ頤頂ニ他ハ頤ノ前面ヨリ頂ニ結ビ固定シ後二週間ハ言語談話ヲ禁シ流動食ヲ與ヘ安靜ヲ保タシム可シ(第二十五圖)

圖五十二第 帶折骨顎下



○鎖骨々折

症狀 多クハ折端上方ニ高マリ患側ノ肩胛骨ハ下垂シテ前方ニ偏シ胸骨ト肩頭トノ距離短縮シ患側ノ上肢ヲ舉上スルコト能ハザルヲ常トス

療法 此場合ハ三角巾ヲ以テ患側ノ上肢ニ擔布ヲ施シテ患側ノ肩ヲ舉ケ折端ヲシテ自ラ正シキ位置ニ復セシメ其ノ上ニ廣キ三角巾或ハ數行ノ卷軸帶ヲ纏ヒ上肢ヲ胸廓ニ固定ス可シ(第二十六圖)

○肋骨々折

症狀 肋骨々折ハ呼吸ニ從テ一種ノ刺痛ヲ覺エ且ツ患者自ラ軋音ヲ感シ時トシテ明

帶折々骨鎖 圖六十二第



後患部ヲ中心トシテ肋骨ノ方向ニ下方ヨリ屋瓦狀ニ貼布シ以テ靜養セシム可シ

○上膊骨折

症狀療法 患者上膊ノ運動不能ニシテ前記骨折一般ノ症狀ヲ具備シ外見ニ於テ容易ニ斷定スルコトヲ得ベキヲ以テ肘ヲ屈曲シ上膊ノ折端ヲ完全ニ整復シ副木ヲ以テ前後左右ヨリ固定シ前膊ヲ繙帶ヲ以テ頸部ニ吊リ運動ヲ制限スヘシ副木ハ綿花ヲ以テ平等ニ包ミ平等ノ壓ヲ加フル様注意スヘシ

○前膊骨折

療法 前膊骨折ニアリテハ肘ヲ屈シ折端ヲ接合シ内側ニハ肘關節ヨリ指端ニ至ル外側ニハ肘關節ヨリ指根ニ達スル副木ヲ以テ繙帶ヲ施ス可シ

○大腿骨折

症狀 通常左右兩肢ヲ比較スレバ患肢ハ短縮シ其足尖ハ外方ニ向ヒ局部ニ於テハ變形及軋音ヲ徵スベシ

療法 一介者ヲシテ腰骨ヲ水平ニ固定セシメ適當ノ力ヲ以テ足部ヲ持チ之ヲ引延シ折端ヲ常位ニ(健肢ニ比較シツ)整復シ腋窩ヨリ膝部ニ至ル長サノ副木ヲ患肢ノ外側ニ當テ繃帶ヲ施ス可シ此ノ患者ニアリテハ少クモ五六週間ハ安靜ニ仰臥セシムルヲ要ス

○下腿骨折

療法 本症ノ副木ハ膝關節ヨリ足關節ニ達スル長サノモノヲ要シ内外兩側ニ之ヲ用ヒ繃帶ヲ行フヘシ

凡テ骨折患者ハ身體ヲ安靜ニシ運動ヲ嚴禁シ滋養食品ヲ與ヘ繃帶ノ緩脱スルコトナキ様注意シ常ニ醫師ノ監視ヲ受ク可キモノトス

第七節 脫臼 (骨はづれ 骨ぬけ)

原因 脫臼ハ外來ノ暴力關節部又ハ骨ニ來ルガ故ニ起ルモノニシテ關節ヲナス骨ノ一端持續的ニ脱轉シ關節囊及時トシテ靱帶ノ斷烈シタルモノナリ

一般症狀

- 一關節ノ疼痛及關節運動ノ障礙或ハ癱絶
- 二患肢ノ位置及方面ノ變異
- 三患肢ノ延長或ハ短縮(上下前後ノ脫臼ニヨリ差異アリ)
- 四關節ノ變形(健側ニ比シ)
- 五關節窩ノ空虚

一般療法

- 一脱臼シタル骨ノ整復
- 二整復シタル後骨ニ自然ノ位置ニ留ラシムルタメノ固定繃帶ヲ要ス
- 三整復ハ醫士ノ手ニヨリ患肢ヲ疼痛最モ少キ位置ニ安置セシム

○下顎脫臼

症狀 欠伸過度ノ開口等ノ際ニ來ルモノニシテ往々習慣性ノモノアリ下顎部前方ニ突出シ口ヲ半開シ下齒列ハ上唇ニ一致シ言語不明流涎等アリ一見其下顎脫臼タルヲ知ル可シ

療法 患者ヲ椅子ニ倚ラシメ介者ヲシテ後方ヨリ固ク頭部ヲ固定セシメ術者ハ前ニ立チ兩手ノ拇指ニ手拭様ノ布ヲ卷キ兩拇指ヲ左右ヨリ患者ノ最後ノ臼齒上ニ置キ他ノ指ヲ以テ下顎ヲ固ク握リ拇指頭ヲ以テ一氣ニ下顎ヲ後下方ニ壓スルニアリ然ル時

ハ容易ニ整復シ得可シ術後ハ開口ニ注意シ固形食品ヲ與フ可カラス

○上膊脱臼

症狀 肩胛部ハ一見稍平坦トナリ健側ト形ヲ異ニシ異様ノ凹陷ヲ生シ關節窩ノ空虚ヲ認ム可シ而シテ疼痛ノ爲ニ患者ハ健肢ニテ患側ノ前膊ヲ支フルヲ常トス腋窩ニ手ヲ挿入スレハ圓形硬固ナル脱臼セル上膊骨頭ヲ觸知ス可シ

療法 ハ患者ヲ仰臥セシメ術者ハ患側ニ坐シ一足ノ踝ヲ腋窩ニ挿入シ患肢ノ肘關節部ニ強キ大ナル手拭様ノ布ヲ括リ付ケ兩手ヲ以テ漸次索引スルニヨリ整復セシメ得可シ又介者ヲシテ同時ニ上膊骨頭ヲ壓送セシムレハ便利ナリトス

○肘關節脱臼

症狀 膊ヲ伸展セシムレハ平常ノ如ク真直ナラスシテ少ク屈曲シ前膊ハ稍短縮シ肘關節後方ニ脱臼シタル骨頭ノ突出スルヲ見ル

療法 先ツ患者ヲ坐セシメ一人ハ上膊ノ中央ヲ握リ他ノ一人ハ前膊ノ中央ヲ握リテ互ニ相牽引セシメ第三者ハ已ノ兩示指ヲ以テ肘ノ前面ニ兩拇指ヲ後面ニ當テテ肘ヲ握リ指頭ニテ突出セル骨頭ヲ下前方ニ押シ暫時相牽キ續ケタル後不意ニ之ヲ屈曲スルトキハ目的ヲ達シ得可シ

○膝關節脱臼

症狀 左右ヲ比較スルニ患脚ハ健脚ヨリ短縮スルコト一寸五分乃至二寸ニテ患側ノ趾ハ内側ニ向ヒ之ヲ外側ニ向クル能ハス強テ之ヲ命スルカ或ハ股ヲ開カシメントスルトキハ劇痛ヲ發ス可シ

療法 仰臥ノ位置ニ於テ患肢ヲ伸サシメ兩股ノ間ニ帆布綿ノ如キ強キ布片ヲ通シ尻骨ヲ柱ニ縛リ置キ術者ハ已ノ足ヲ以テ柱ヲ踏ミ兩手ニテ膝ヲ握リテ強ク牽ク可シ若シ木綿ヲ取り患肢ノ中央ト一介者ノ頸ニ回シテ輪トナシ其介者頸ヲ引キテ大腿骨頭ヲ關節臼上ニ臨マシムレハ整復シ易シ整復スレハ高キ音ヲ發スルモノナリト雖モ頗ル難術ナリトス

○足關節脱臼

脛骨ノ下端ノ脱臼ニシテ内側ニ硬キ腫物様物現レ外側ニハ凹處ヲ生シ蹠ハ上外方ニ向フニヨリテ知ル可シ

療法 靜ニ強ク足ヲ牽キテ元ニ復シ下腿内側ニ上ハ膝關節上部ニ達シ下ハ蹠ニ達スル副木ヲ當テ固定ス可シ

第八節 擦傷

○靴傷

靴傷ハ表皮赤色ヲ呈シ或ハ剝離シ又ハ水泡豆ヲ生ス狹小又ハ不適ナル靴ニ依テ生ス

療法 足ノ皮膚赤色ヲ呈シ或ハ微ニ剝離シタルトキハ水、鉛糖水或ハ硼酸水ニテ冷却スベシ水泡ハ殺菌シタル剪又ハ火熱消毒ヲ經タル針ニテ開キ内容液ヲ漏シ(疱皮ヲ除ク可カラス)伴創膏ヲ貼シ壓迫シ置ク可シ潰瘍ニハ創傷一般ノ繃帶ヲ施ス可シ

○鞍傷

療法 鞍傷ハ冷水ニテ卷法シ後伴創膏ヲ貼ス可シ

第九節 火 傷 (火燒及湯燒)

症狀 火傷熱傷トハ火焰熱キ固形體液體蒸汽電氣及腐蝕藥ニヨリテ來ル輕重ニヨリテ三度ニ區別ス

第一度 皮膚赤色トナリ疼痛アルモノ

第二度 淡黄色ノ液ヲ含メル水泡ヲナシ疼痛アルモノ

第三度 身體一部壞死シテ感覺ヲ失ヒ其周圍ニ疼痛アルモノ

火傷ノ安危ハ其度及傷部ノ廣狹ニ關ス第一度ト雖モ身體皮面ノ三分ノ一ヲ超ユレハ危険ナリ

療法 人ヲ火中ヨリ救出サントスルニハ自己ノ衣袴ヲ濡シ頸部ニハ濡シタル布片ヲ纏フヲ要シ被服ニ火ノ移リシ人ニ對シテハ速ニ地上ニ偃シ蓆ノ如キモノヲ被ヒテ火焰ヲ滅シ後チ水ヲ注キテ被服ヲ冷却シ脱衣セシム可シ

火傷及電氣傷ハ徐ニ傷處ヲ露ス可シ衣服ノ皮膚ニ膠着シタル處ハ強テ引キ離サス剪ニテ周圍ヲ切取ル可シ

各度ノ火傷ニ對スル處置左ノ如シ

第一度ノ火傷

冷卷法ヲ施シ澱粉、サリチール酸撒布劑、亞鉛花未及次沒食子酸蒼鉛等ヲ撒布シ或ハ軟膏劑油劑ヲ塗リ繃ニテ輕ク被ヒ繃帶ヲ施スベシ

第二度ノ火傷

傷部ヲ冷水中ニ浸スベシ但シ軀幹頭顔ノ如キハ水ニ沒ス可カラサル故ニ冷水、鉛糖水、硼酸水ノ卷法ヲ行ヒ度々交換スベシ
水泡ハ殺菌シタル剪或ハ殺菌シタル針ニテ開キ内容液ヲ漏ス可シ決シテ疱皮ヲ除ク可カラス小ナルモノハ自然ノ乾燥ヲ待ツベシ

表皮ノ剝脱セル處ニハ次硝酸蒼鉛、アルマトールヲ撒布シ或ハ硼酸軟膏ヲ塗リ又ハ油劑ヲ吸收セシメタル繃紗ヲ被ヒ繃帶ヲ施スヘシ余ハ常ニオレーフ油石灰水各等分ノモノヲ以テ繃紗ヲ浸シ持續繃帶ヲ施シテ確効ヲ得ツ、アリ

第三度ノ火傷

第一救護法トシテ油劑或ハ軟膏ヲ貼シテ創繃帶ヲ施ス可シ

大火傷ニアリテハ非常ノ口渴ヲ訴ヘルモノナリ然ルトキハ清涼飲料或ハ氷片ヲ與ヘ衰弱シタルモノニハ葡萄酒ブランデー日本酒コーヒ茶等ヲ與ヘテ可ナリ
 藥品ニヨル火傷ニハ先ツ水洗シ殘レル藥物ヲ除キ酸類鹽酸硝酸硫酸ナル時ハ白堊、マクネシア等ヲ撒布シ或ハ石鹼ニテ洗ヒ又タ「アルカリ」類苛性カリ苛性ナトロン）ナレハ稀薄ナル醋ニテ洗ヒ次デ水ニテ洗ヒ後輕重ニ對スル處置ヲナス可シ

處方

- 石灰水 五〇、〇
- 右外用
- メントール 五、〇
- 石灰水 五〇、〇
- 右外用
- 次消酸蒼鉛 九、〇
- 右爲軟膏外用
- オレーフ油 二〇、〇
- デルマトール 五、〇
- 右撒布料
- 硼酸 四、〇
- ラノリン 七〇、〇
- 澱粉 五、〇
- オレーフ油 五〇、〇
- オレーフ油 四五、〇

第十節 凍傷及凍瘡

症狀 凍傷ハ非常ノ寒冷ニ遭遇スルニ由テ生スルモノニシテ手足耳翼等ニ來ル
 凍傷ハ火傷ニ同ク三度ニ分ツ

第一度

皮膚赤色ヲ呈シ腫レ痒ク又熱ク疼痛アルヲ主徵トス
 凍瘡ハ第一度ノ凍傷ニ屬ス寒冷ニ冒サレ易キ部分ニ生シ皮面青赤色トナリ癢痒アリ殊ニ夜間ニ甚ク熱スレハ疼痛アリ潰瘍ニ陥リ易シ

第二度

皮膚青赤色トナリ水疱ヲ生ス

第三度

皮膚暗赤色トナリ感覺ヲ失シ血行絶ヘ壞死ヲ來ス
 全身寒冷ニ侵サレテ假死凍死假死ニ陥リ又死ニ至ルコトアリ
 療法 凍傷ハ決シテ急ニ加温ス可カラス必ス失敗ニ陥ル可シ先ツ冷カナル室ニ置キ患部及其ノ附近ヲ軟カナル雪塊ニテ輕ク摩擦シ其部ニ温ヲ覺ユルニ至ルベシ但シ雪塊ニテ摩擦スルコト強キニ過クレハ皮膚ヲ傷ケ潰瘍ヲ生セシムルヲ以テ注意セサル可カラス次テ感覺復シ自身ニ温熱ヲ覺ユルニ至レハ雪ニ代フルニ水ニ雪ヲ和シタル

モノヲ以テシ次ニ冷水ヲ用フ可シ手足ナルトキハ冷水ニ浸ス可ク其他ニ於テハ耳鼻
頤頰等冷卷法ヲ施ス可シ

以上ノ處置ハ熱ヲ覺ユルコト止ミ快キ溫感ヲ覺ユルマデ續行ス快キ溫ヲ覺ユルコト
遲キトキハ久シク冷水ニ浸シ水ノ溫ヲ生スルニ至ル可シ又溫卷法ヲ施スモ可ナリ次
ニ拭ヒ乾カシ乾燥シタル布片ニテ包ミ漸次加溫ス可シ

水疱及第三度ノ凍傷ノ處置ハ火傷ニ同シ

凍瘡ニハ持續的溫浴ヲ可トス其他ヨード丁幾カンフル丁幾ヲ一日數回塗布シ潰瘍ニ
カンフル軟膏等ヲ貼スルモ佳ナリ

凍傷ノ豫防法ハ入浴ヲ怠ラズ身體手足ヲ清潔ニシ濡レタルトキハ直ニ之ヲ拭ヒ乾カ
シ靴及靴下ヲ清潔ニシ常ニ乾燥シタルモノヲ用ヒ入浴ノ後ニハ手足耳翼等ニ軟膏劑
ヲ塗ル可シ又平素冷エタル手足又ハ寒冷ノ爲メ感覺ヲ失ヒタル手足耳鼻等ハ決シテ
急ニ溫ム可カラズ飢餓睡眠不足假眠疲癆飲酒等ハ凍沍假死ノ因トナリ易シ故ニ寒地
ニ勤務スルモノハ大ニ注意ス可キコトナリ

第十一節 咬傷及刺創

○蛇咬傷

原因 蛇咬傷ハ種々ノ症狀ヲ呈シ往々死ヲ招クモノニシテ本邦ニ於テ著明ナルハ蝮

飯匙蛇海蛇魚ノ三ナリ蝮ハ本邦至トコロニ棲居シテ人ヲ害スト雖モ比較的良好ノ經
過ヲ取ルモノナリ飯匙蛇ハ沖繩縣及鹿兒島縣大島臺灣臺灣ニハ尙數種アリニ多ク常
ニ乾燥セル土地ニ住シ時アリテ海中ニ出入ス該地方ニ於テ之レカ爲ニ斃ルモノ尠
トセス懼ル可シ被害ハ夏時六七月ノ候最モ多ク八月以後十一月ニ至ル迄漸次減少ス
ト云フ

症狀 凡テ毒蛇ハ毒腺ヲ有シ一種黃色ノ毒汁ヲ咬嚙ノ際注入スルモノニシテ咬傷部
ニハ二個ノ小赤點ヲ見直ニ劇痛潮紅藍紅色浮腫ヲ發シ漸次蔓延シテ全身ニ波及シ創
口ハ腐敗シテ臭氣ヲ放チ周圍ニ黑褐色ノ膿胞ヲ生シ時トシテ一指一肢ノ脱落ヲ見ル
全身症狀ハ四肢倦怠胸内苦悶ヲ以テ起リ或ハ發熱シ或ハ然ラズ呼吸ハ迫リ脈膊不正
顔面ハ潮紅シ口舌乾燥嘔吐アリ腹痛下痢ヲ來シ黃胆ヲ發シ遂ニ心及呼吸筋ノ麻痺ヲ
以テ死ニ至ルモノナリ

療法 被傷後直ニ其上部ヲ繃縛シテ血行ヲ杜絶シ同時ニ自家ノ口又ハ吸角ヲ以テ毒
質ヲ吸收ス可シ毒質ハ口ニ入り胃ニ至ルモ害ナシ吸出ノ後ハ創口ヲ開大シアンモニ
ア水苛性加里等ヲ以テ腐蝕シ或ハ燒火箸ニテ燒灼シ或ハ一部ヲ切除ス可シ二十倍ノ
過マンガン酸カリウム水八〇乃至一二〇ヲ創圍ノ皮下ニ注入スルモ頗ル効アリ或ハ
廣キ切開ヲナシタル後過マンガン酸カリウムヲ塗擦シクロール石灰ヲ以テ創口ヲ洗滌

スルモ可ナリ
全身療法トシテハ酒類樟腦等ノ興奮藥ヲ與ヘ人工呼吸法ヲ持續シ以テ呼吸筋ノ痲痺ヲ防ク可シ

以上ノ方法ニ加フルニ飯匙蛇ノ咬傷ニハ北島博士ノ發見セル傳染病研究所發賣ノ血清ヲトリ三時間以内ニ四〇〇乃至八十瓦ヲ注入ス可シ

○鼠毒病

症狀 鼠毒咬傷ハ輕微ニシテ痕ヲ止メスト雖モ症狀ハ一乃至三週ニシテ發ス發熱嘔吐頭痛食思欠乏口渴小便不利全身浮腫シ諸部ニロイマチス様痛等ヲ發現スルモノナリ熱ハ恰モ「マラリア」ノ如ク反復シテ發シ其發作數十回ニ及ブコトアリ皮膚ニハ處々ニ扁平限局セル硬結ヲ生ス

療法 本病ハ發病スルニ至レハ醫治ヲ乞フヘキモノナリト雖萬一咬傷ヲ受ケタル時ハ直ニ腐蝕法ヲ行ヒ又ハ點灸ヲナシ且ツ猫ヲシテ局部ヲ嘗メシメ或ハ其唾液ヲ塗布スレハ効アリト云フ

○犬毒病

所謂狂犬ノ咬傷ニヨリテ發スル病ニシテ本病ニ罹ル時ハ死ヲ免ル能ハサルモノナルヲ以テヨロシク豫防ニ注意シテ異狀アル犬ニハ近寄ラサル可ク誤テ咬傷ヲ受クレハ

速ニ其部ニ一般毒創ノ處置ヲ行フ可シ傳染病研究所ニ於テハ之レガ豫防注射ヲナスト雖モ其恩澤未タ邊郷ニ及ハザルヲ憾トス

○蜂螫

被傷局部ニ疼痛ヲ發セハ速ニアンモニア水ヲ塗布シ次テ鉛糖水ノ卷法ヲ施シ全身蒼白嘔吐尿不正ヲ呈スルモノニハ酒類樟腦等ノ興奮藥ヲ與フベシ

飯匙蛇毒血清使用心得 (寫)

血清使用法

- 一傳染病研究所ノ飯匙蛇毒血清ハ一瓩ノ容量四〇立方センチメートルニシテ一回ニ注射スヘシ但シ症狀ノ劇甚ナルモノニ在テハ反復注射スルヲ要ス
- 血清注射ノ遲速ハ治療ノ効果ニ非常ノ影響アルモノナレハ時期ヲ誤ラサル様注意ス可シ
- 一注射ノ部位ハ成ル可ク咬傷ヲ受ケタル近傍ヲ宜シトス若シ其部位ノ注射ニ不便ナル時ハ胸側大腿内側又ハ上膊ノ皮下等適當ナル場所ヲ撰ミ注射スヘシ但シ注射前其局部ヲアルコールニテ洗拭シ注射後ハ注射針痕部ニ二十倍ノヨードフォルムコロチエムヲ滴下シ其所ニ凝固セシム可シ
- 一注射器ハ使用前アルコール又ハ二十倍ノ石炭酸水ニテ叮嚀ニ洗滌シ然ル後百倍ノ

石炭酸水ヲ以テ能ク洗滌ス可シ
豫防ノタメ用ユル時ハ一〇〇立方センチメートルヲ注射スベシ其効力期間ハ凡ソ
一ヶ月トス

血清保存法

一此血清ハ光線ニ觸ル時變質スルノ恐アルヲ以テ冷暗所ニ注意シテ保存スルヲ要ス
右ノ方法ニ依リ保存シタル血清ハ一ケ年間其効力ヲ持續ス可シ

注意

一飯匙蛇ノ咬傷ヲ受ケタルトキハ創傷ノ上部ヲ紐又ハ手拭ヲ以テ緊縛シ創口ハ少ク
切開シ出血セシメタル後能ク洗滌シ更ニコロル石灰水(一〇ヲ六〇〇ノ水ニ溶解
シタルモノ)又ハ百倍ノ鹽化金水ヲ注キ暫時創口ヲ浸シタル後普通ノ如ク防腐繃帶
ヲ爲ス可シ

一此血清注射後凡一週間内外ニシテ注射局部若クハ全身ニ麻疹様ノ皮疹ヲ發スル
コトアリ然レトモ概ネ二三日ニシテ消散スルヲ以テ別ニ治療ヲ要セズ

第十二節 出血

症狀 出血ハ血管ヲ傷ルガ爲ニ來ルモノニシテ動脈出血、靜脈出血、毛細管出血ノ三様
アリト雖モ通常三者共ニ發スル故ニ辨知シガタシ但シ大ナル血管ニ於テハ識別スル

ヲ得ベキモノトス

一動脈出血ハ稍線狀ヲナシテ噴出シ動悸ニ應シテ脈ヲ搏ツ如キ弛張アリ而シテ其色
ヤ鮮明ナリ

深部ニアルトキハ鮮血迸リ出ツルモ噴出スルコトナシ

二靜脈出血ハ血液絶ヘズ同一ノ勢ヲ以テ徐々ニ流出シ其色暗赤色ナリ

三毛細管出血ハ赤キ汁ヲ吸ハセタル海綿ヲ搾ル如ク平等ニ滲出スルヲ以テ明ナリ

療法 一毛細管出血及稍大ナル靜脈出血ハ創部ヲ高ク舉ケ(四肢ナラハ堅テ)綿紗ヲ
當テ疊三角巾或ハ卷軸帶ヲ強ク纏テ壓抵ス可シ

二稍大ナル動脈モ亦多クハ前法ニテ止血ス又出血部ヨリ心臟ニ近キ關節(四肢ニテ)ノ
屈側ニ丸メタル布片ノ類ヲ挟ミ關節ヲ強ク屈曲シテ固定スルモ目的ヲ達シ得ベシ

三大ナル動脈出血ハ醫士ニヨリテノミ處置シ得可キモ空ク放置スルトキハ失血ノ爲
死スヘキヲ以テ一時ノ止血法ハ心得可キコトナリ此目的ニハ指壓法、彈力帶法及創
内止血法等應用サル

止血法

指壓止血法

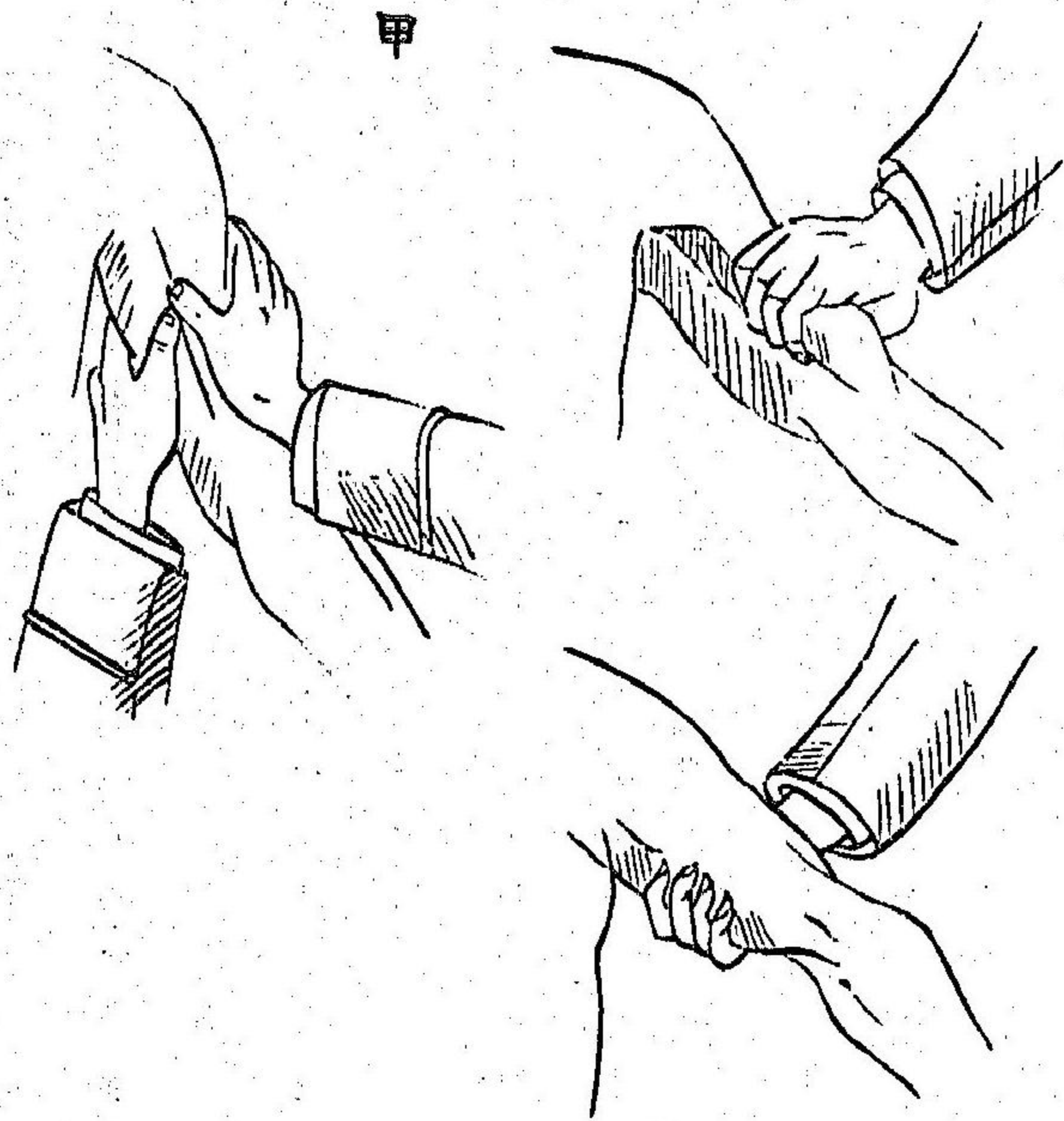
指壓ハ動脈出血ニノミ用ヒラル其法傷ヘル動脈ノ本幹ヲ其上流ニ於テ搏動ヲタドリ

圖七十二第
法壓止ノ指

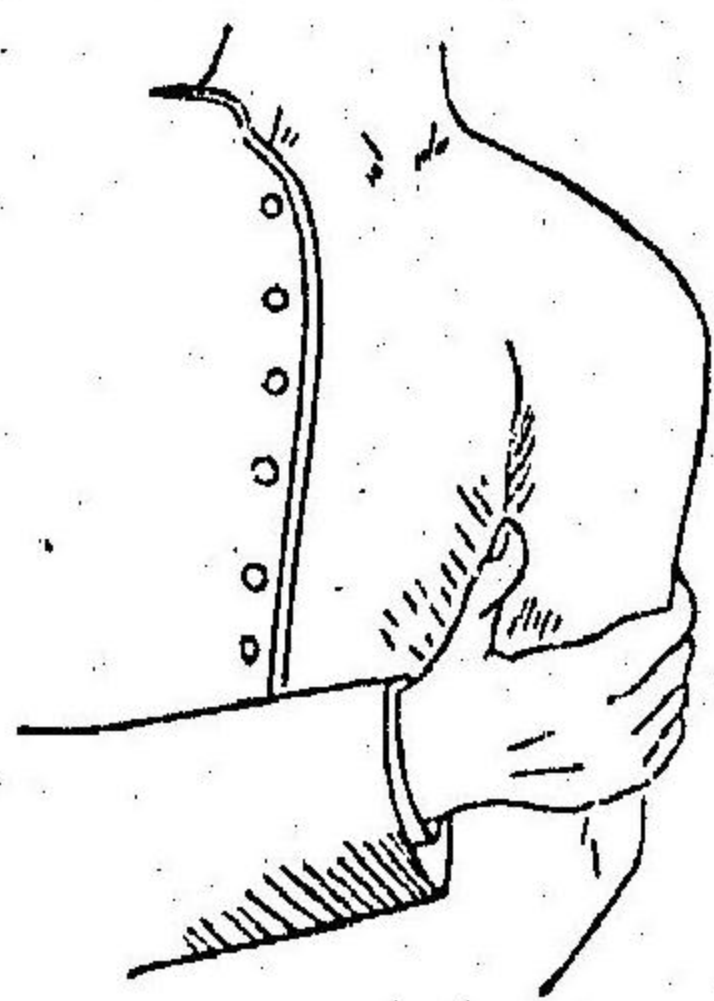


テ骨ニ向ヒ指壓スルモノニシテ充分力ヲ加ヘ止血スルニ至ル
其應用左ノ如シ
指ノ出血ニアリテハ指根ノ兩側ヲ堅ク指ヲ以テ壓ス(第二十七

法壓指手兩 圖八十二第

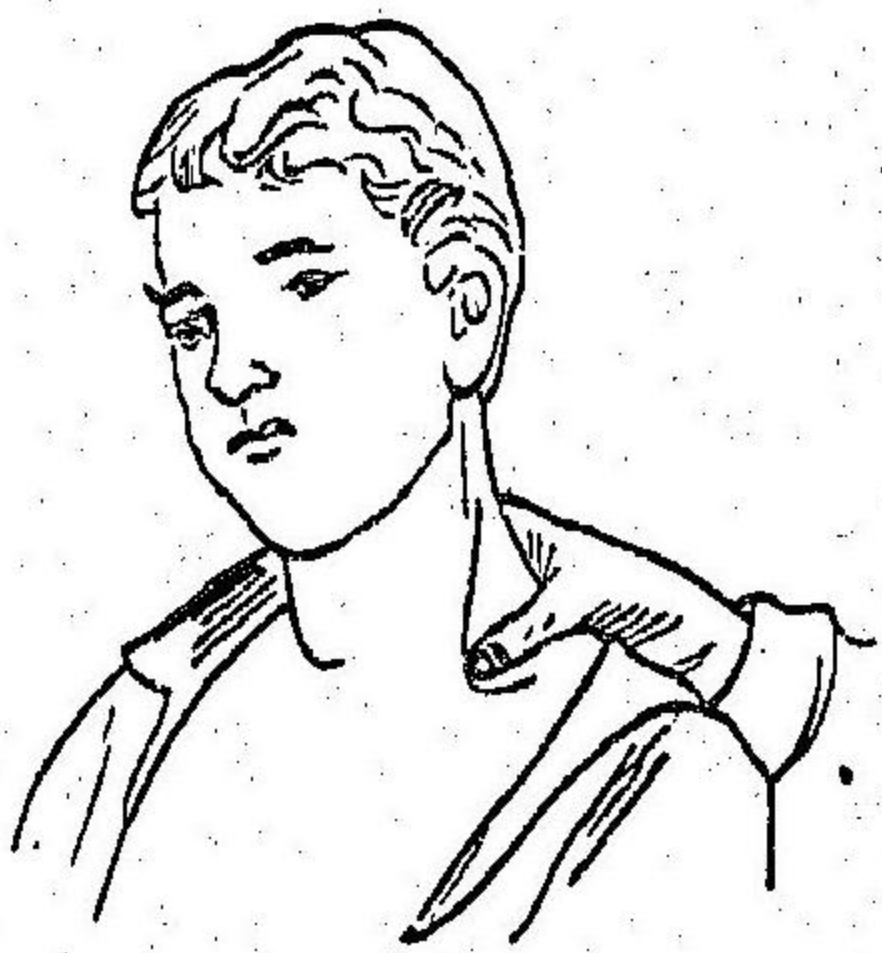


手或ハ前膊ノ出血ハ上膊ノ内側ニア
ル淺キ溝ニ四指ヲ當テ前又ハ後ヨリ
握リ指頭ヲ動脈幹ニ接シ拇指ヲ外側
ニ當テ強
乙
壓ス但シ
之ト反對
ニスルモ
佳ナリ又
患者自身
ニ他手ヲ以テ壓スルコトヲ得可シ(第
二十八圖ノ甲乙)



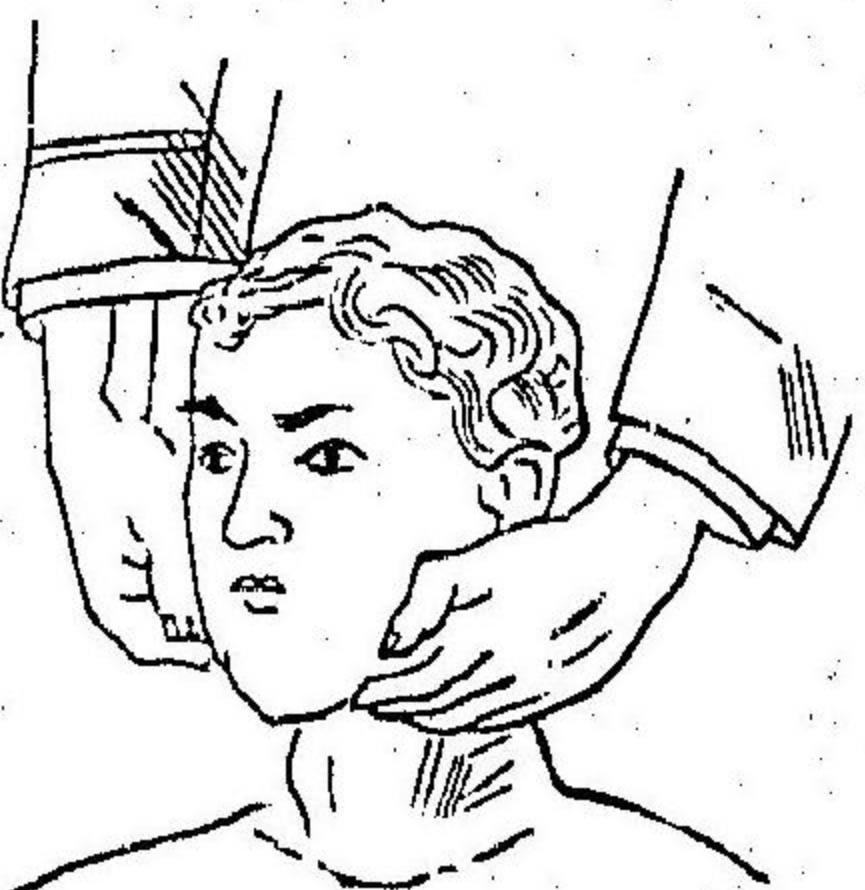
上窩ニ拇指端ヲ當テ深ク内下方ニ壓ス可シ(第二十九圖)

法壓指脈動下骨鎖 圖九十二第



口ノ近傍ヨリスル時ハ下顎骨
隅角ノ少ク前方ヲ骨ニ向ケ壓
スヘシ(第三十圖)
下肢ヨリ出血スルトキハ鼠蹊
ハ中央部ニ兩拇指ヲ當テ壓ス
可シ(第三十一圖)

法壓指頸下 圖十三第

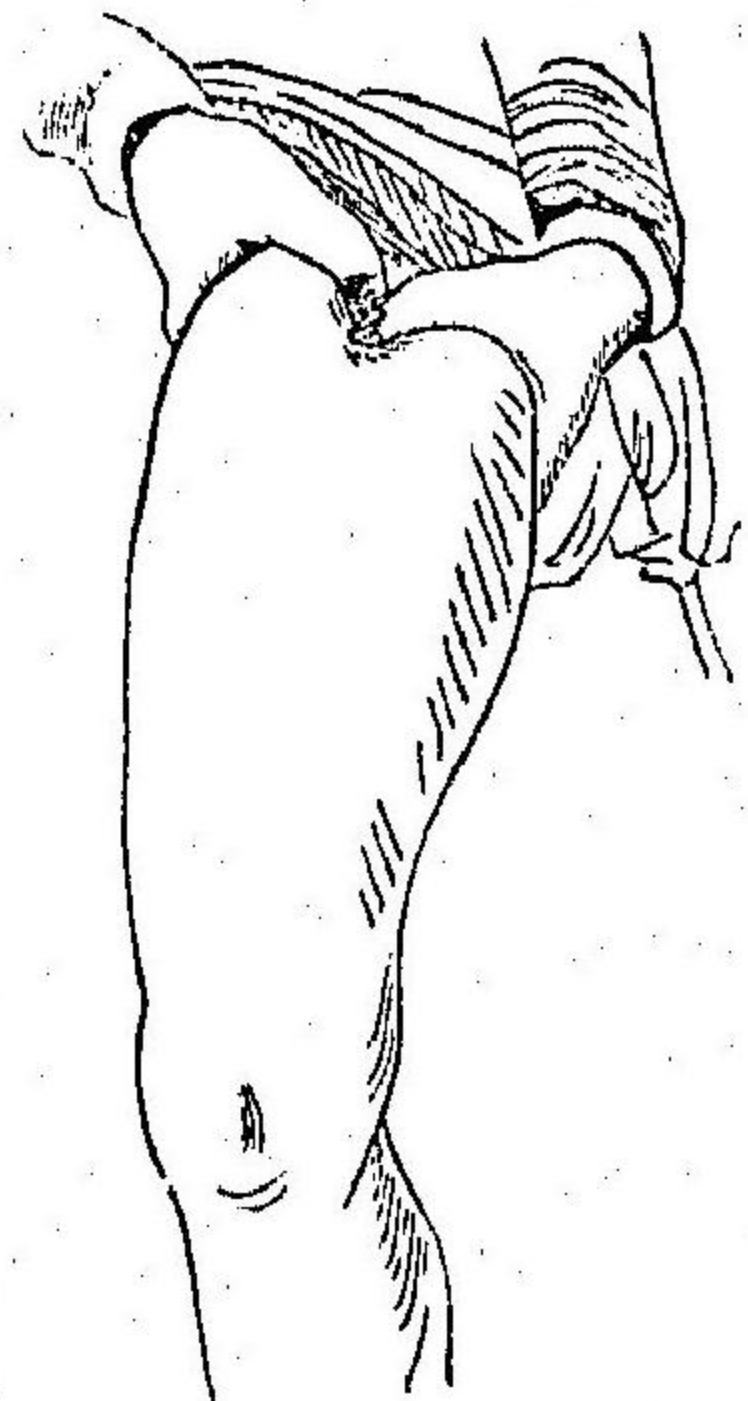


鼠蹊及其附近ヨリノ出血ニハ手拳ヲ腹部臍下ニ
當テ腹部大動脈ヲ脊柱ニ向テ強ク壓ス可シ

彈力帶止血法

此目的ニハ彈力性ノ止血帶アルモ止ムヲ得サル
時ハ卷軸帶三角巾手巾ズボン吊等ヲ代用スルヲ
得可シ但シ此場合ニアリテハ動脈管部ニ布片其他木石等ノ小枕ヲ當テ緊縛スレバ確
實ナリトス

法壓指部蹠鼠 圖一十三第



創内止血法

大血管ノ出血ニヨリ前記ノ諸方ニヨリ止血セサルトキハ綿紗ヲ創ニ當テ其ノ上ヲ手

ニテ壓シ以テ一時ノ急ニ應シ醫師ヲ招クヲ要ス

第十三節 創傷傳染病

創傷傳染病トハ創傷ヨリ細菌ノ浸入スルニ由テ起ル疾病ニシテ小創ト雖モ防腐消毒法ヲ行ハサルニ於テハ忽チ細菌ノ浸入ニ遇ヒ化膿ヲ來シ或ハ全身性病ニ陥リ遂ニ死亡スルニ至ル

○化膿性炎

輕キモノハ創部ニ局限スルモ其ノ膿汁ノ深部ニ止ルトキハ膿瘍ヲ形ルモノナリ此時ニ方リ切開シテ排膿ノ方法ヲナサ、ル時ハ益深部ニ浸入シ經過ヲ長カラシメ且ツ膿道ヲ形成ス

○淋巴腺炎及淋巴管炎

炎症ヲ來セル淋巴管ハ創部ノ四圍ニ現出シ疼痛アリ又淋巴腺ハ硬塊所謂イヌゴトナリテ腫脹疼痛アリ遂ニハ化膿ニ陥リ危險ヲ招クコトアリ

○丹毒

創面ヨリ丹毒菌ノ浸入スルニ由テ發スル病ニシテ急卒ニ惡寒發熱ヲ來シ創面周圍ノ皮膚ハ蔓延性ニ隆起シ蔷薇紅色ヲ呈シ灼痛アリ指ヲ以テ壓スレハ疼痛増劇シ紅色消失スルモ指ヲ去レバ忽チ複色ス而シテ其蔓延スルニ及ンデハ形狀不整ニシテ火焰狀

ノ突起ヲナシテ進行スルコト實ニ速カナリ數十時間ニシテ一肢又ハ顔面頭部ニ至ル尤モ危險ナルハ顔面以上ノモノニシテ婦人ニ多ク爪榴等ノ小創ヨリ細菌浸入スルニヨリテ來ルモノナリ

○破傷風

破傷風菌ノ浸入ニヨルモノニシテ多ク汚水街上ノ塵埃竹木片牛馬糞便中ニ存在スルモノナリ創傷ノ之ニ感染スルヤ五日乃至十日ニシテ創面一旦治癒セル如キ狀ヲ呈スルモ突然身體諸筋ノ疼痛ヲ來シ下顎關節ノ運動不良トナリ顔面諸筋ハ引付ラレ一種ノ顔貌ヲ呈シ食物ヲ嚙下スルコト能ハス且ツ頭部及軀幹ハ強直シ屈曲スル能ハサルニ至リ遂ニ全身ニ強直樣痙攣ヲ發シ死亡スルモノナリ

○蜂窩織炎

多クハ小擦過傷又ハ爪圍ノ皮膚剝脱(逆ムケ)等殆ト目ニ見ヘサル小創ヨリ化膿菌ノ浸入スルニヨリテ來ルモノニシテ其浸入スルヤ菌ニ細菌ノ増殖スルノミナラス直ニ進テ淋巴腺ニ占居シ炎症ヲ來シ腫脹ヲ見遂ニ化膿ヲ來スモノナリ

之レカ一局部ニ來ルモノハ一般化膿ト同様ナルモ其手指及足趾ニ來ルモノヲ癰疽ト云フ

癰疽

主トシテ指趾ノ尖端ニ來リ寒天ノ候皮膚皸裂ヲ生シ易キ農夫、下婢、屠獸家、魚商、木匠、桶工等ニ多シ

症狀 病勢弱キモノハ一小部紅ク腫張シ疼痛モ甚シカラズ四五日ノ後頂點ニ黃色ノ膿點ヲ生スルモ強キモノニアリテハ腫張ハ僅少ナルモ緊滿甚ク光澤ヲ帶ヒ疼痛堪ヘガタク連夜安眠スルヲ得ズ發熱食思不良トナリ病毒深部ニ浸入シ血行ヲ妨グ遂ニ指趾ノ脱落ヲ見ルニ至ルノミナラス忽チ全肢ヲ胃シ生命ヲ損スルニ至ル

療法 指趾ノ尖端腫張シ緊滿強ク光澤アリ疼痛甚敷發熱アリト云ヘハ宜ク其腹面又ハ背面ノ中央ニ於テ縱經ノ切開ヲ行ヒ骨ニ達スヘシ敢テ膿ノ有無ヲ問ザルナリ然ル後ヨードフオルムガトゼヲ挿入シ日々交換スヘシ

第十四節 關節炎

急性關節炎

原因及症狀 主トシテ外傷骨病ノ波及、急性傳染病其他ロイマチス痛風淋病梅毒等ヨリ來ル

單純ノモノハ腫張波動ヲ來シ關節ノ運動著シキ妨ケナキモ爲ニ疼痛アリ化膿性ノモノハ戰慄發熱シ劇甚ノ疼痛腫張アリ皮膚潮紅灼熱シ化膿スレハ波動ヲ來ス

療法 通常患肢ヲ安靜ノ方位ニ固定シ氷卷法ヲ行ヒ水銀軟膏イヒチオール等ヲ塗擦

シ疼痛消退セバ彈力性壓迫繃帶ヲ行フ可シ化膿性ノモノニアリテハ醫師ノ切開ヲ受ク可シ

慢性關節炎

原因及症狀 外傷梅毒痲病ロイマチス結核ヲ多トス痲病ニ原因スルモノハ多クハ膝關節ニ來ルコト多シ殊ニ淋膿ノ分泌多量ナル時ニ注意セサレハ併發スルコト多シ
療法 安靜固定及原因療法ヲ行ヒ兼テ前條ノ消炎法ヲ行フ可シ

第五篇 看護法大意

第一節 一般ノ看護

病者ノ看護ハ治病上ノ一大要件ニシテ之ヲ等閑ニスルニ於テハ再ヒ救フ可ラザルニ至ルコトアリ要スルニ其看護法ノ當ヲ得ルト然ラザルハ患者ノ全經過ヲ左右ス例之夜間感冒ニ罹ラシメ發熱ヲ來シ藥劑ノ用法及時ヲ誤リ爲ニ不測ノ變症ヲ醸シ遂ニ死ヲ招クガ如キコトアレバナリ病室ハ清潔ヲ保チ且ツ塵埃ノ飛散スルヲ防ク爲時々濡雑巾ニテ拭フヲ可トス

痰壺ハ毎日一回汚水ヲ棄テ洗ヒ適度ノ水ヲ盛り置ク可シ殊ニ傳染性ノ患者肺結核肺炎等ニアリテハ二十倍石炭酸ヲ盛り置クヲ要ス

患者ノ排泄物(糞尿等)ハ病室ニ置ク可カラス便器ハ其都度清洗シ且ツ消毒ス可シ

病室ハ時々適當ニ空氣ノ交換ヲナス可シ但シ直接病者ニ感ズ可キ氣流ハ避ケザル可カラス殊ニ朝ハ窓ヲ久シク開キ十分掃除シタル後閉ツ可シ其他食後便通後等ハ一旦空氣ヲ交換スルヲ佳トス

病室ノ溫度ハ夏ハ平等ニ涼シク冬ハ一定ニ暖ナル可シ溫度ハ通常攝氏十八度乃至二十度ヲ適當トス

日光ハ心身ヲ活潑ナラシムルモノニシテ重症者ノ快復期ニアルモノ及肺結核患者等ハ日光浴ヲナスヲ良トス

患者ハ臥褥上ニ頭部ヲ適宜ニ高クシ水平ニ臥セシムルモノトス然レトモ呼吸困難ナルトキハ上身ニ適度ノ枕ヲ插ミ半坐位ヲ取ラシムルコトヲ要ス

患者ノ身體ハ清潔ナラサル可カラス輕症ノモノニアリテハ毎朝自ラ顔及手ヲ洗ヒ齒ヲ磨キ口ヲ嗽カシム可シ重症者ニアリテハ晝ニ之ヲナサ、ルノミナラヌ尿管ノ爲ニ頗ル汚染シ易キモノナレハ看護者ハ之ヲ洗ヒ温メタル衣服ヲ著セ屢敷布ヲ交換シ褥瘡ヲ發シ易キ部位ニ注意ス可シ更衣ハ身體ノ清潔ト相俟テ行フ可キモノナリ重症者又ハ四肢ニ創面等アルモノニハ脫衣ハ健側ヲ先ニシ著衣ニハ患側ヲ先ニスルヲ法トス

患者惡寒或ハ寒戰スル時ハ衣衾ヲ増ス可ク尙強キトキハ懷爐湯婆温石ヲ與フ可シ但シ火傷セシメサル様注意ヲ要ス

飲食ハ三食ノ外滋養品トシテ牛乳肉汁卵ヲ用フ嗜好品ハ醫士ノ許可アルニアラサレハ與ヘサル方針ヲトル可シ

重症者殊ニ重キ熱病ニテ唇舌ノ乾ケルモノハ精神ノ明ナラサルコト多シ之ニ飲料ヲ與フルニハ左手ヲ項下ニ入レ靜ニ頭部ヲ擡ゲ少量ツ、度々ニ匙或ハ藥吸吞ニテ與フ

可シ然ラサレハ飲料氣道ニ入り窒息ヲ來ス虞アリ

今普通看護者ノ知ラサル可カラサル事項ヲ示セバ左ノ如シ

褥 瘡 (褥瘡)

重症患者ニシテ久シク病臥シ身體ノ動作自由ナラサルトキハ薦骨部尾骶骨部踵部肩胛部等ノ皮膚赤色トナリ疼痛ヲ發シ適當ノ處置ヲナサ、ルニ於テハ皮面爛レ肉腐レ骨ニ達シ惡臭ヲ來シ遂ニ其爲死ヲ來スコトアリ之ヲ褥瘡ト云フ之ヲ防カンニハ臥位ヲ數々變換シ敷布及衣服ノ變ヲ延ベ縫目ヲ避ケ身體ヲ清潔ニス可シ殊ニ兩便後ハ注意シテ清潔ヲ守ル可シ若シ其兆アラバ水ニ少量ノ醋ヲ加ヘ洗ヒ且ツ酒精ヨード丁幾ヲ一日數回塗布シ布片ニテ包ミ置ク可シ脊髄病患者等ニ多シ

睡 眠

睡眠ハ心身ノ疲勞ヲ醫シ精神ヲ鎮靜シ體力ヲ補フモノニシテ患者ノ平眠ハ多ノ場合良徵ヲ示スモノナリ時ニ之ヲ促スノ必要ヲ見ルコトアリ其方法病者ヲシテ適當ノ位置ヲ取シメ室内ヲ稍暗クシ音響ヲ發セサル様注意シ私語ス可カラス四肢ヲ輕ク摩シ發汗シタル時ハ襯衣上衣敷布等ヲ取換ヘ靜ニ談話シ或ハ物ヲ讀ミ聞カセテ慰安ノ方法ヲ取ル可シ

呼 吸

呼吸ハ其靜速深淺整否等ニ注意スルヲ要ス健康大人ノ呼吸ハ一分間十五乃至十八回トスルモ呼吸器病等ニ於テハ増加ス可シ之ヲ測ルニハ胸部若クハ上腹ニ輕ク手ヲ觸レ可成患者ノ氣附カサル様算フ可シ

咳嗽喀痰

咳嗽アル患者ニハ水或ハ消毒液ヲ盛リタル痰壺ヲ給シ決シテ嚥下セシム可カラス重症者強キ咳嗽ヲナストキハ一手ニ其前額ヲ支ヘ他手ニ痰壺ヲ取り口前ニ保チ吐出セシムヘシ

心動及脈搏

健康ナル大人ノ脈搏ハ一分時間ニ六十乃至八十至トス患者ニヨリテハ増シテハ百二十以上ニ及ヒ減シテハ五十以下ニ至ルコトアリ脈ヲ算スルハ示指中指環指ノ三指頭ヲ並テ橈骨動脈ノ下端ノ内側ヲ輕ク壓シテ數フルヲ法トス

體溫

健康人ノ體溫ハ三十六度五分乃至三十七度二三分ヲ以テ常度トス患者ニヨリテハ上ルコトアリ熱或ハ下ルコトアリ貧血性ノ人老人等ニアリテハ一般ニ體溫低シ

體溫ハ體溫器ヲ以テ計ルモノナリ同器ニハ通常三十四度乃至四十二度ノ目ヲ盛リ更ニ其一度ヲ十分シアリ檢溫スルニハ腋窩ヲ拭ヒ乾カシメ水銀柱ヲ三十六度以下ニ下

降セシメ水銀部ヲ深ク腋窩ニ挿ミ上膊ヲ胸ニ押シ付ケ置キ(襯衣ヲ狭マサル機注意スヘシ)十分間ヲ經一旦其度ヲ檢シ更ニ三分時間ヲ經タル後前回ト其度一致スル時ハ之ヲ體溫トス可ク若シ一致セザル時ハ更ニ三分間放置シ水銀ノ上ルコト止ムノ後檢ス可シ時ニ肛門ニ體溫器ヲ挿入シ計ルコトアリ然ルトキハ腋窩ノ場合ヨリ約五分高シ檢溫ハ一日二回朝六時ト七時ノ間及夕五時ト六時ノ間計ルヲ法トス使用後ハ注意シテ水銀柱ヲ振り動カシ三十六度以下ニ下シ置キ丁寧ニ取扱ヒ取り落ス等ノコトアル可カラス例へ破損セザルモ水銀柱ノ切ルコトアレバナリ

第二節 治療補術

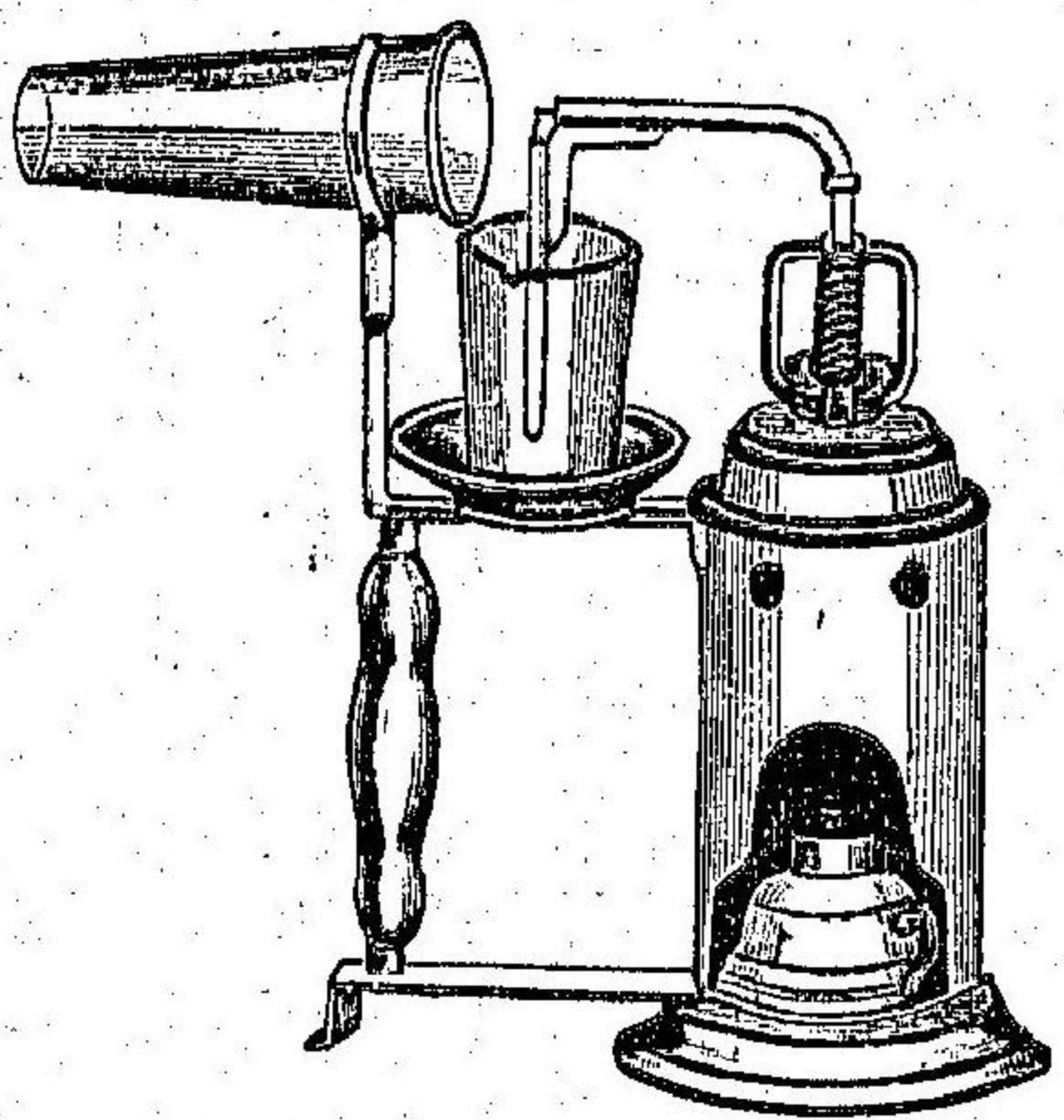
用藥

用藥ニ付テハ其藥劑ノ用法ニ注意シ時間ト分量ヲ誤ラサルコトヲ要ス臥シ居ル患者ナル時ハ靜ニ起キ上ラシム可シ嘔吐等アリテ不可能ナルトキハ頭部ヲ稍高ク支ヘ嚥下ヲ容易ナラシメ重病者ニアリテハ藥匙或ハ吸着ヲ用フ可シ患者ニヨリ藥劑ヲ服忌シ口ニ嚙ミタル後陰ニ吐キ出ス如キモノアリカハ患者ニアリテハ服用ノ後必ス談話ヲ交換シ嚥下シタルヲ確メタル後少量ノ水ヲ以テ含嗽セシムルハ差支ナシ
水劑ハ用時二三回振盪スベシ
散劑ハ湯ニテ嚥下セシムルカ或ハ少量ノ湯ニテ搔キ交セテ與フ可シ但シ初生兒等ニ

アリテハ少量ノ散藥ハ乳房ニ塗り置キ哺乳セシムルニ由テ目的ヲ達ス可シ
 丸劑ハ可及的舌ノ後方ニ乗セ置キ後湯ヲ與フヘシ
 滴劑ハ先ツ徐々瓶ヲ傾テ栓ヲ濡シ其栓ニテ瓶口ノ下縁ヲ濡シ細カニ其滴數ヲ算ヘ少
 量ノ水或ハ砂糖水ニ入レ與フ可シ
 小兒ニ水劑ヲ與フル場合號泣シ呼吸ト共ニ吹キ出スコトアリ然ルトキハ一時口ヲ閉
 チタル時ヲ見計ラヒ指ニテ暫時鼻孔ヲ摘ムトキハ止ムヲ得ス嚙下作用ヲナスヲ以テ
 目的ヲ達スヘシ

吸入法

器入吸圖二十三第



吸入トハ藥液ヲ霧或ハ蒸氣トナシテ吸込ミ呼吸器
 ノ諸病ニ直接ノ効ヲ致サシムルモノヲ云フ普通吸
 入藥トシテ水ニ和シ調合シタルモノヲ吸入器ヲ以
 テ霧トナシ患者ノ鼻口ニ向ケ自然ノ吸氣ニヨリテ
 吸入セシム(第三十二圖)
 吸入器ノ使用ハ其蒸氣罐ニ二分ノ一乃至三分ノ二
 ノ水或ハ湯ヲ盛リ(水多キ時ハ爆發スルコトアリ)ア
 ルコイル燈ヲ以テ沸騰セシメ嘴管ヨリ噴霧セシム

ルニアリト雖モ用ニ臨ンデハ噴霧ノ状態ニ注意シ防水性材料西洋手拭ノ如キヲ以テ
 患者ノ被服臥褥ノ上ヲ被ヒ吸入セシム可シ患者トノ距離ハ一尺乃至一尺五寸トス普
 通一日二三回行フヲ法トス

點入法

點入トハ藥液ヲ眼結膜或ハ耳ノ外聽道内ニ點入スルコトニシテ甲ヲ點眼ト云ヒ乙ヲ
 點耳ト云フ

點眼

點眼ハ點眼管ニヨル之レハ硝子管ノ一端尖ク他端ニゴム帽ヲ付シタルモノニシテ尖
 端ヲ藥中ニ入レ空氣壓ニヨリテ管内ニ吸入シ眼ノ外眥ニ近テ帽ヲ壓スルニヨリテ目
 的ヲ達ス
 患者ハ椅子ニ倚リ頭首ヲ少シク仰向セシメ左手ノ示指ニテ病眼ノ下瞼ヲ引下ケ眼球
 ヲ十分上内方ニ向ハシメ二三滴點入シタル後脫脂綿ヲ以テ過剩ノ藥液ヲ拭フベシ普
 通一日三四回行フモノトス

點耳

患者ヲ椅子ニ倚ラシメ頭首ヲ他側ニ傾ケシムルカ或ハ横臥セシメ左手ヲ以テ耳翼ヲ
 後上方ニ引上ケ點眼ニ於ル如ク點管ニテ藥液ヲ點入シ脫脂綿ヲ當テ頭首ヲ病側ニ傾

ケ後綿栓ヲ施ス可シ但シ點耳藥ハ必ス攝氏三十四度微温トナスベシ然ラサレハ頭痛眩暈嘔吐等ヲ來スコトアリ

注射及注入

注射注入ヲ施スハ口鼻耳肛門尿道龜頭ト包皮ノ間及皮下ナリ此目的ハ清淨ト消毒及治療ニアリ之ニ要スル器械ハ硝子又ハ金屬性ノ注射器或ハ硝子硬ゴム製ノ嘴管ヲ有スル灌水器ナリ皮下注射ニハ特別ノ注射器アリ

尿道注射法

痲疾治療ノ目的ヲ以テスルモノニシテ先ツ患者ヲシテ十分排尿セシメ煮沸水又ハ礪酸水ニテ度々尿道ヲ洗ヒタル後藥液ヲ注射器ニ吸ハセ嘴ヲ上ニナシテ空氣ヲ除キ右手ニ持チ左ノ拇指示指及中指ニテ陰莖龜頭ヲ背面ヨリ撮ミ少ク前上方ニ引キ嘴管ヲ尿道ニ入レ藥液ヲ漏サザル様徐カニ注射シ次テ注射器ヲ拔キ尿道口ヲ壓シ數分時間藥液ヲシテ尿道ニ止マラシム可シ但シ注射中ニ陰莖ヲ我顔ニ向ク可カラズ痲毒眼ニ入ル虞アレハナリ術後ハ手ヲ洗ヒ消毒ヲ要ス

皮下注射法

皮下注射ハ醫師ノナス可キ技術ナルモ先ツ皮膚ヲ酒精ニテ十分清拭シ藥液ヲ注射器ニ取り例ノ如ク注意シテ器内ノ空氣ヲ去リ右手ヲ持チ皮膚ヲ左ノ示指ト拇指ニテ縱

ニ撮ミ上ケ皺襞ヲ生セシメ其皺襞ノ下ニ縱ニ斜ニ刺シ針ノ容易ニ左右ニ移動スルヤヲ試ミタル後徐々藥液ヲ注射ス創口ハ指ニテ押ヘ針ヲ拔キ伴創膏ヲ貼リ暫時其部ヲ摩擦シテ終ル

灌腸及注腸

大便ノ下泄ヲ促ス爲ニスル(催下)灌腸ハ水又ハ少量ノ食鹽、石鹼、オレオン油、ヒマシ油等ヲ加ヘタルモノ若シハグリシリソリンヲ用ユ共ニ微温ナルヲ要スグリシリソリンニハ別ニグリシリソリン浣腸器ヲ以テス

下痢ヲ止ムルタメニスル(止痢)灌腸ニハ藥液ヲ用フ其量一定セスト雖モ常ニ微温ナルヲ用フ

飲食不能ナル患者ニハ肉汁、卵黃、乳汁等ヲ微温トシテ灌腸スルコトアリ之ヲ滋養浣腸ト云フ

注腸ハ多量ノ藥液ヲ腸ノ上部ニ作用セシムル爲ニ用フ之ニ用ユル灌水器ノ導水管ハ約四尺五寸位ヲ要ス此法ハ灌腸ニ代用サル、モノナリ共ニ溫度ハ手指ヲ入レ冷熱適度ナルヲ度トス

灌腸ヲナスニハ病者ヲシテ右側ニ臥セシメ兩脚ヲ開キ膝ヲ曲クサセ左手ヲ以テ臀ヲ開キ右手ニ灌腸器藥液ヲ入レ空氣ヲ除キ油ヲ塗リタルモノ(或ハ灌水器ノ嘴管藥液ヲ

入レ空氣ヲ除ク爲三四滴ノ液ヲ出シ先キニ油ヲ塗リタルモノヲ持チ徐々ニ肛門ニ挿シ入ル可シ(入り悪キ時ハ油ヲ多ク肛門ニ塗り徐ニ廻シツ、挿入スベシ)而シテ嘴管ヲ後上方ニ向テ入レ灌腸器ヲ用ヒタル時ハゴム球ヲ壓シ或ハ弛メ灌水器ニアリテハ之ヲ一二尺程舉ケ充分嘴管ノ入りタルヤヲ注意シツ、自然ニ流入セシム可シ灌腸及灌水ハ可及的長時間腸内ニ留ラシム可シ然ラサレハ効力弱シ

塗 擦

塗擦トハ藥物ヲ皮膚ニ擦込ミ吸收セシムルヲ目的トスルモノナルヲ以テ相當ノ忍耐ヲ要ス患者ニ苦痛ヲ與ヘサル様適宜ニ加壓シ靜ニ指ヲ輪狀ニ運動スベシ軟膏或ハ油劑ヲ塗擦シタル時ハ其ノ部ニ布或ハ綿ヲ置キ油紙ヲ當テ縛帶ス可シ

塗 布

塗布ハ毛筆或ハ綿球ヲ附シタル棒ヲ以テス塗布劑ハヨート丁幾樟腦丁幾硝酸銀水、コロヂニム等ナリ
塗布ハ必ズ其一度ニ塗ル可キ量ヲ分チ取り毛筆又ハ綿球ニ漬シ塗ルヲ法トス但シ傳染病等ニ用ヒタルモノハ再用ス可ラズ

含 嗽

含嗽トハ常水若クハ藥液ヲ含ミテ齒根舌口蓋咽頭ヲ洗フコトニシテ消毒收斂或ハ清潔ヲ目的トス其法患者ヲシテ適量ノ藥液ヲ含マシメ少ク頭首ヲ仰ケ呼氣ヲ營マシム可シ然ル時ハ藥液口内ニ於テ振り動カサレ目的ヲ達ス可シ通常三四回反復スルヲ法トス

撒 布

撒布トハ皮膚粘膜或ハ創面ニ藥劑ヲ撒布スルコトニシテ創ナキ皮膚ニハ毛筆若クハ綿球ニテ撒布スルカ或ハ綿紗ニ包ミテ打チ創面ニハ綿球ニ含マセ彈キ撒スヲ良トス

芥 子 泥

芥子泥ハ新ラシキ芥子末ニ少許ノ溫湯ヲ注キ搔キ交セテ固キ泥トシ適宜ノ木綿綿紗紋巴若クハ日本紙ニ約五厘位ノ厚ニ延ベテ用ヒ普通疼痛ノ堪ヘ難キニ至ル迄放置ス(十分乃至十五分取り去リタル時ハ溫湯ニテ洗フ可シ水泡ヲ生スル等ノコトアルトキハオレーフ油硼酸軟膏ヲ塗ル可シ)

冷 卷 法

冷卷法ハ身體ノ一部ヲ冷却シ炎症ヲ防キ疼痛ヲ去ル法ニシテ冷水卷法ト氷卷法ノ二アリ

入レ空氣ヲ除ク爲三四滴ノ液ヲ出シ先キニ油ヲ塗リタルモノヲ持テ徐々ニ肛門ニ挿シ入ル可シ入リ惡キ時ハ油ヲ多ク肛門ニ塗リ徐ニ廻シツ、挿入スベシ而シテ嘴管ヲ後上方ニ向テ入レ灌腸器ヲ用ヒタル時ハゴム球ヲ壓シ或ハ弛メ灌水器ニアリテハ之ヲ一二尺程舉ケ充分嘴管ノ入りタルヤヲ注意シツ、自然ニ流入セシム可シ灌腸及灌水ハ可及的長時間腸内ニ留ラシム可シ然ラサレハ効力弱シ

塗 擦

塗擦トハ藥物ヲ皮膚ニ擦込ミ吸收セシムルヲ目的トスルモノナルヲ以テ相當ノ忍耐ヲ要ス患者ニ苦痛ヲ與ヘサル様適宜ニ加壓シ靜ニ指ヲ輪狀ニ運動スベシ軟膏或ハ油劑ヲ塗擦シタル時ハ其ノ部ニ布或ハ綿ヲ置キ油紙ヲ當テ綑帶ス可シ

塗 布

塗布ハ毛筆或ハ綿球ヲ附シタル棒ヲ以テス塗布劑ハヨート丁幾樟腦丁幾硝酸銀水コロヂユム等ナリ

塗布ハ必ズ其一度ニ塗ル可キ量ヲ分チ取り毛筆又ハ綿球ニ漬シ塗ルヲ法トス但シ傳染病等ニ用ヒタルモノハ再用ス可ラズ

含 嗽

含嗽トハ常水若クハ藥液ヲ含ミテ齒根舌口蓋咽頭ヲ洗フコトニシテ消毒收斂或ハ清潔ヲ目的トス其法患者ヲシテ適量ノ藥液ヲ含マシメ少ク頭首ヲ仰ケ呼吸ヲ營マシム可シ然ル時ハ藥液口内ニ於テ振り動カサレ目的ヲ達ス可シ通常三四回反復スルヲ法トス

撒 布

撒布トハ皮膚粘膜或ハ創面ニ藥劑ヲ撒布スルコトニシテ創チキ皮膚ニハ毛筆若クハ綿球ニテ撒布スルカ或ハ綿紗ニ包ミテ打チ創面ニハ綿球ニ含マセ彈キ撒スヲ良トス

芥 子 泥

芥子泥ハ新ラシキ芥子末ニ少許ノ溫湯ヲ注キ搔キ交セテ固キ泥トシ適宜ノ木綿綿紗紋巴若クハ日本紙ニ約五厘位ノ厚ニ延ベテ用ヒ普通疼痛ノ堪ヘ難キニ至ル迄放置ス(十分乃至十五分)取り去リタル時ハ溫湯ニテ洗フ可シ水泡ヲ生スル等ノコトアルトキハオレーフ油硼酸軟膏ヲ塗ル可シ

冷 卷 法

冷卷法ハ身體ノ一部ヲ冷却シ炎症ヲ防キ疼痛ヲ去ル法ニシテ冷水卷法ト氷卷法ノ二アリ

冷水卷法

冷水卷法ハ布ニ水ヲ浸シ輕ク絞リテ數層ニ疊ミ局部ヨリハ稍大ナル如ク貼シ別ニ同シ大サノ布ヲ水ニ浸シ置キ五分時毎ニ交換スヘシ

氷卷法

氷卷法ハ布ヲ數層ニ重ネ氷ノ上ニ置キ冷却スルヲ俟テ貼シ度々取り換フ可シ又水ヲ氷囊ニ入レ用フルコトアリ又頭ニハ氷枕ヲ用フルコトアリ氷囊ハ氷ヲ胡桃大ニ碎キ半ヲ充シ空氣ヲ除キ口ヲ緊メ患部ニハ濕リタル布ヲ被ヒタル後其上ニ吊リ下ク可シ

濕卷法

濕卷法トハ濕布ヲ以テ身體ノ一部ヲ被ヒ體溫ヲ以テ溫マシムルヲ云フ濕布ハ適當ノ大ノ布ヲ疊ミ微溫ノ水又ハ藥液ニ浸シ液ノ滴ラサル度ニ絞リテ貼シ防水材料油紙ニテ被ヒ細帶ニテ固定ス
創面アル時ハ其ノ上ニ弱キ消毒液ヲ浸シタル綿紗ニテ被タル後此卷法ヲ施ス可シ濕卷法ハ毎日一回乃至數回交換スヘシ

溫卷法

溫卷法ハ身體ノ一部ヲ溫メ病勢ヲ緩メ或ハ吸收ヲ促シ或ハ化膿ヲ進ムルニ用ユルモノニシテ濕性溫卷法ト乾性溫卷法トニアリ

濕性溫卷法及巴布

濕性溫卷法トハ溫湯或ハ藥ノ煎汁又ハ浸汁ヲ綿紗或ハフランネル布等ニ浸シ適宜ニ絞リ貼スルヲ云フ此法ハ溫度高キニ過キス冷ニ過グルモ不可ナリ久シク同溫ヲ保タシムルニハ度々交換スルヲ要ス後油紙ヲ以テ其上ヲ被フ可シ
巴布ハ通例麥飯米飯ヲ用ユレハ輕便ナリ之ヲ硬キ粥狀ニ煮テ布ニ包ミ厚サ指ノ厚サ位ニシタルモノヲ用フ或ハ蒟蒻ヲ煮テ布ニ包ミタルモノヲ用フルコトアリ貼スルニハ自己ノ頰ニ當テ溫度ヲ試ムルヲ要ス

乾性溫卷法

乾性溫卷法トハ溫石、懷爐、或ハ湯婆、罐、硝子罐ニ熱湯ヲ入レタルモノノ熱砂、熱食鹽ヲ布ニ包ミテ用フ

吸角

吸角ハ清潔ナルモノヲ用フ可シ其法底ニ少許ノ綿ヲ入レ又ハ數滴ノ酒精ヲ注キ傾テ過剩ヲ去リ吸角ノ縁ヲ拭ヒ火ヲ點シテ貼スベシ

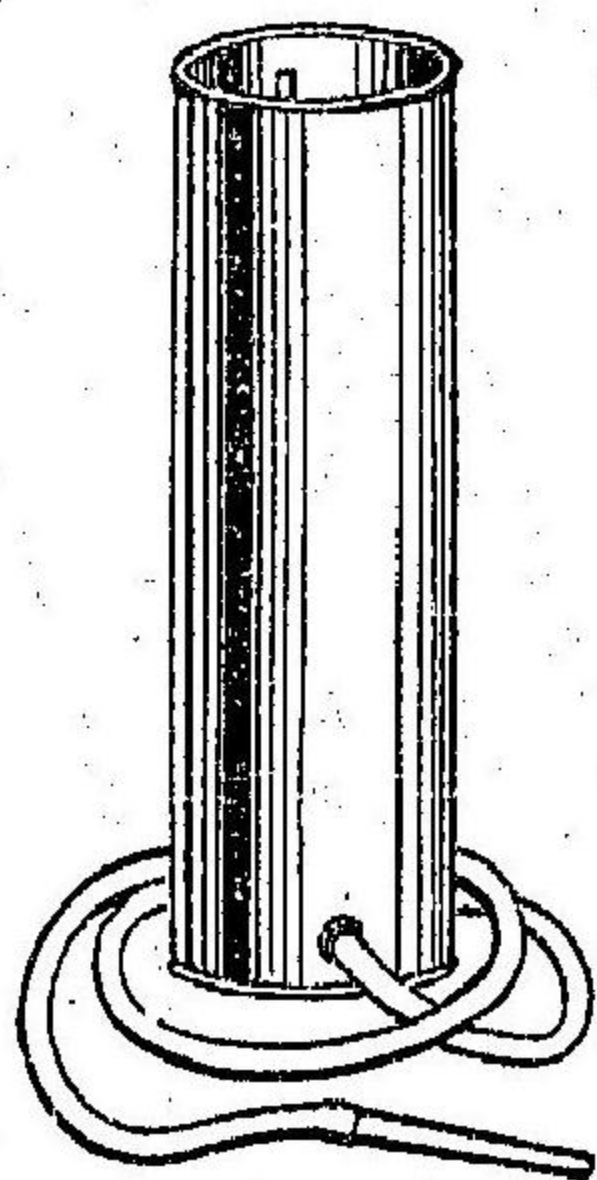
水蛭

水蛭ヲ貼スルニハ皮膚ノ毛髮ヲ剃去シ少許ノ牛乳或ハ砂糖水ヲ塗リ其上ニ放ツヲ良トス貼用前ハ一時水ヨリ出シ置ク可シ血ニ飽ケバ自ラ脱落スルヲ以テ強テ除クガ如

キコトナキヲ要ス若シ離脱ヲ要スルトキハ食鹽ヲ撒布ス可シ

浴治法

眞輪製水器



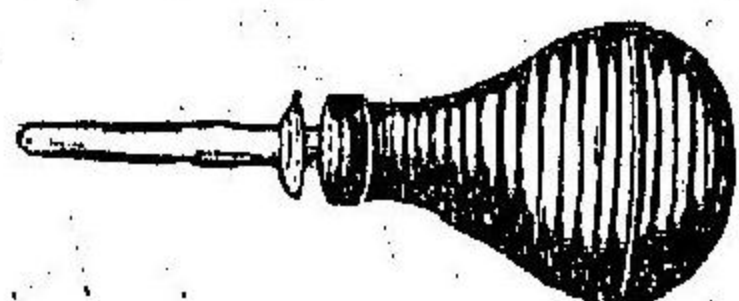
點眼壺



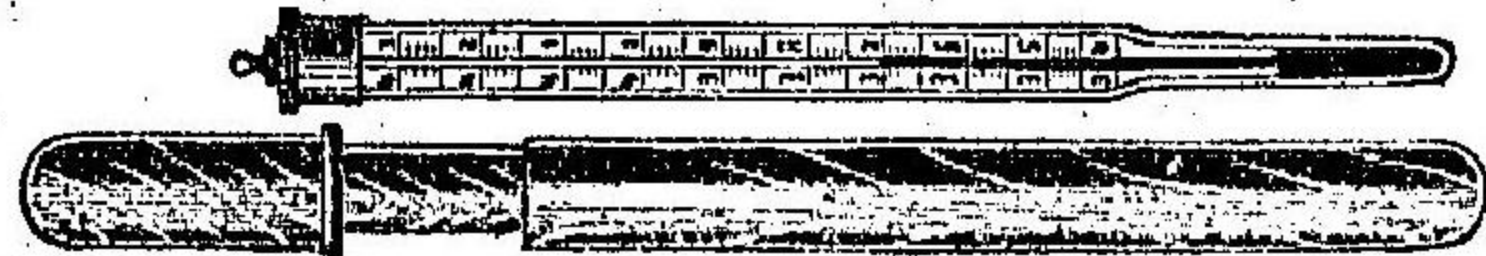
眞鍮盆



トイホス

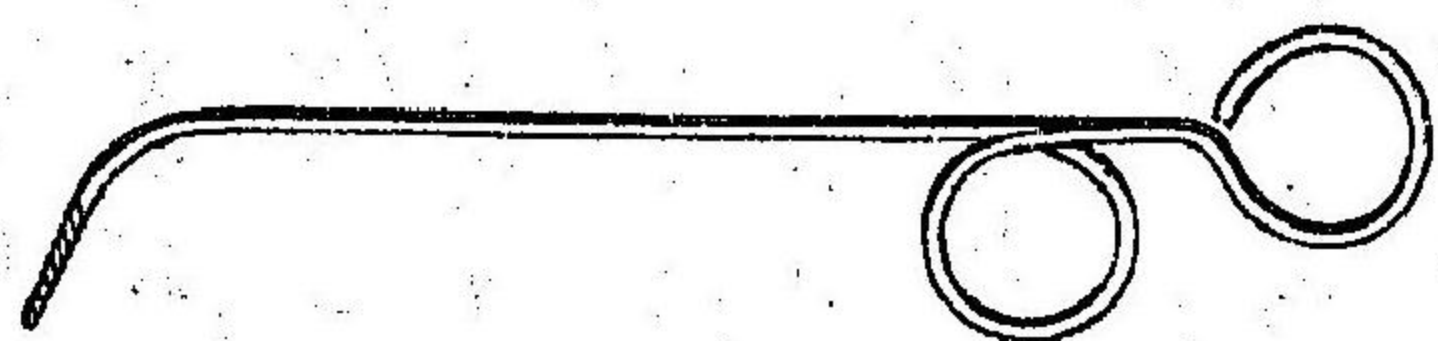


體溫器

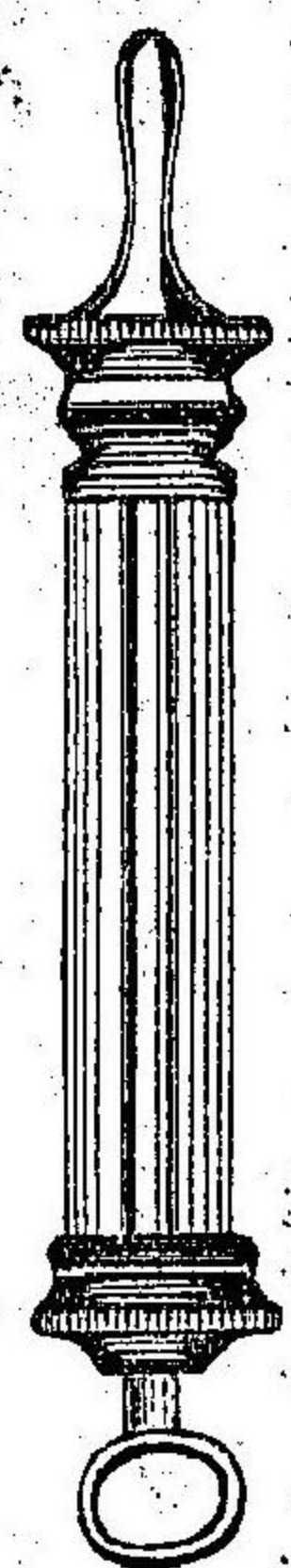


第三十三圖 看護用

咽喉塗布器



アリスリン灌腸器



水浴ハ溫度ニヨリ左ノ區別アリ

一 冷 浴 攝氏十度乃至二十度

二 半冷浴 同 三十度迄

三 微温浴 同 四十度迄

四 温 浴 同 四十五度迄

五 熱 浴 同 四十五度以上

浴水ニ藥物ヲ加フルコトアリ食鹽石鹼硫化加里草根木皮ノ類是レナリ但シ草根木皮

ハ豫メ囊ニ入レ鍋ニテ煮煎汁ヲ取リ汁ニ浴水ヲ加ヘ囊モ共ニ浴水ニ入レ置ク可シ

全身浴ハ浴桶ヲ用ユ入浴時間ハ冷熱浴ヲ五分間半冷浴八分間微温浴十分乃至十二分

温浴十五分間ヲ度トス

入浴中患者眩暈嘔氣ヲ發シ或ハ昏睡等來スコトアレハ注意シ直ニ出ス可シ

半身浴ハ浴盤ノ中ニ坐セシメ臍部又ハ心窩ニ達セシム坐浴ハ普通ノ鹽ニテ佳ナリ

第六篇 繃帶法

第一節 繃帶

繃帶トハ專ラ布片ヲ以テ創傷ヲ纏包スルモノニシテ其効用目的左ノ如シ
一 患部ヲ被ヒテ外來ノ害物例之汚物虫病菌日光等ヲ避クル用ニ供スルニアリ之ヲ

蓋護繃帶ト云フ

二 外用藥ヲ患部ニ貼シ之ヲ保持ス之ヲ保持繃帶ト云フ

三 創縁ヲ輕ク壓シテ創口ヲ合セ止血シ創液ヲ吸收ス之ヲ壓迫繃帶ト云フ

四 脱臼或ハ骨折ヲ整復シタル後固定ス之ヲ固定繃帶ト云フ

五 四肢ニ牽引ヲ行フ之ヲ牽引繃帶ト云フ

第二節 繃帶材料

繃帶材料及製品ハ左ノ如シ

一 綿紗(脱脂綿紗昇永綿紗ヨードフォーム綿紗)

二 脱脂綿及綿花(普通小袖綿ナリ)

三 生金巾(金巾三角巾)

四 木綿(木綿卷軸帶)

五 脫脂紋巴又ハリント布
 六 亞麻仁油紙
 七 伴創膏及英法伴創膏ビツク氏硬膏
 繃帶材料ノ應用左ノ如シ
 脫脂綿紗 脫脂綿紗ハ柔軟ニシテ吸液性强キヲ以テ濕布用トシ或ハ拭却及壓巾トシテ創傷其他ニ用フ昇汞綿紗ヨードホルム綿紗ハ防腐性アルヲ以テ直ニ創面ニ應用スベシ
 脫脂綿 脫脂綿ハ吸液力强キヲ以テ脫脂綿紗ニ代用シ或ハ併用シ又濕布繃帶ニ便ナリ但シ創面ニ直チニ觸レシム可カラズ
 小袖綿 小袖綿ハ彈力性强キヲ以テ患部ニ物ヲ隔テ、外ヨリ被ヒ或ハ副木繃帶等ニ用フ但シ直ニ創面ニ觸レザル様注意スヘシ
 三角巾 三角巾ハ生金巾ニテ造ル開キタルマ、用ヒ或ハ尖頂ヨリ折リ疊ミ帶トナシテ用フ殊ニ四肢ニ用フルヲ便利トス(第三十四圖)
 卷軸帶 卷軸帶ハ普通繃帶ト名クルモノニシテ平等ニ堅ク且ツ可成規則正シク卷クヲ要ス巾ノ廣狹種々アリ普通六裂四裂等ヲ用フ小ナル部位指趾ニアリテハ六裂ヲ用ヒ胸部等ニアリテハ四裂ヲ用フルコトアレトモ尤モ用途多キハ六裂ナリトス

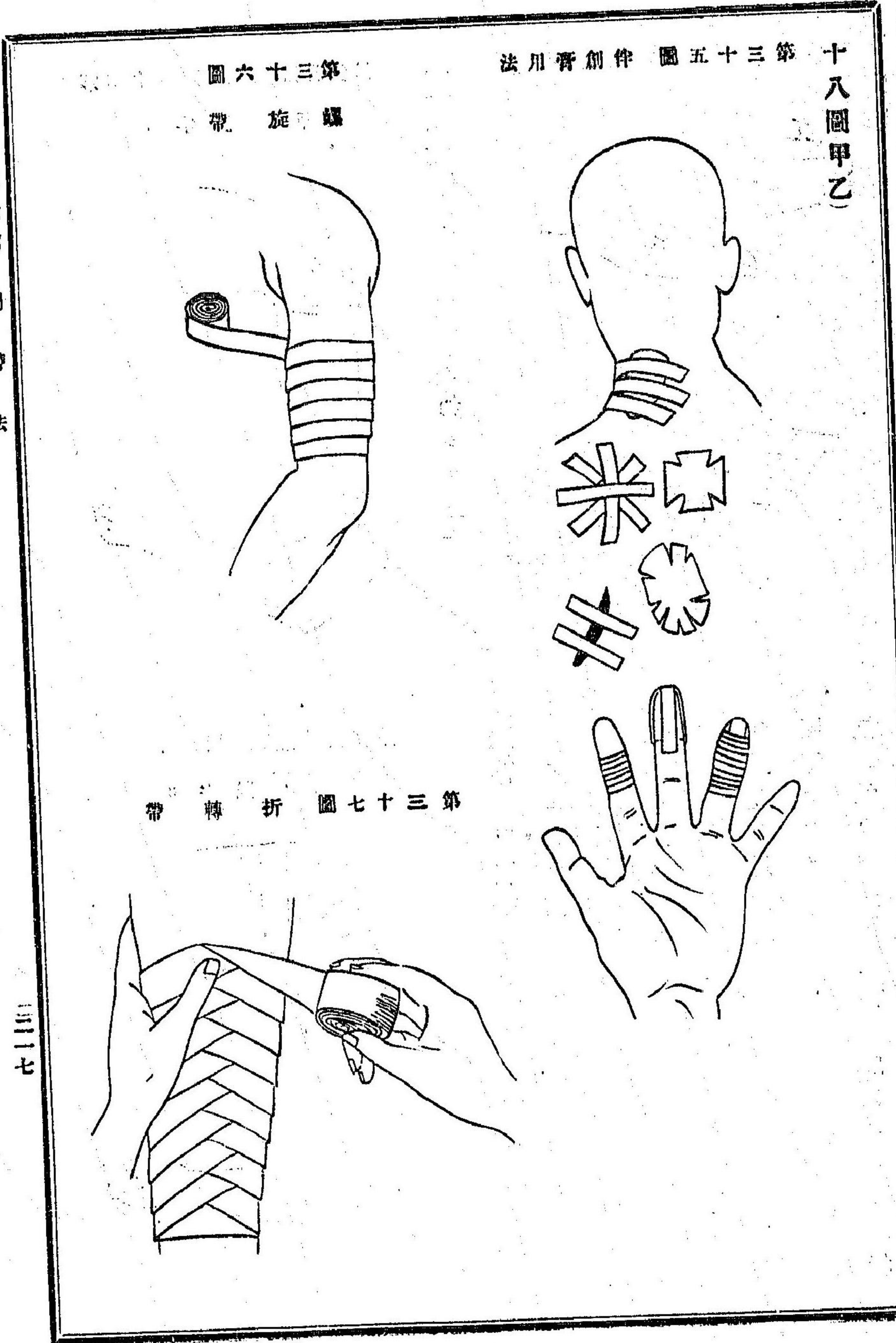
用フ
 脫脂紋巴及リント布 脫脂紋巴ハ膏藥ヲ展ルニ用フルコト多シ但シ絨毛ノアル面ヲ用フ
 亞麻仁油紙 油紙ハ防水性材料トシテ溫卷法及創傷繃帶ニ用ヒ又ハ外用藥ノ附着ヲ助ケ他部ニ散スルヲ防クニ用フ
 伴創膏 伴創膏ハ繃帶ヲ固定シ或ハ牽引ノ爲ニ用ヒラル時トシテ小創ヲ被ヒ又創面接合ノ目的ニ用ヒラル但シ創ヲ被フニハ其ノ下ニ薄キ綿紗ノ層ヲ敷キ帶形或ハ四角形トナシテ貼用ス凸隆部ニハ縁或ハ隅ヲ少ク切り込ム可シ(第三十五圖)
 伴創膏ヲ貼ルニハ其部ヲ充分乾シ毛髮ヲ剃去シ之ヲ剃去ル時ハ創部ニ注意ス可シ
 壓巾 壓巾ハ四角ノ脫脂綿紗ヲ疊ミ重ネタルモノナリ時ニ木綿生金巾ニテ造ルコトアリ創面ニハ綿紗壓巾ニ限ルモノトス通例一尺平方ノ布片ヲ用フ

第三節 繃帶ノ準備

繃帶行フニ方リテハ脫脂綿紗、綿花、脫脂綿、卷軸帶、防水性材料、油紙、伴創膏、昇汞綿紗、ヨードホルム綿紗、ヨードホルム、酒精、消毒液、(昇汞水、石炭酸水、リゾール水等) 灌水器等子、缺等ヲ準備スヘシ縫合ヲ要スル場合ハ縫合針糸ヲ要ス

第四節 卷軸帶ノ用法

卷軸帶ノ卷方解キ方

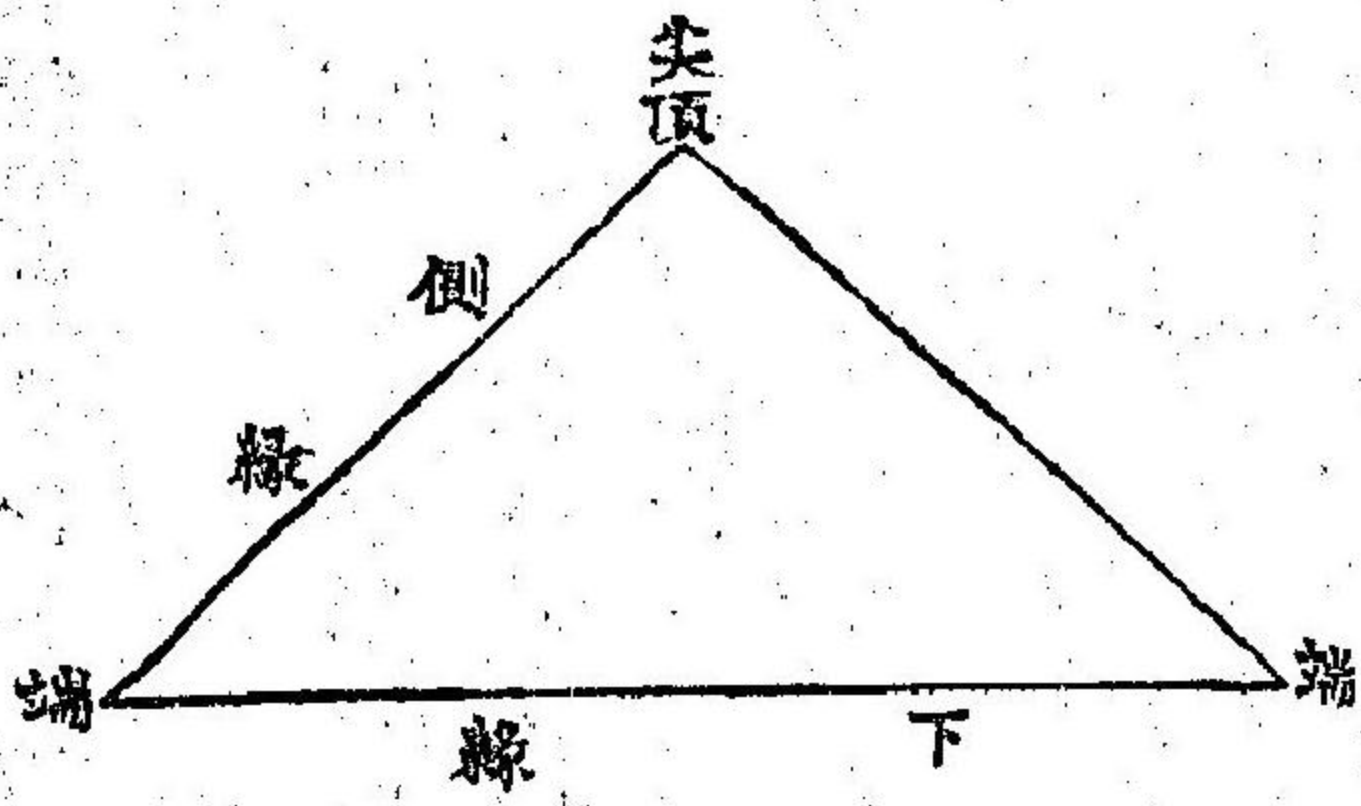


法川膏創件 圖五十三第 十八圖甲乙

圖六十三第 帶旋螺

帶轉折 圖七十三第

巾角三 圖四十三第



卷軸帶用法種類

卷軸帶ヲ用フルニハ右手ニ軸ヲ持チ尾ノ外面ヲ卷ク可キ部ニ置キ左手ニテ押サヘツ、數回卷行シ尾ヲ固定シ軸ヲ稍々斜ニ上方ニ向テ始終平等ノ壓ヲ以テ卷ク可シ卷キ了レバ尾端ヲ引キ裂キ其結節ノ創部ニ來ラサル様注意シテ結ブ可シ四肢ニアリテハ指趾ヨリ始メ緊緩宜シカル可シ蓋シ堅キニ過レバ疼痛腫脹ヲ來シ患者ヲ苦シムルコトアリ解除スルニハ注意シテ出血等ヲ起サ、ル様漸次一手ニ集メ持チ換ヘツ、解キ終ル可シ

- 環行帶 環行帶トハ一頭軸ヲ一處ニ置キ一回毎ニ前行ノモノヲ全ク被フヲ云フ普通繙帶ノ終始ハ此法ヲ應用ス
- 螺旋帶 螺旋帶トハ螺旋狀ニ行クモノニシテ前回ノ行路ヲ大約三分ノ二ツ、被ヒツ、進ムヲ云フ(第三十六圖)
- 折轉帶 折轉帶ハ前膊或ハ下腿ノ如ク大小齋シカラサル處ニ用ユルモノニシテ帶ノ一線緊マリ他線緩ムカ故ニ毎回折返シツ、進ムヲ云フ(第三十七圖)
- 交叉帶 交叉帶ニ二種アリ

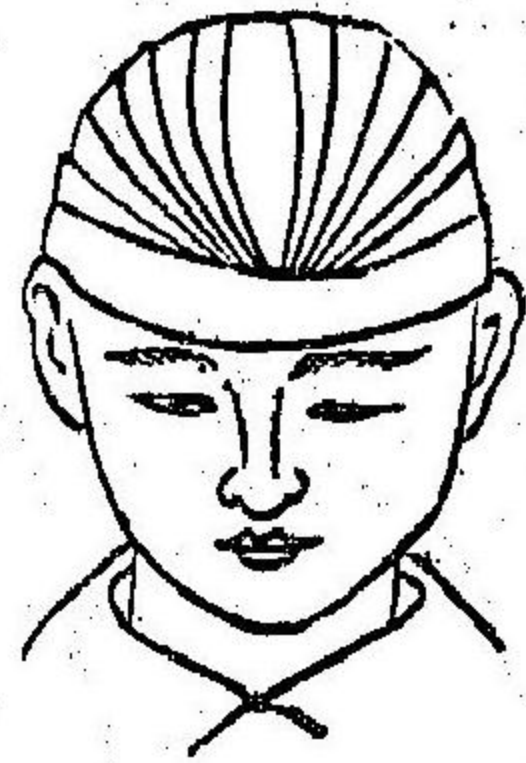
一 龜甲帶(8字帶)左圖ノ如シ多ク關節部ニ應用セラル第三

ヲ以テ了ル

各部ノ綁帶
頭ノ綁帶

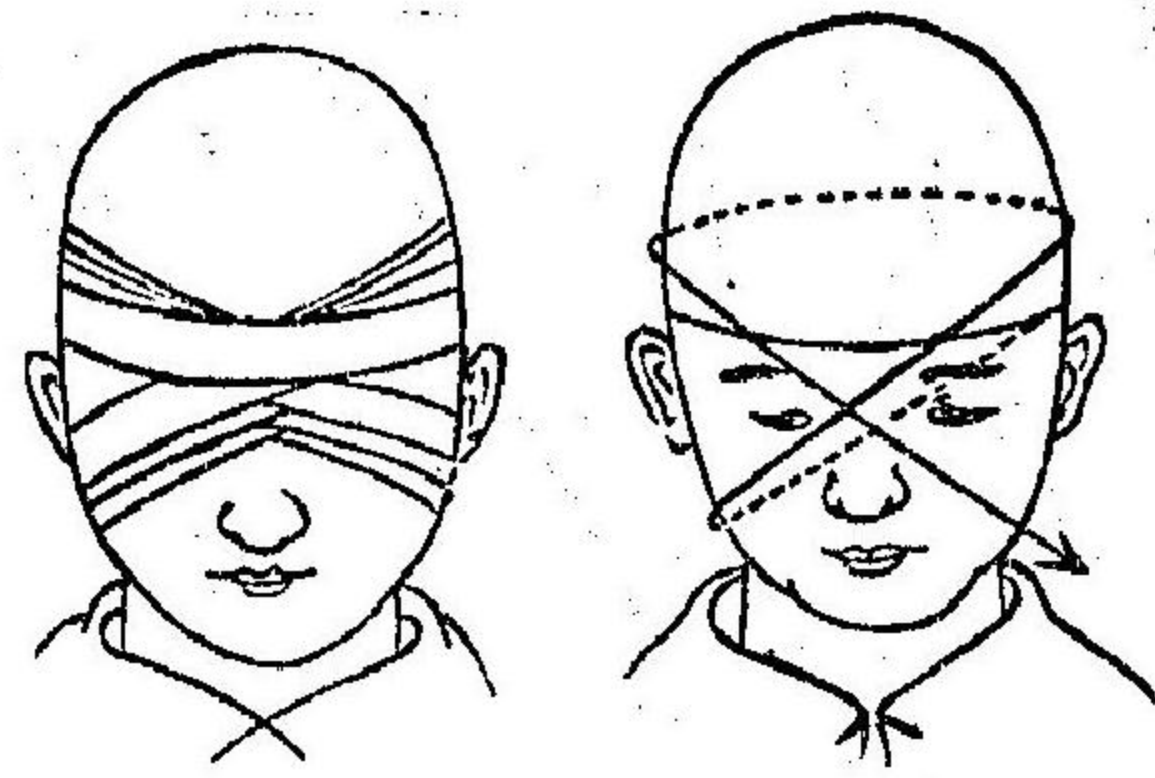
反復帶 下ノ
如シ第四十圖

圖十四第
帶覆反軸頭一部頭



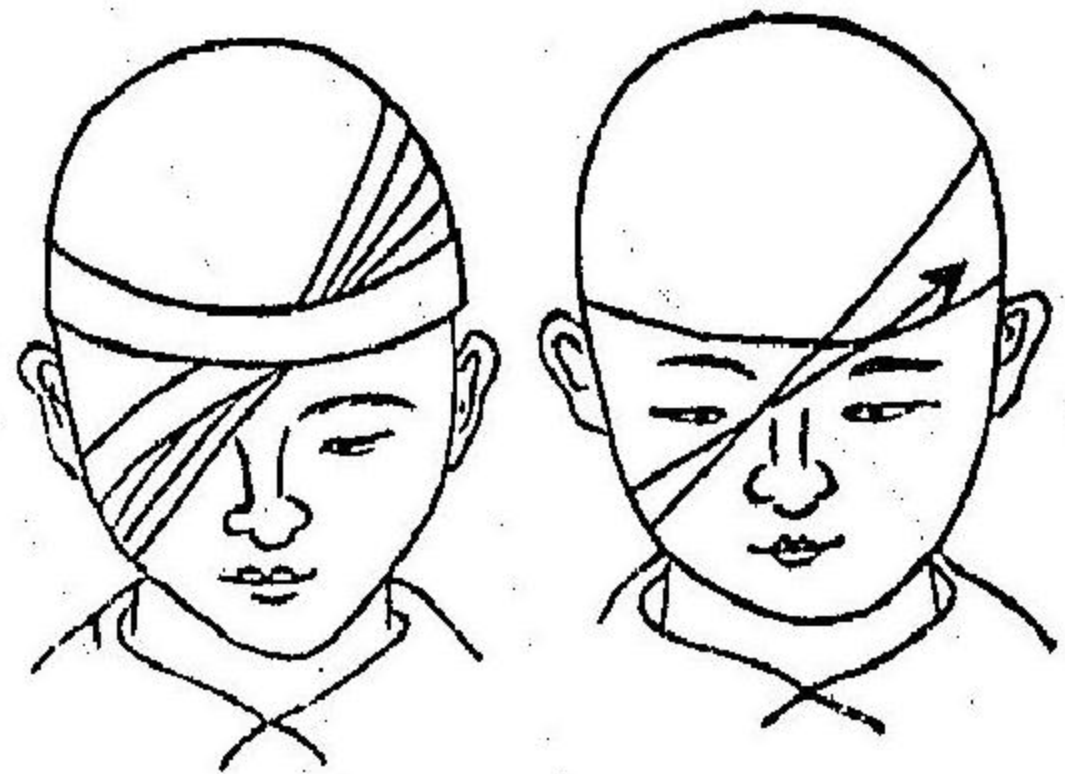
兩眼帶 下ノ如
シ第四十二圖

圖二十四第
帶眼雙



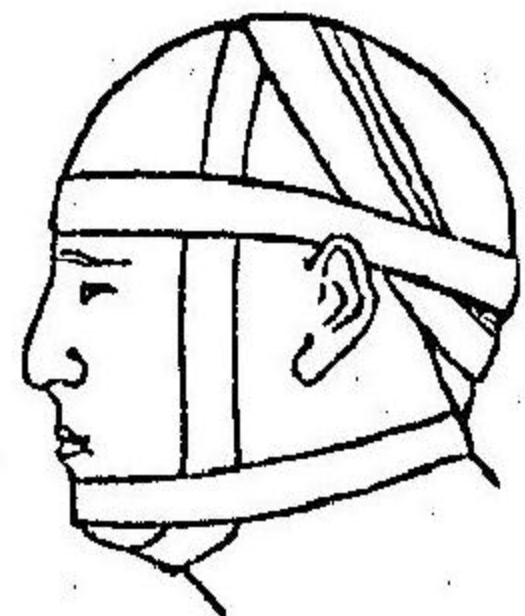
偏眼帶 下ノ如
シ第四十一圖

圖一十四第
帶眼偏

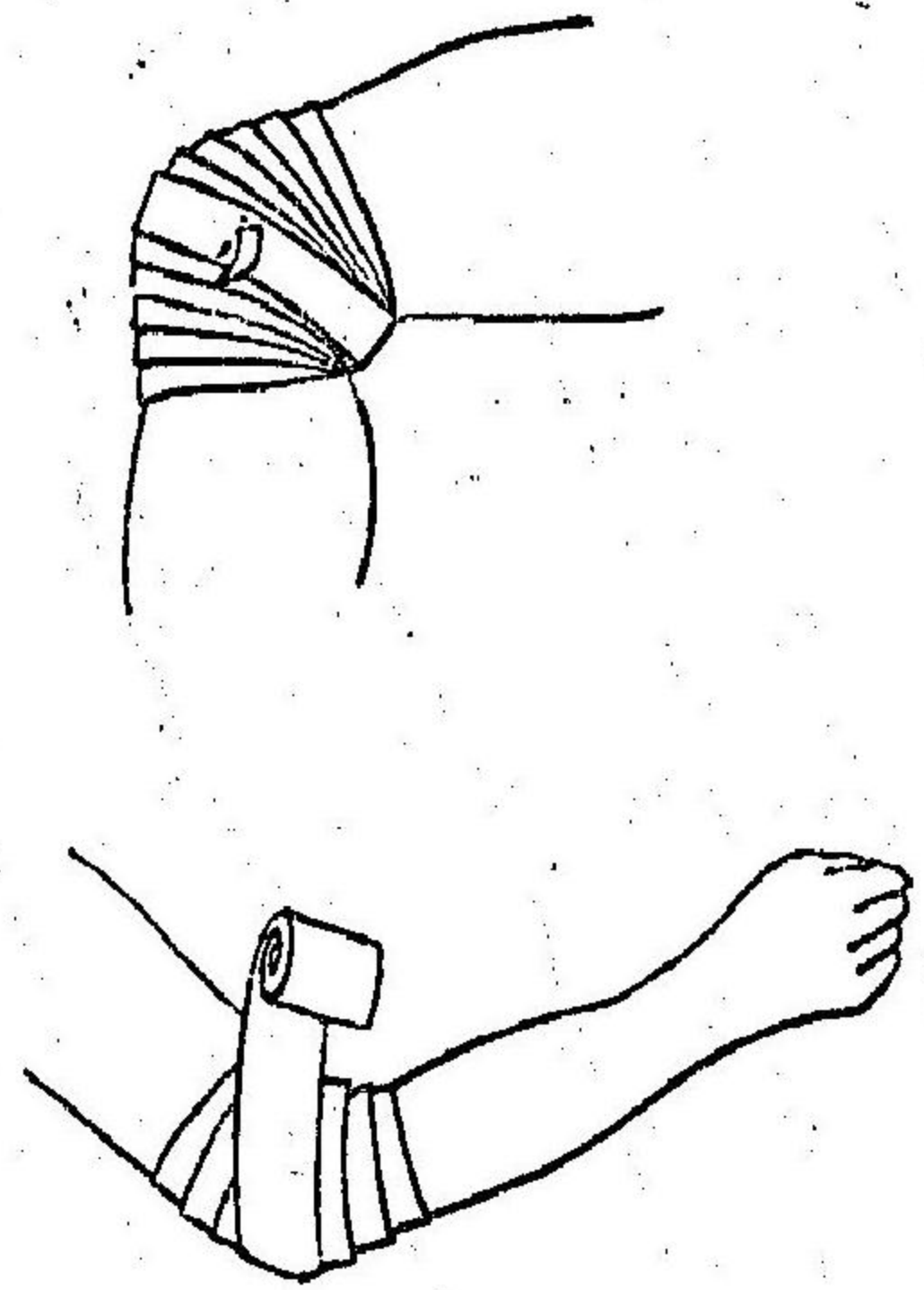


下顎帶 下ノ如
シ第四十三圖

圖三十四第
帶顎下

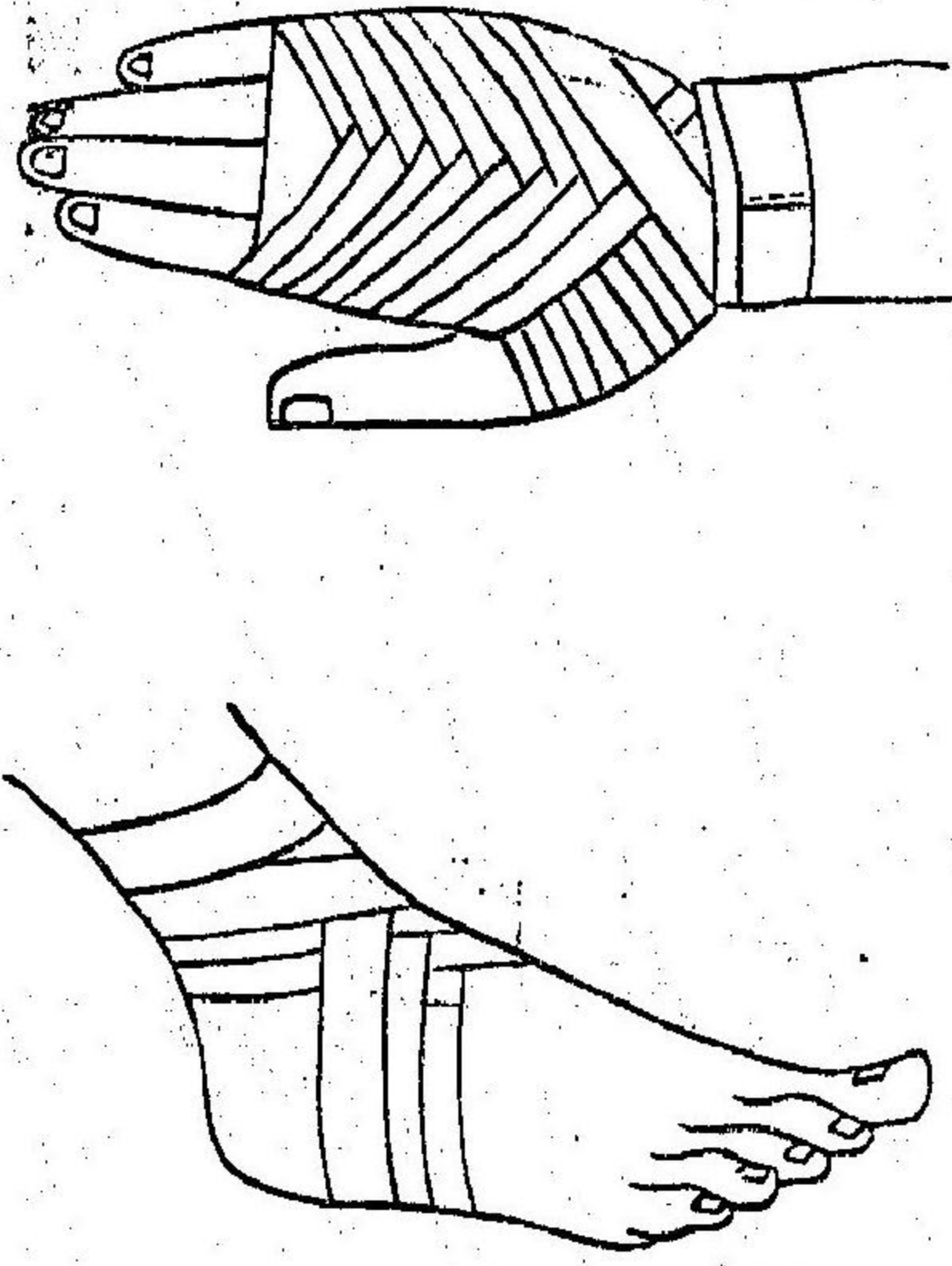


節關節肘關節 圖八十三第
甲ノ體字 8

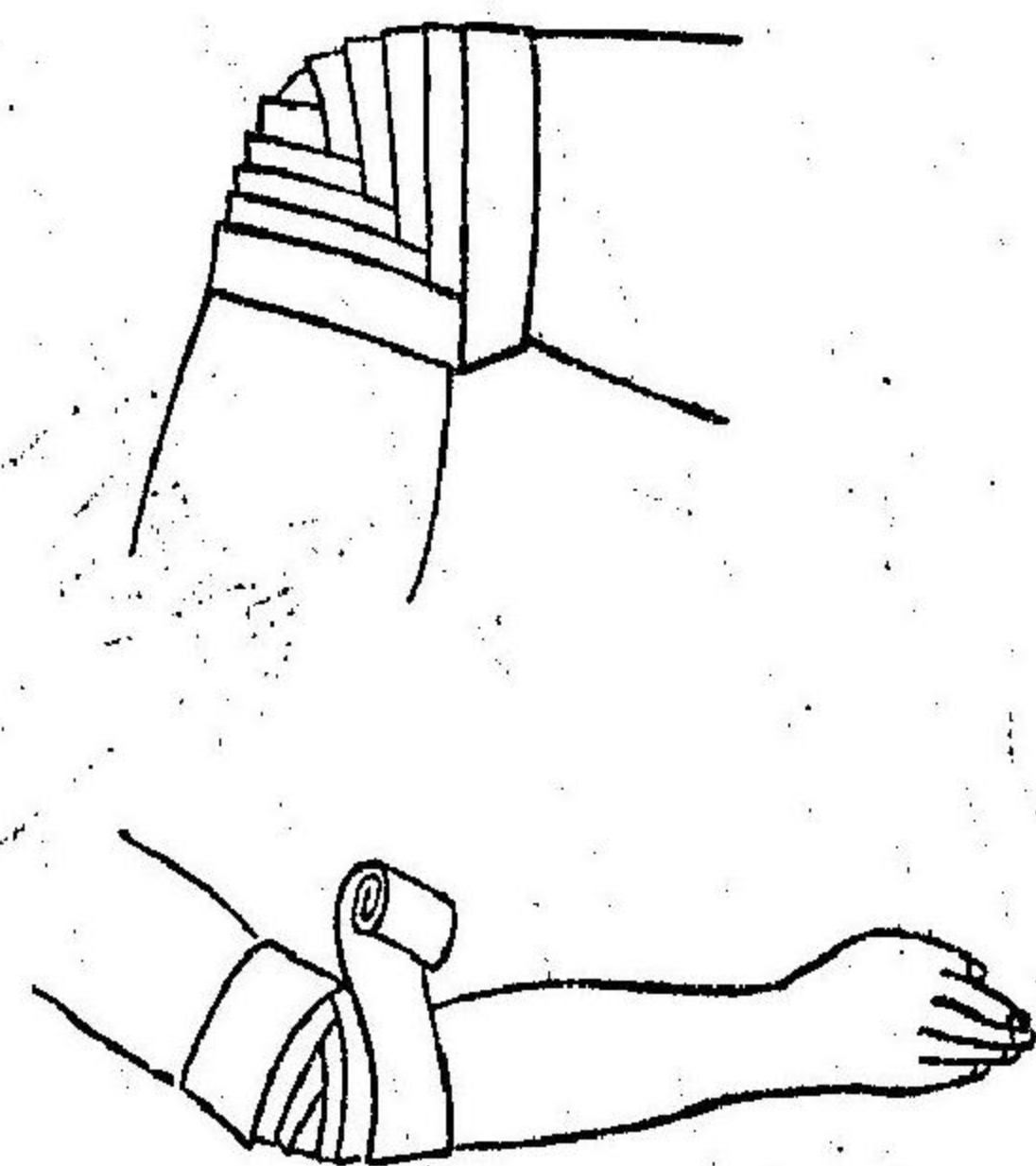


一麥穗帶人字帶左圖ノ如シ第三十九圖

十帶穗麥ノ足及手 圖九十三第



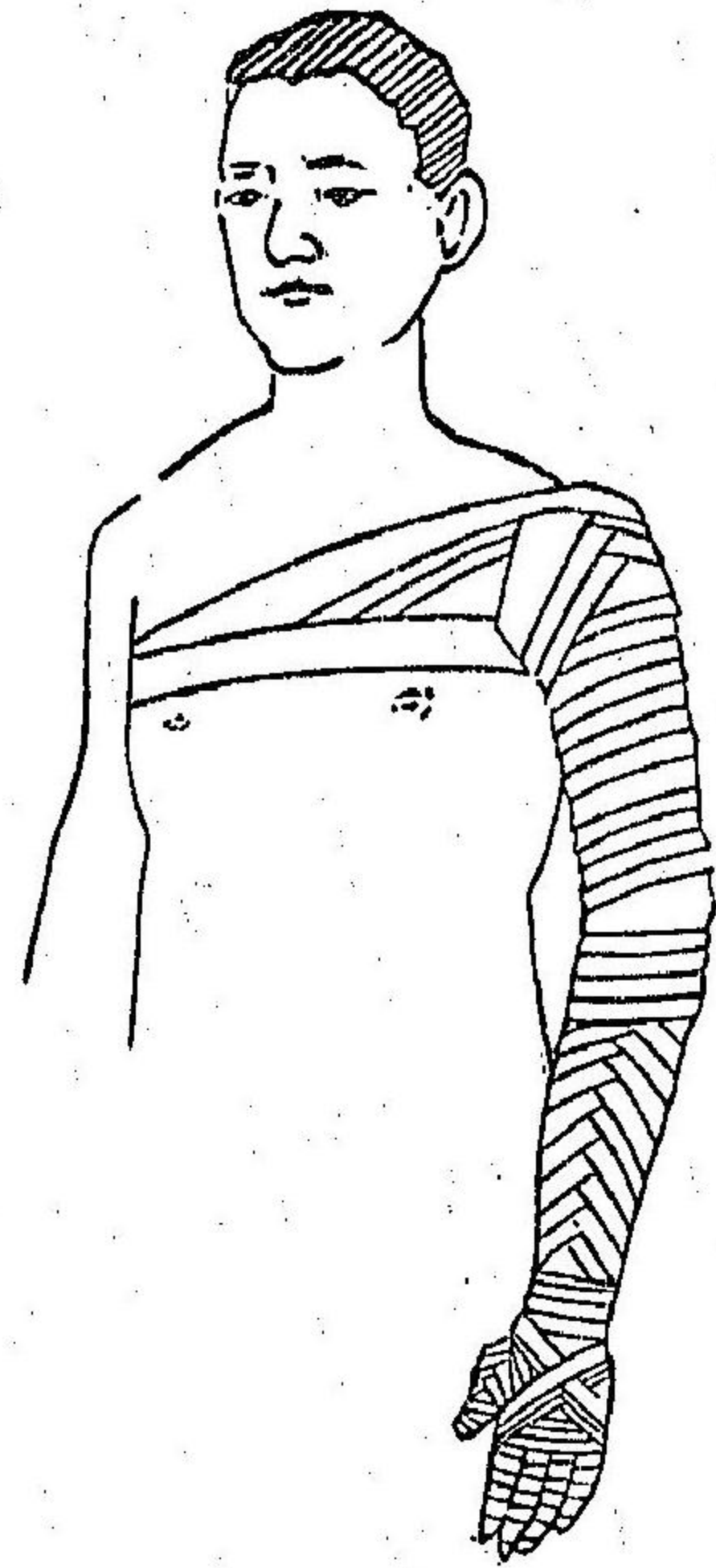
節關節肘關節 圖八十三第
乙ノ體字 8



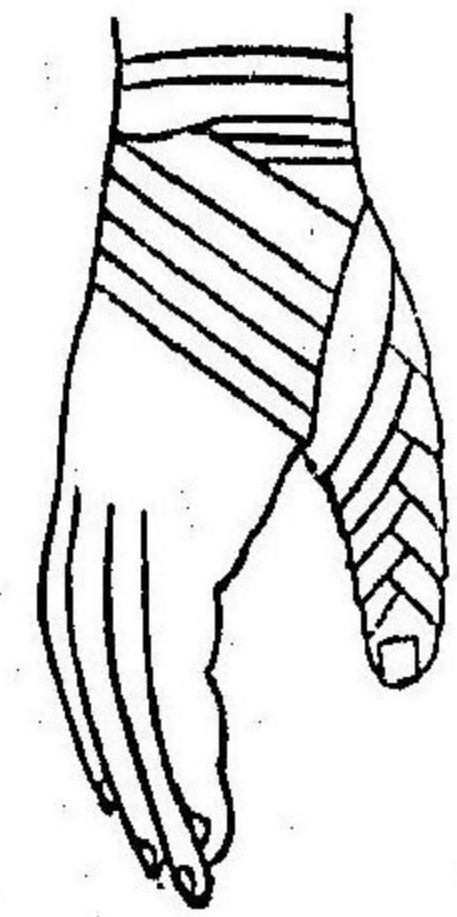
扇狀帶 扇狀帶トハ主ニ腹部ニ用ヒラル
、モノニシテ後章ニ示ス如シ
反復帶 反復帶(帽狀帶)トハ頭部又ハ四肢
ノ末端ニ用ユルモノニシテ初メ環行ヲ以
テ尾ヲ固定シ次ニ其一點ヨリ顛頂或ハ尖
端ヲ過キテ反對側ノ一點ニ至リ介者ヲ以
テ固定セシメテ毎回前行帶ノ約三分ノ二
ヲ被フ如クシ數回反復シ終リニ再ビ環行

四肢ノ繃帶
上肢ノ螺旋
帶下ノ如
シ(第四十九
圖)

帶旋螺肢上 圖九十四第



圖十五第
帶穗表ノ指拇

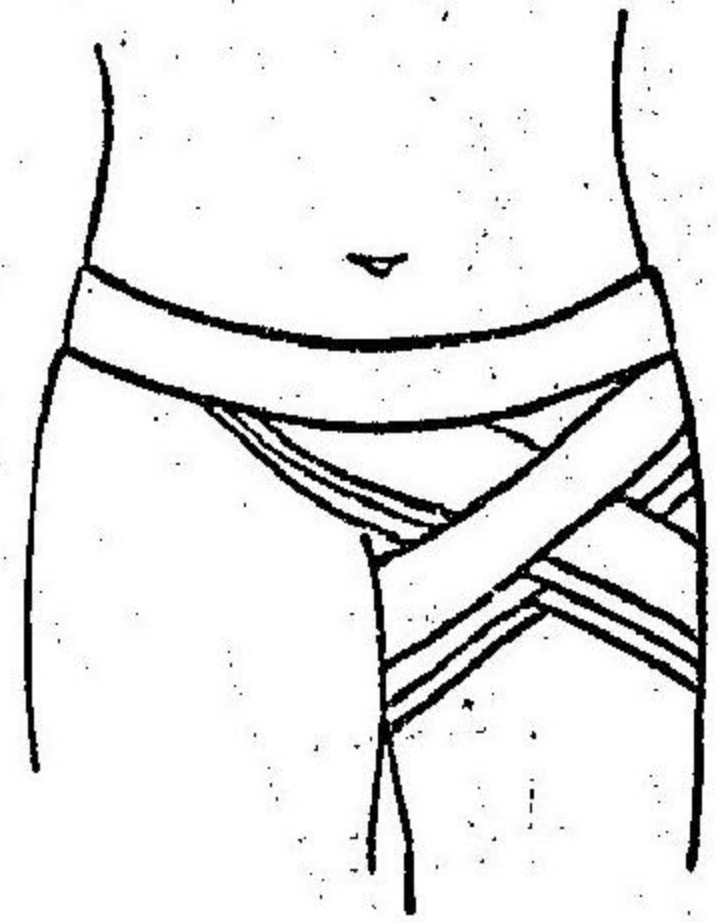


シ(第五十圖)
拇指ノ麥穗帶 左ノ如

四肢ノ繃帶
指ハ幅二乃至三仙迷ノ卷軸帶ヲ指頭ヨリ漸次卷始メ根部マテ至リ或ハ一部分ニ止ル
可シ之ヲ固定スルニハ手根部ニ二三回環行帶ヲナスヲ例トス
腕關節足關節肩關節及跨關節ニハ麥穗帶肘關節及膝關節ニハ龜甲帶ヲ良トス而シテ
足關節及肘關節ハ直角ニ曲ケ其他ノ關節ハ伸展ノマ、卷クヲ例トス

鼠蹊ノ麥穗帶 下
ノ如シ(第四十八圖)

圖八十四第
帶穗麥蹊鼠



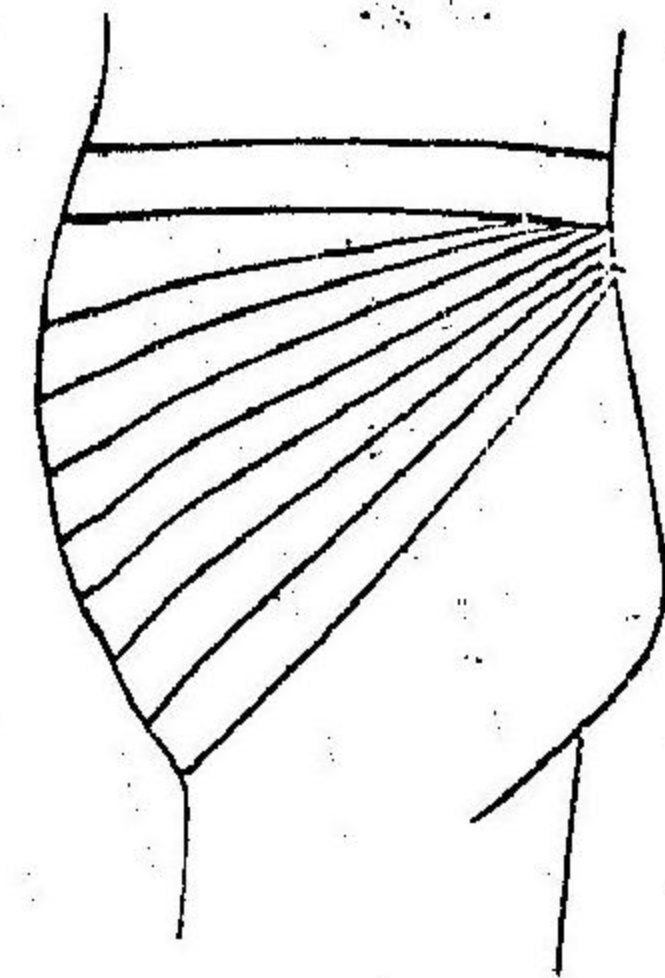
胸背ノ十字
帶下ノ如
シ(第四十六
圖)

帶字十背胸 圖六十四第



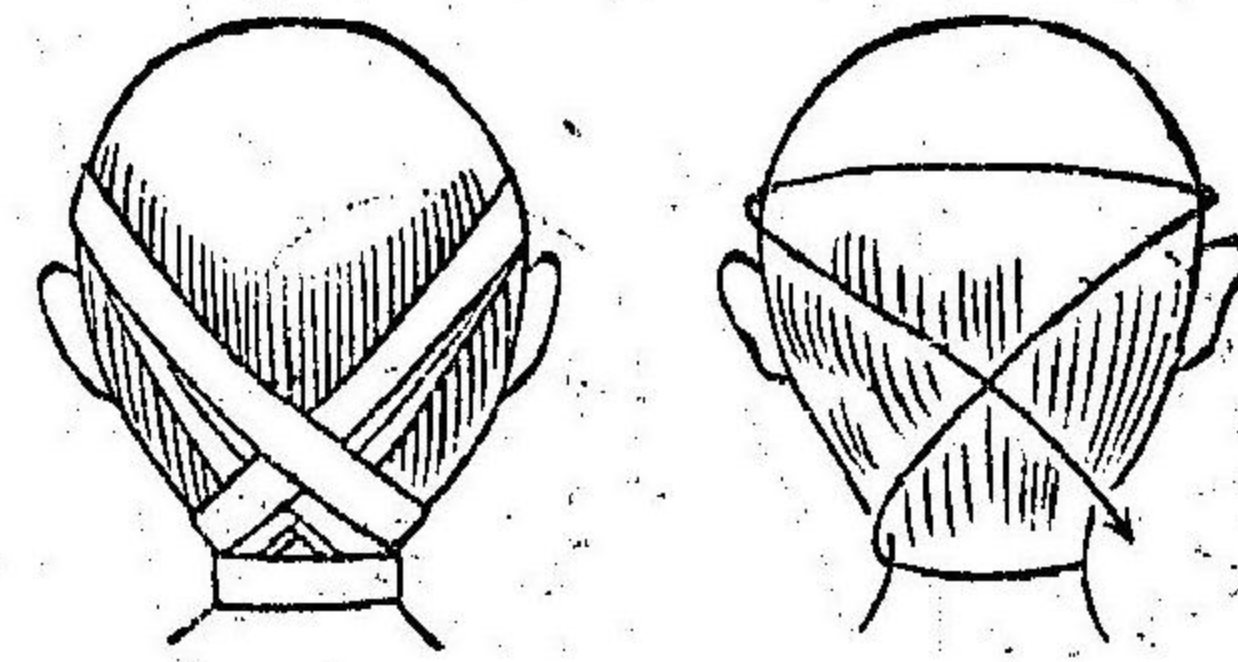
腹部扇狀帶
下ノ如シ
(第四十七圖)

帶狀扇部腹 圖七十四第



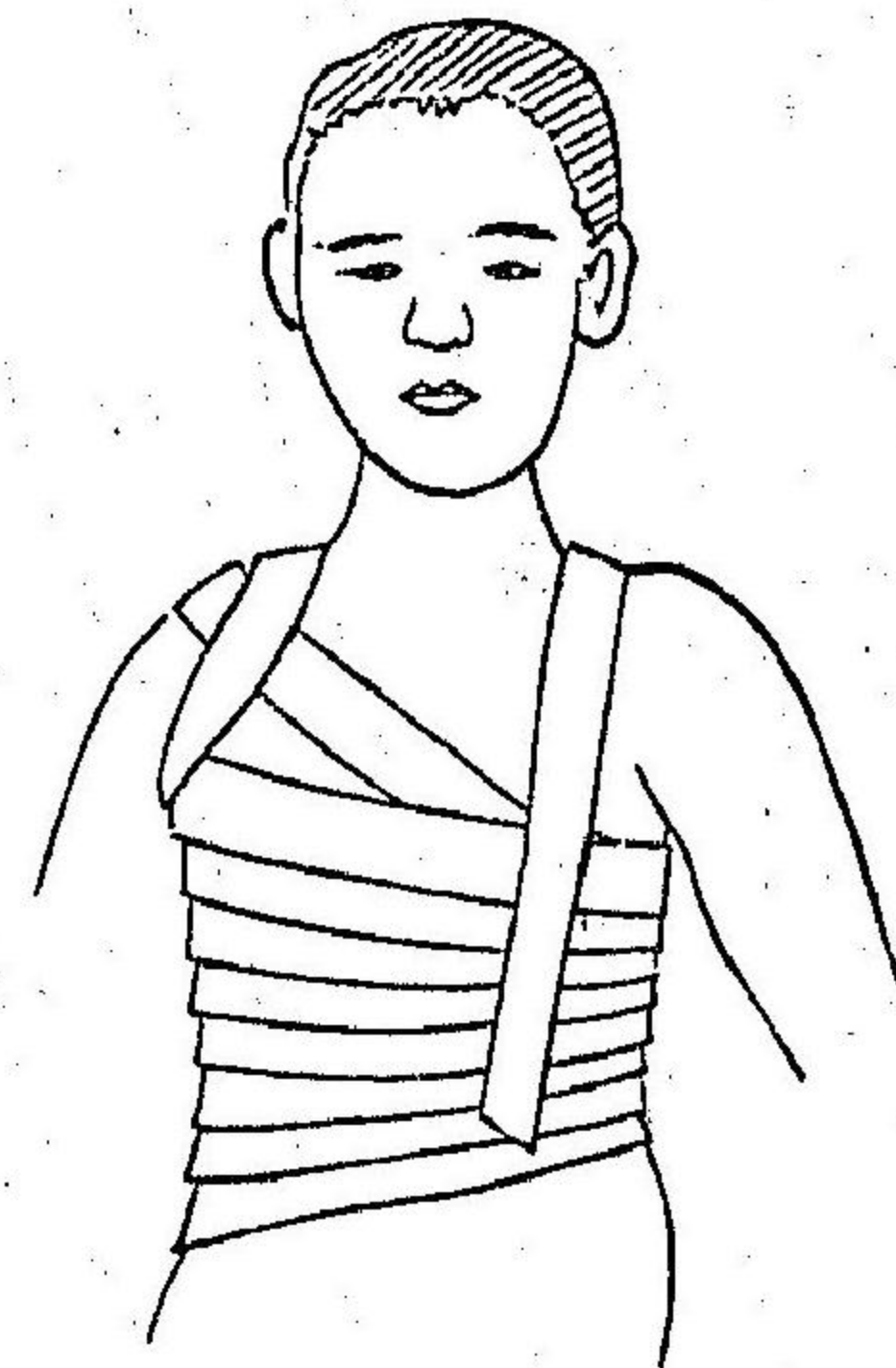
頸ノ繃帶 下
ノ如シ(第四十
四圖)

帶繃ノ頸 圖四十四第

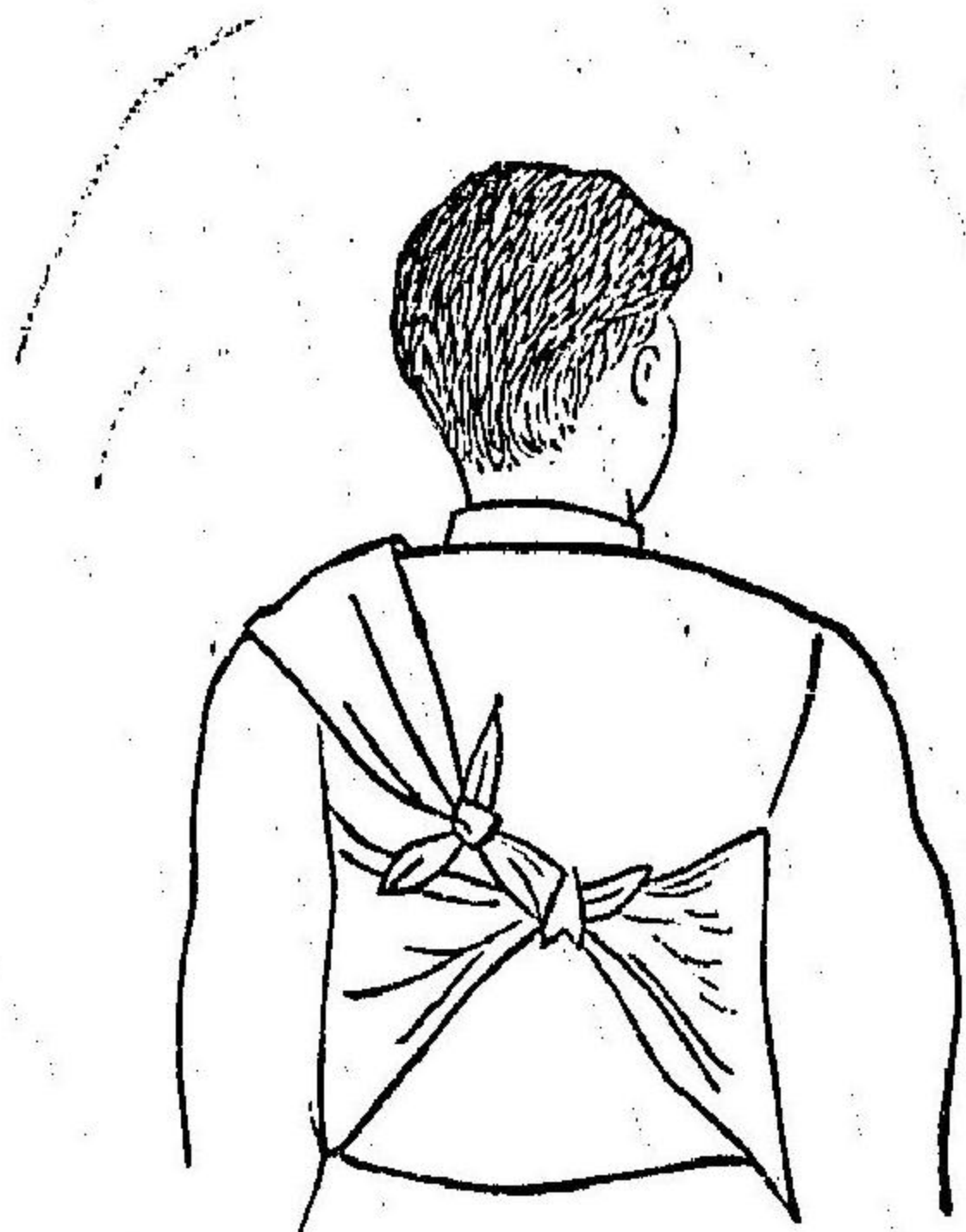
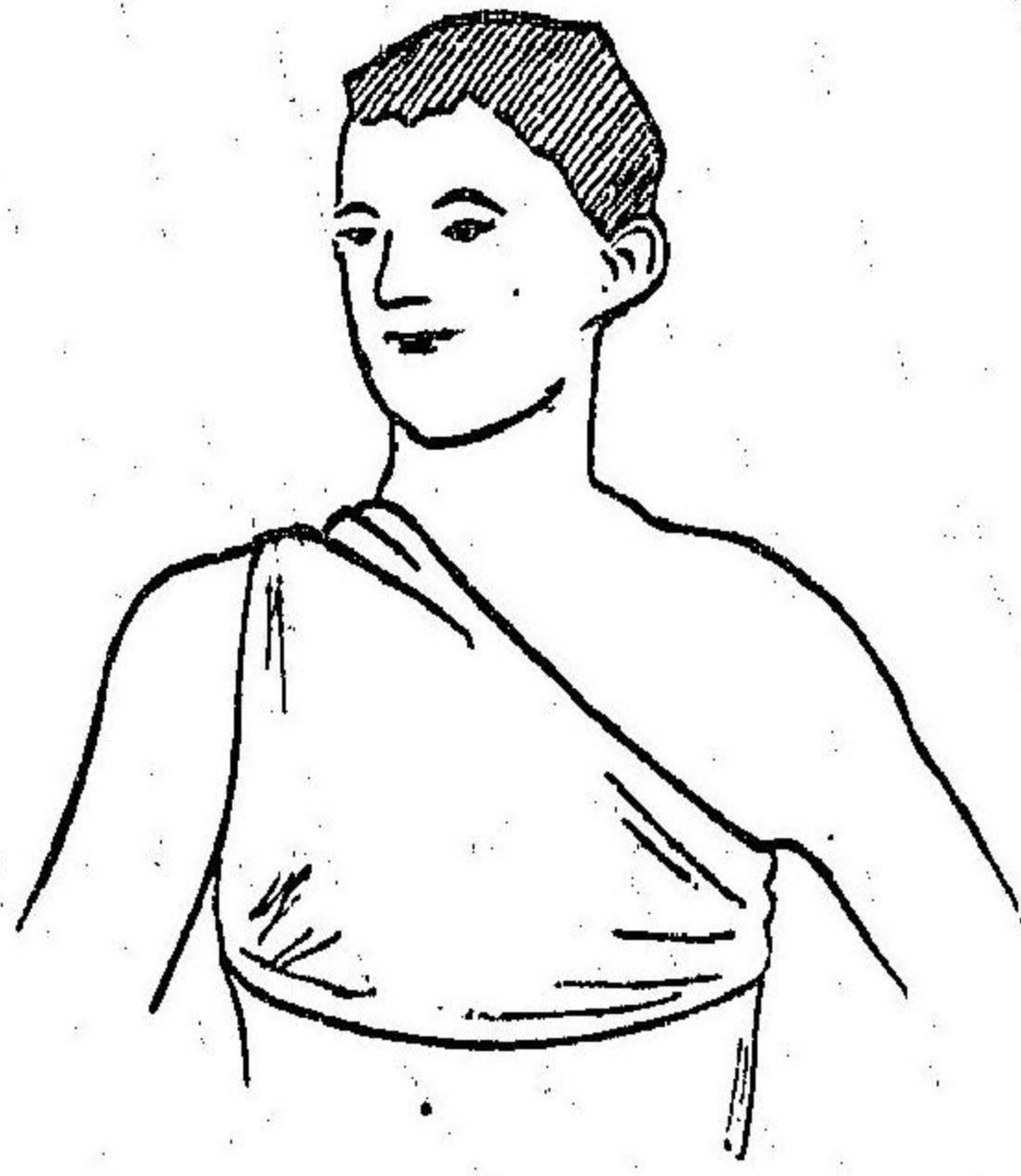


軀幹ノ繃帶
胸部環行帶
下ノ如シ(第四
十五圖)

帶行環部胸 圖五十四第



圖五十五第
法用巾角三部胸



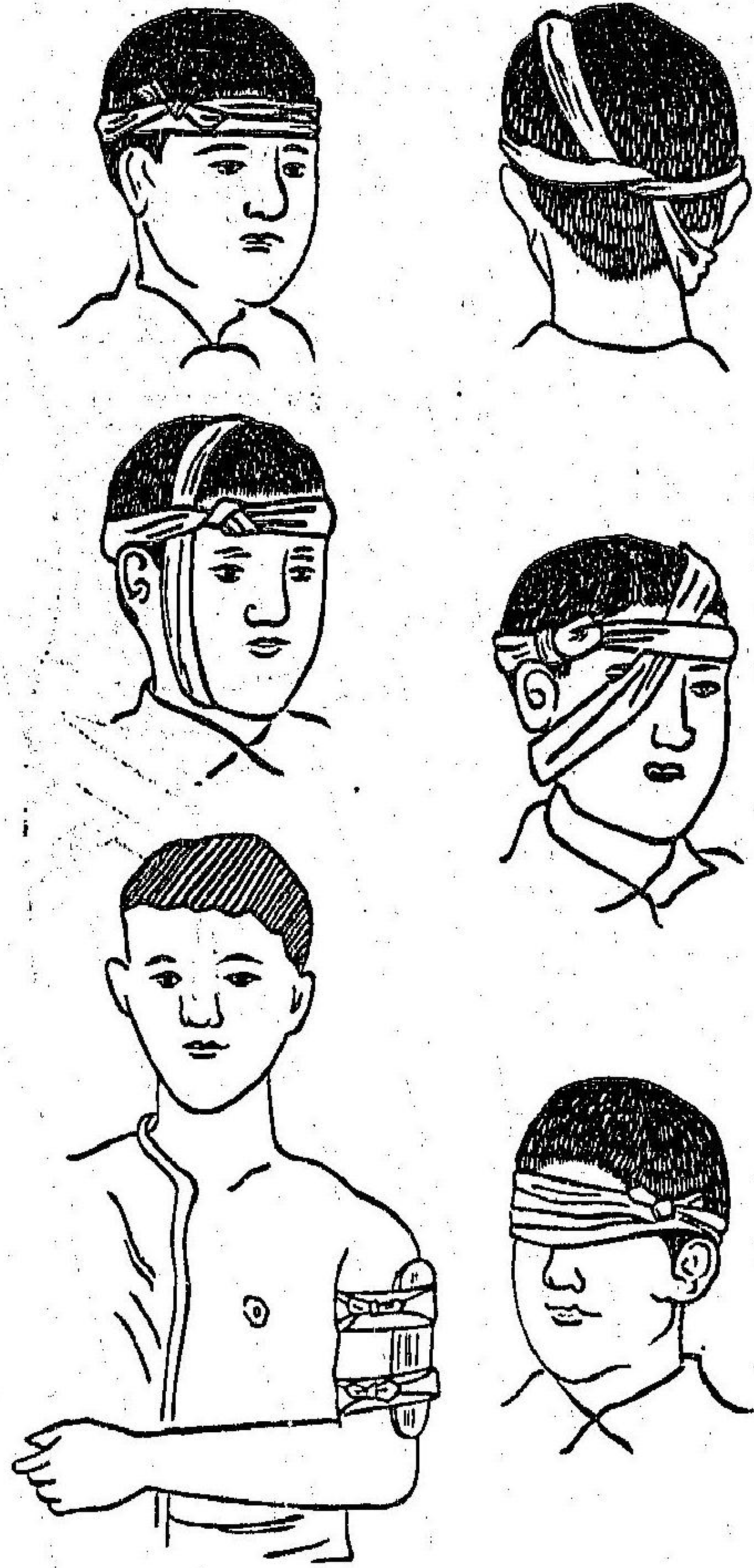
圖四十五第
法用巾角三蓋頭



頸部ニハ疊三角巾ヲ用フヘシ
胸部ニハ三角巾ノ中央ヲ胸ニ當テ尖頂ハ患側ノ肩ヲ越ヘ後
ニ引キ下縁ヲ胸ノ周圍ニ纏ヒ兩端ヲ左右ノ腋下ヨリ背ニ廻
シテ結ビ更ニ肩ノ後ニ垂レタル尖頂ト結ヒ合スヘシ(第五十

眼、耳、額、頰、手、足、ノ小創又ハ骨折ニ副木ヲ併用スルニハ疊三角巾ヲ用フ可シ
頸部ニハ三角巾ヲ開キタルマ、其中央ヲ頭ノ頂點ニ置キ下縁ヲ額ニ當テ双端ヲ頭ノ
後方ニ於テ交又シ前額ニ戻シ緊縛シ後ニ垂レタル尖頂ヲ折返シテ頭ノ頂上ニ至リ前
額ノ一端ト結合ス可シ(第五十四圖)

法用巾角三部頭 圖三十五第

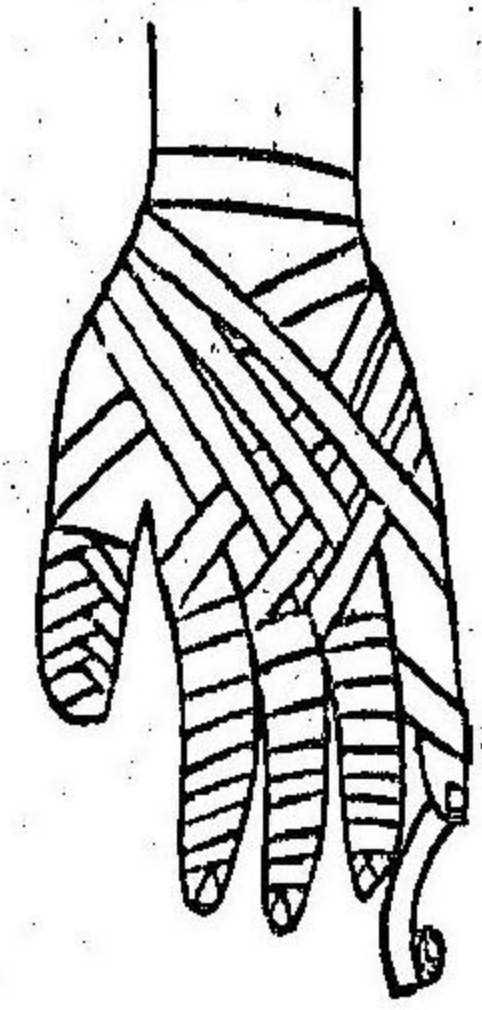


三角巾ハ應用ニヨリ頗ル便利ナルモノナリ其法左ノ如シ(第五十三圖)

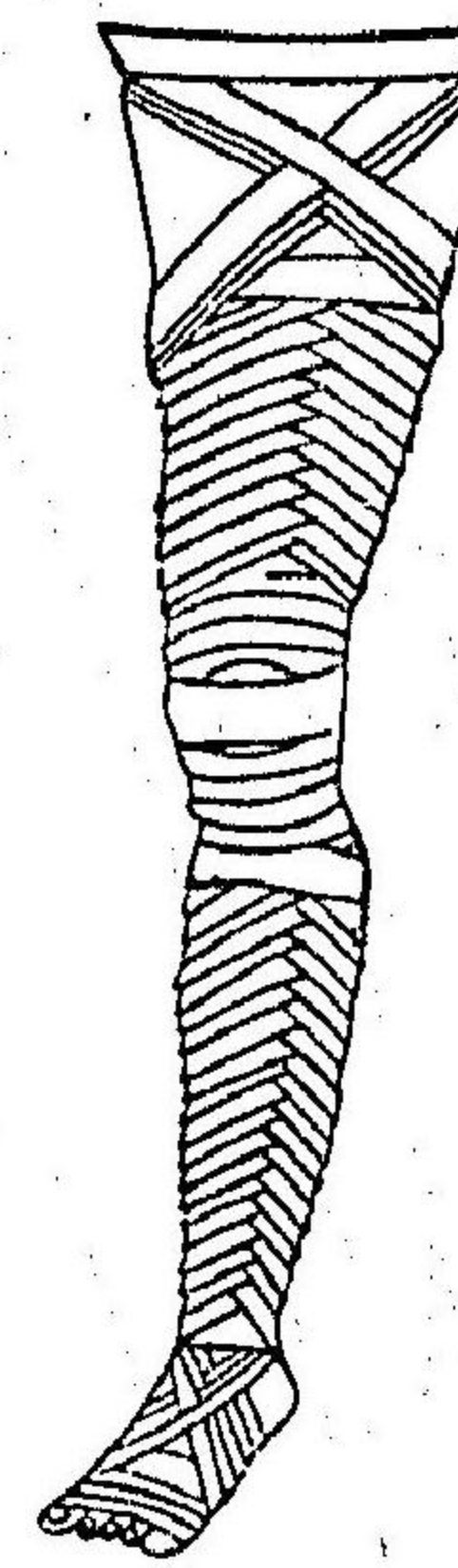
第五節 三角巾用法

手套帶 下
ノ如シ(第五
十一圖)

圖一十五第
手 套 帶



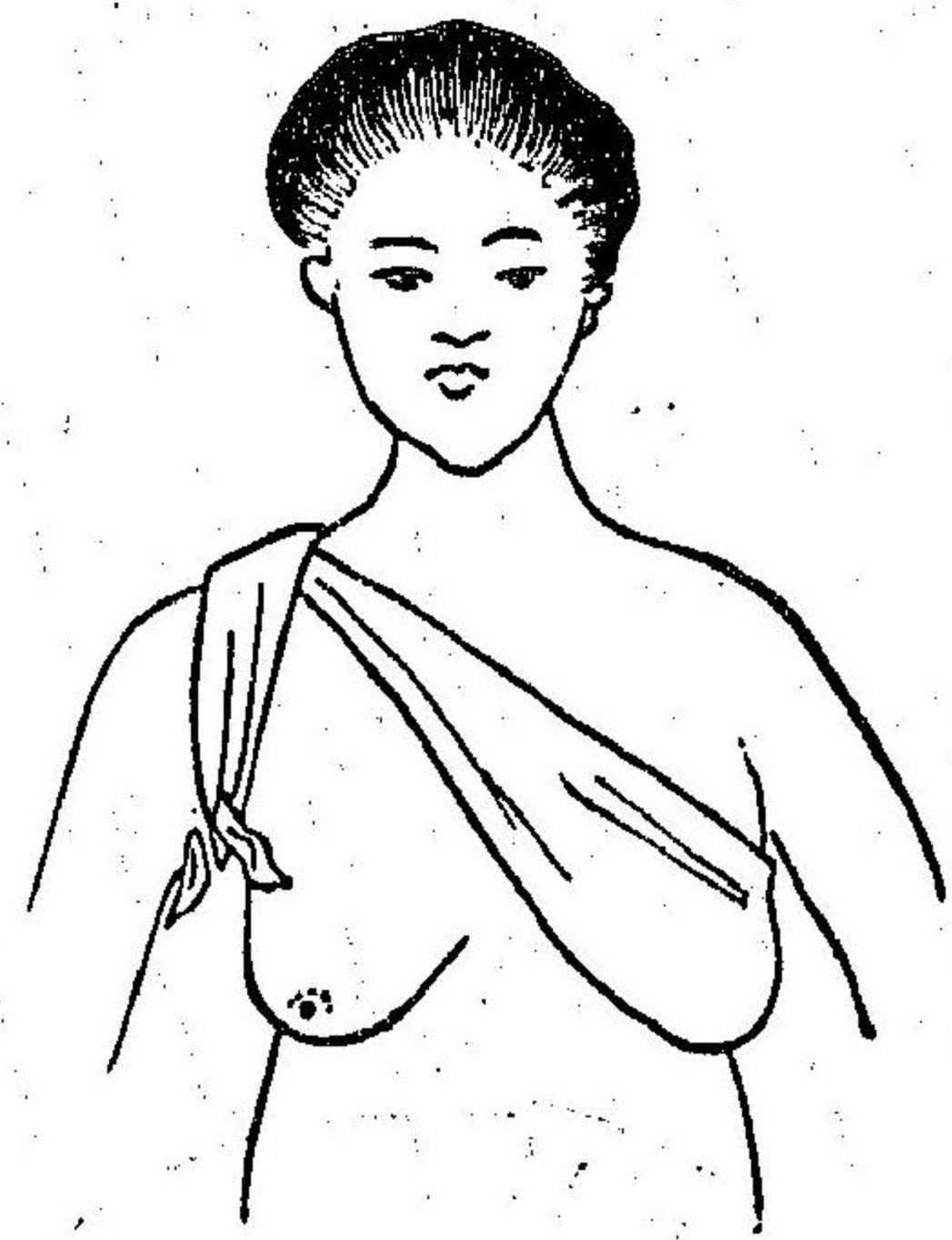
圖二十五第
帶 旋 螺 肢 下



下肢ノ螺旋帶 左ノ如シ(第五十二圖)

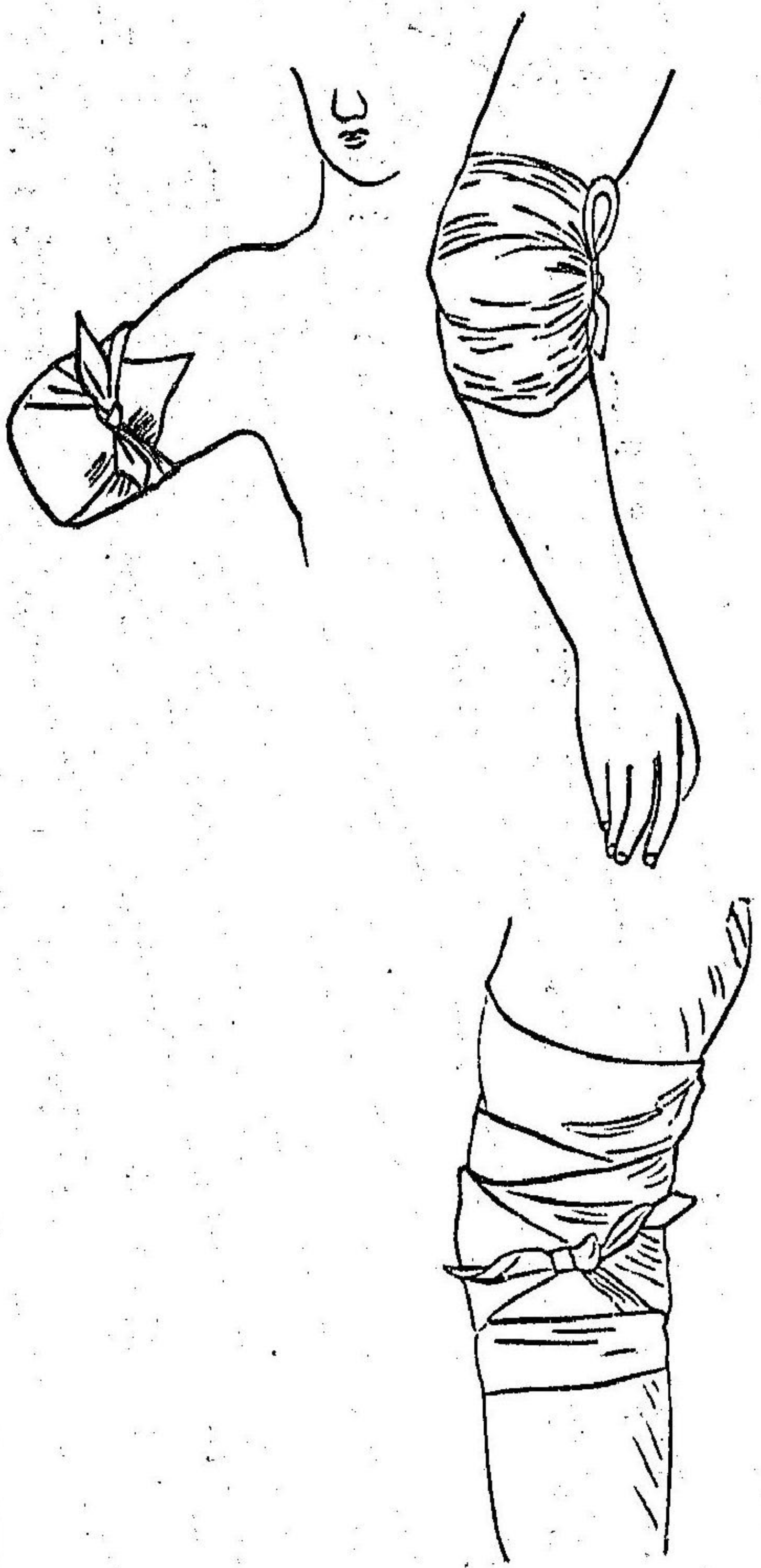
乳房ニハ疊三角巾ヲ用フ
(第五十六圖)

市角三份乳 圖六十五第



背部ニハ胸部
ノ法ヲ反對ニ
應用ス可シ
腹部及四肢ニ
ハ疊三角巾ヲ
用フ可シ(第五
十七圖)

法用巾角三膝肘 圖七十五第



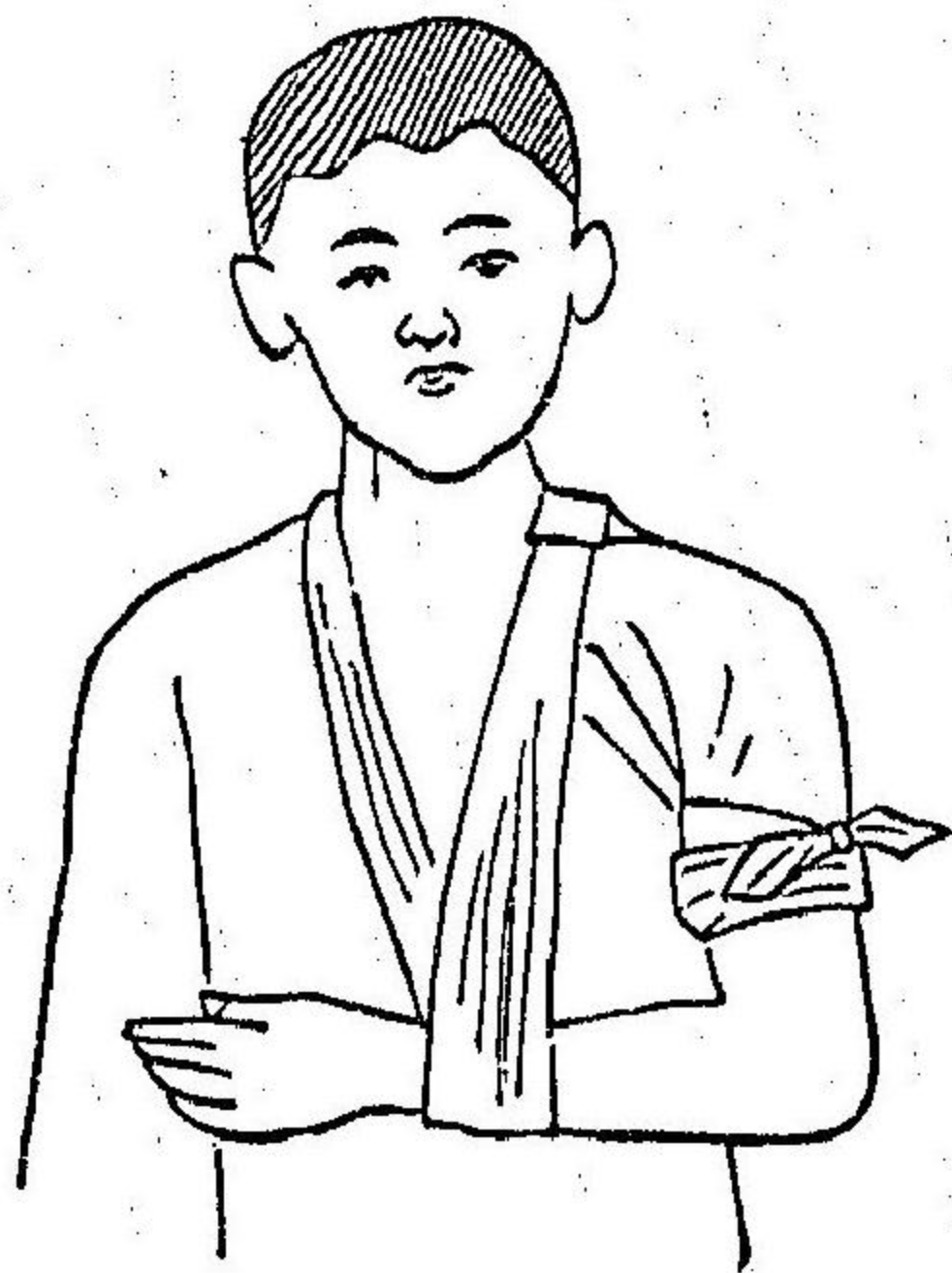
上肢ヲ胸部
ニ支持スル
ニハ下ノ如
クス(第五
十八圖)

法用巾角三肢上 圖八十五



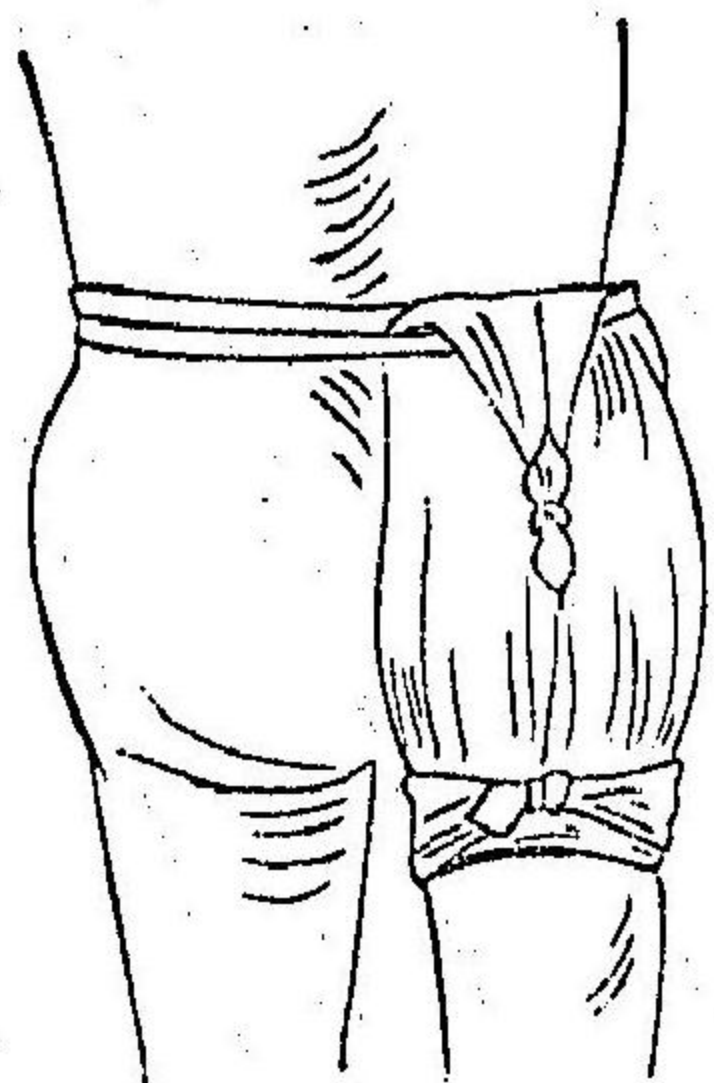
又疊三角
巾ヲ用フ
ル時ハ下
ノ如クス
可シ(第五
十九圖)

法用巾角三疊肢上 圖九十五第



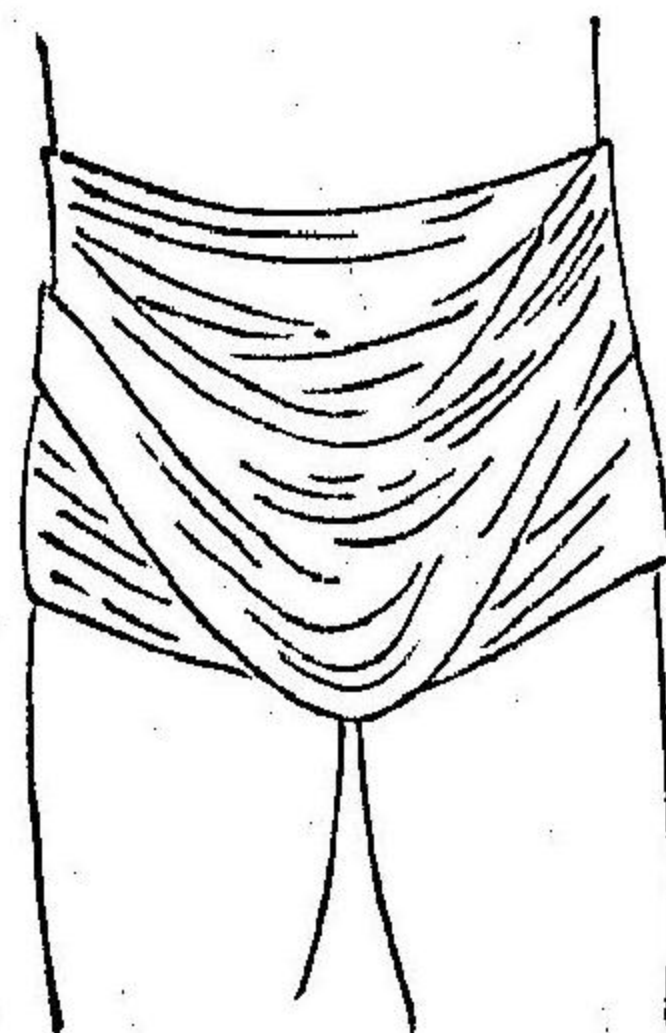
臀部ニハ尖頂ヲ上ニ向ケ下縁ニテ大腿ヲ纏ヒ後上ニ向ケタル尖頂ヲ襠ノ紐(無キトキハ別ニ疊三角巾ヲ用フ)ニ通シ折返シテ先ノ一端ト結合スハシ(第六十圖)

圖十六第 部臀 法用巾角三



陰部ニハ開キタル三角巾ノ兩端ヲ背ニ下縁ヲ下腹ニ當テ前ニ垂レタル尖頂ヲ股間ヲ經テ後ニ出シ陰部ヲ包ミ結合ス可シ(第六十一圖)

圖一十六第 部陰 法用巾角三



手部ニハ三角巾ヲ二ツニ折ルカ或ハ切リテ半巾トシ中央ヲ手ノ下ニ敷キ尖頂ヲ指頭ノ方ニ向ケ更ニ之ヲ折返シテ手ヲ包ミ兩端ヲ其上ニ廻シ手背ニテ包ム可シ又時ニ疊

的彈力ヲ有スルモノヲ應用ス可シ

紙副木 ホール紙ヲ用ヒ小骨ノ骨折及關節ニ用フ

薄片副木 薄キ木板ニテ紙副木ト同様ニ用ヒラル

第六十五圖
吳氏副木



吳氏副木 第三十五圖ノ如キモノニシテ大ナラサル骨折或ハ小ナル關節ニ用フ(第六十五圖)

網狀夾 第六十七圖ノ如キ梓ニ金屬網ヲ張リタルモノナリ上肢ニ用ユルヲ例トス

手形副木 木製

ニシテ凹板平板

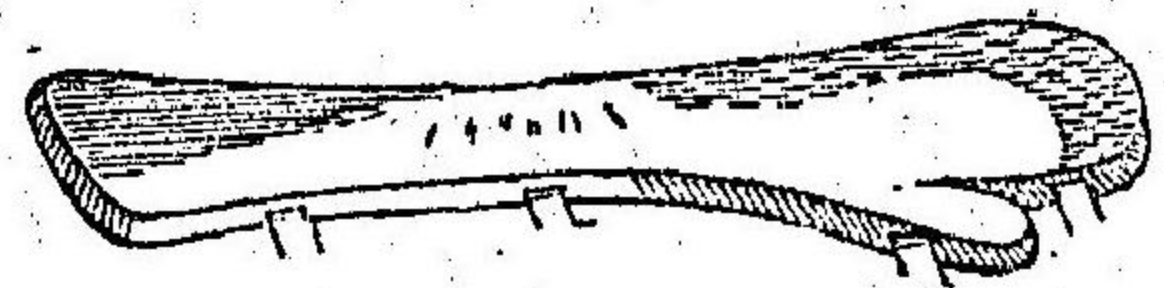
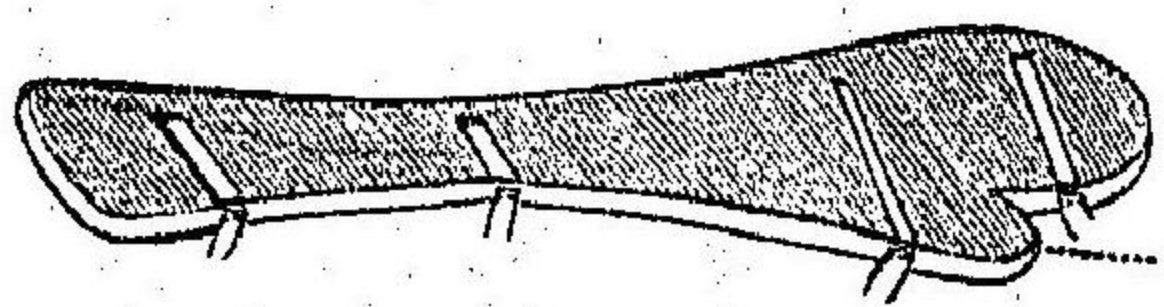
各一枚ヨリ成リ

前搏及手ニ適合ス

ル如クス下ノ

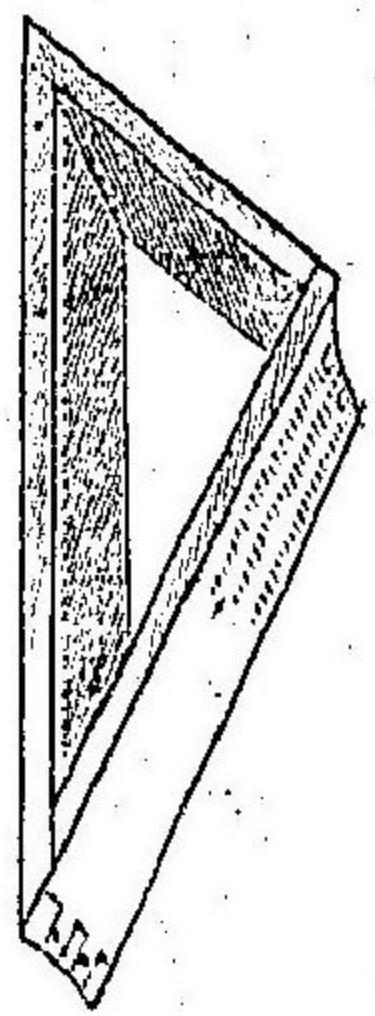
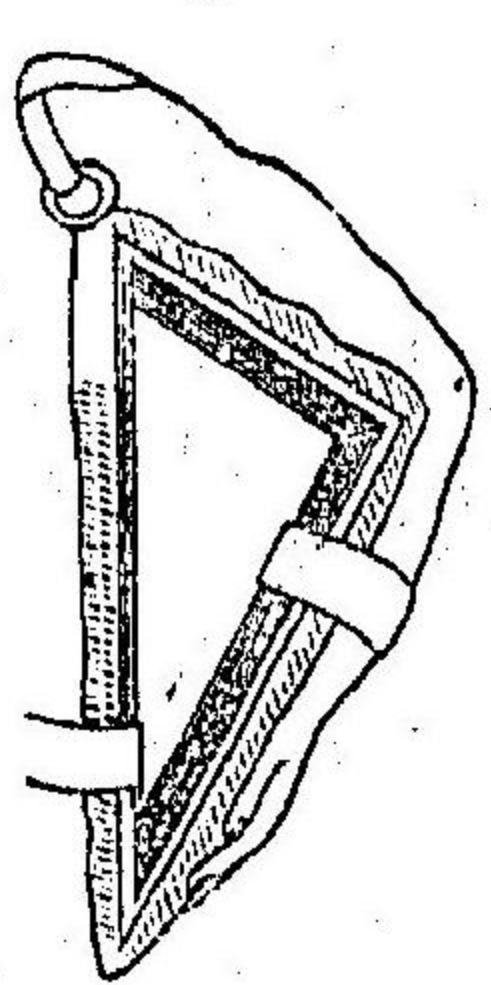
如シ(第六十六圖)

第六十六圖
手形副木



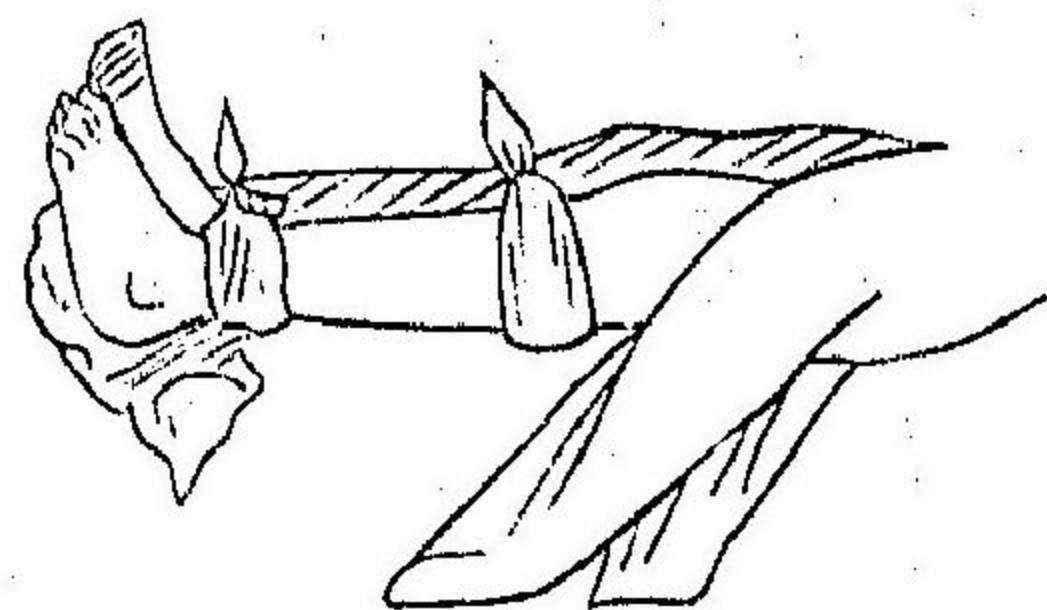
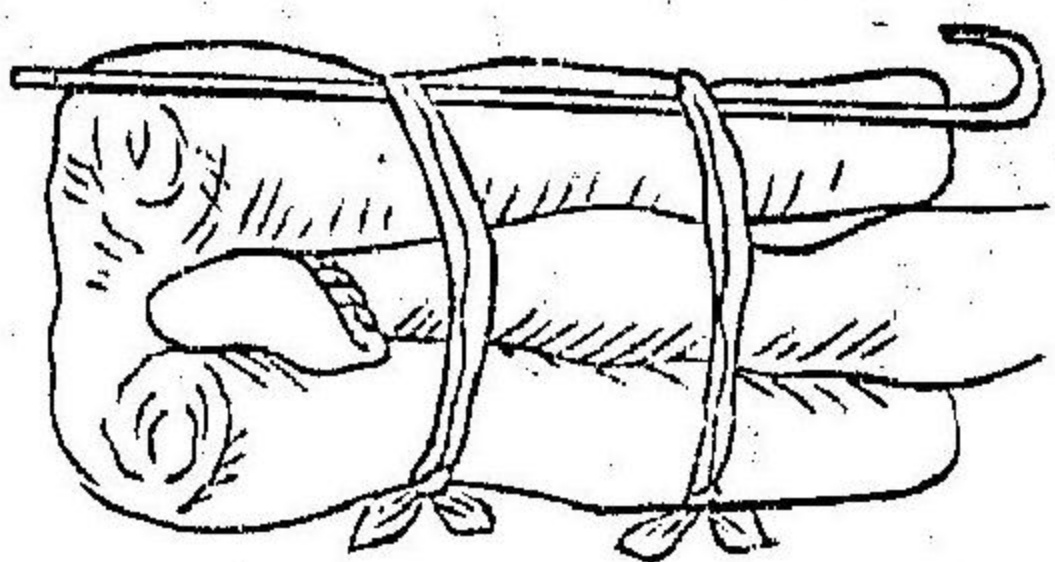
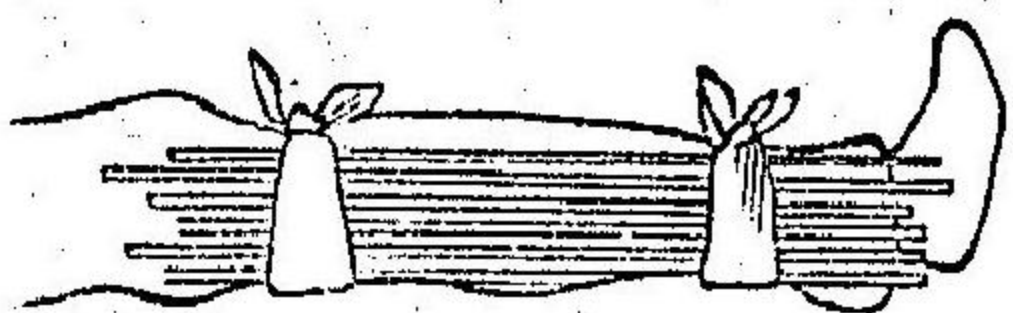
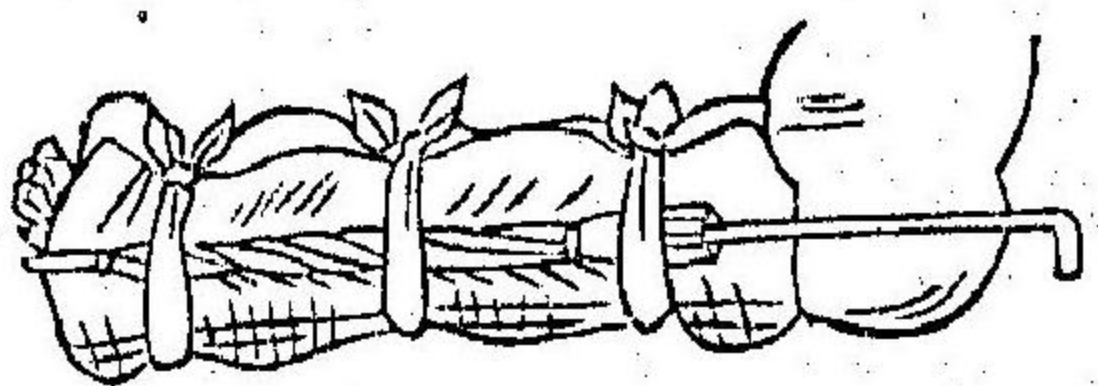
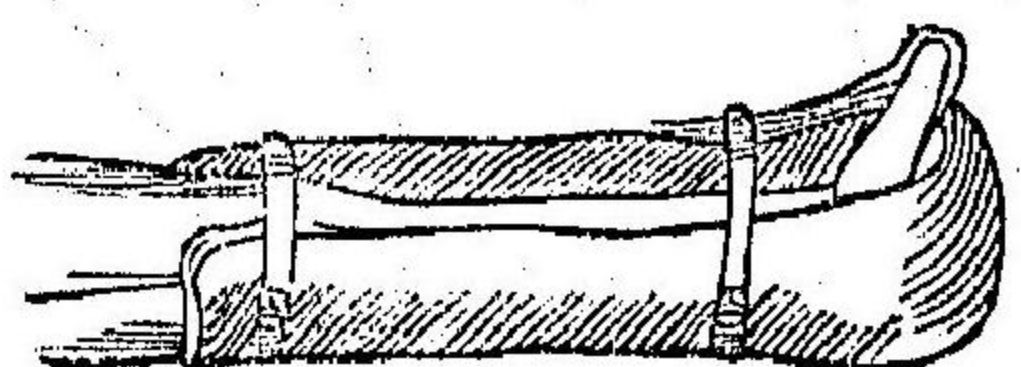
三角副木 ノ如ク木ヲ以テ製シ主ニ肩關節及上膊ノ固定ニ用ユ

第六十七圖
三角副木



急造副木 急造副木トシテハ棒、杖、傘、狹キ板、ブリキ、藁、束、木ノ皮、卷キタル外套、毛布及劔乃銃等用ヒラル(第六十八圖)

第六十八圖 急造副木



第八節 安置

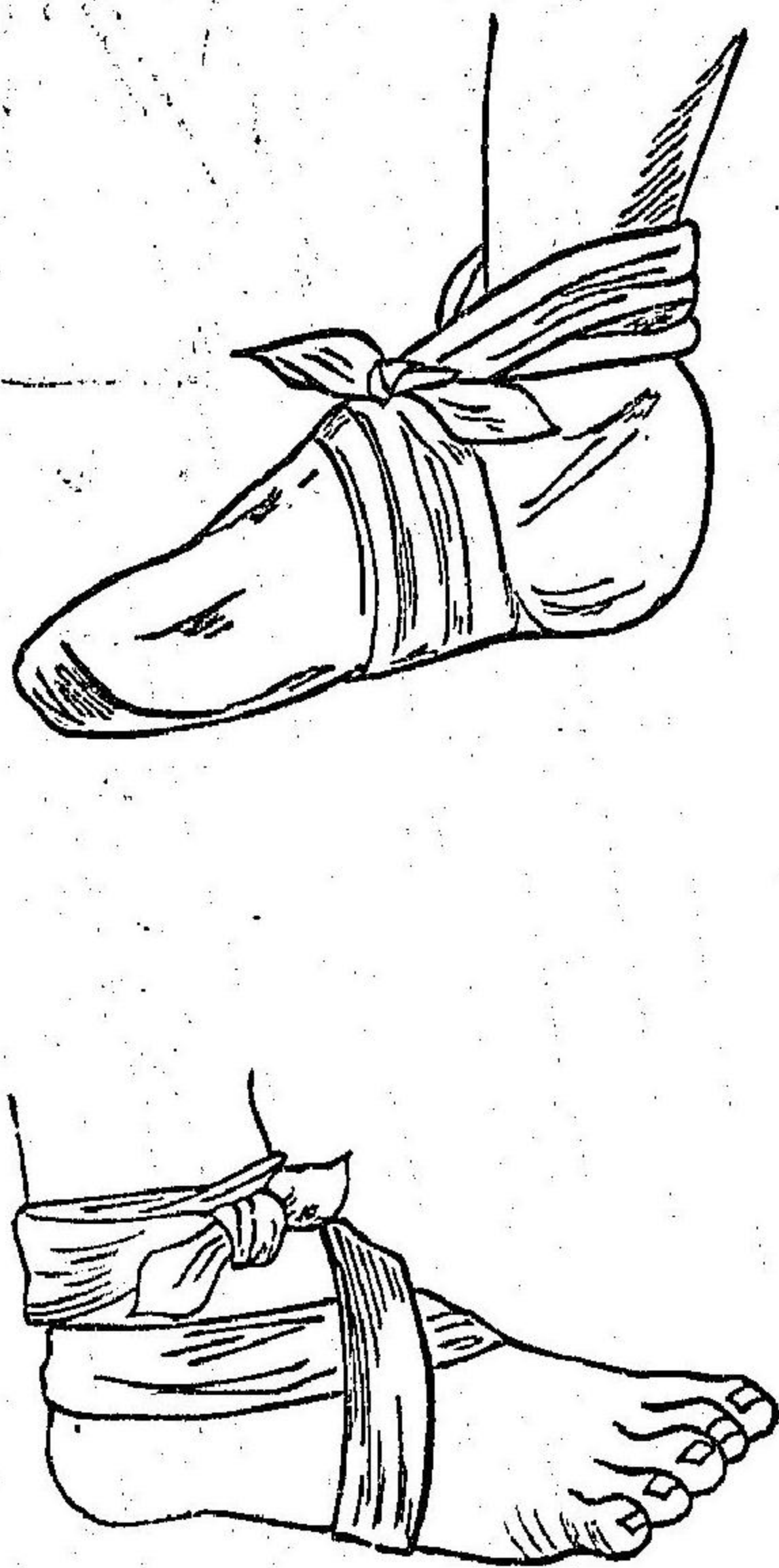
細帶ヲ施シタル時ハ患部ヲ適當ノ位置ニ安置スルヲ要ス之ニ糠枕、砂囊等アリ糠枕ハ布囊中ニ粗糠ヲ詰メタルモノナリ囊中ノ糠ヲ左右ニ寄セ一道ノ溝ヲ生セシメ其上ニ患肢ヲ安置ス砂囊長形ノ布囊ニ乾キタル砂ヲ詰メタルモノナリ患肢ノ兩側ニ沿フテ置キ之ヲ固定安置ス

圖二十六第
法用巾角三手



足ハ手ト同一ノ方
法ニヨル第六十三

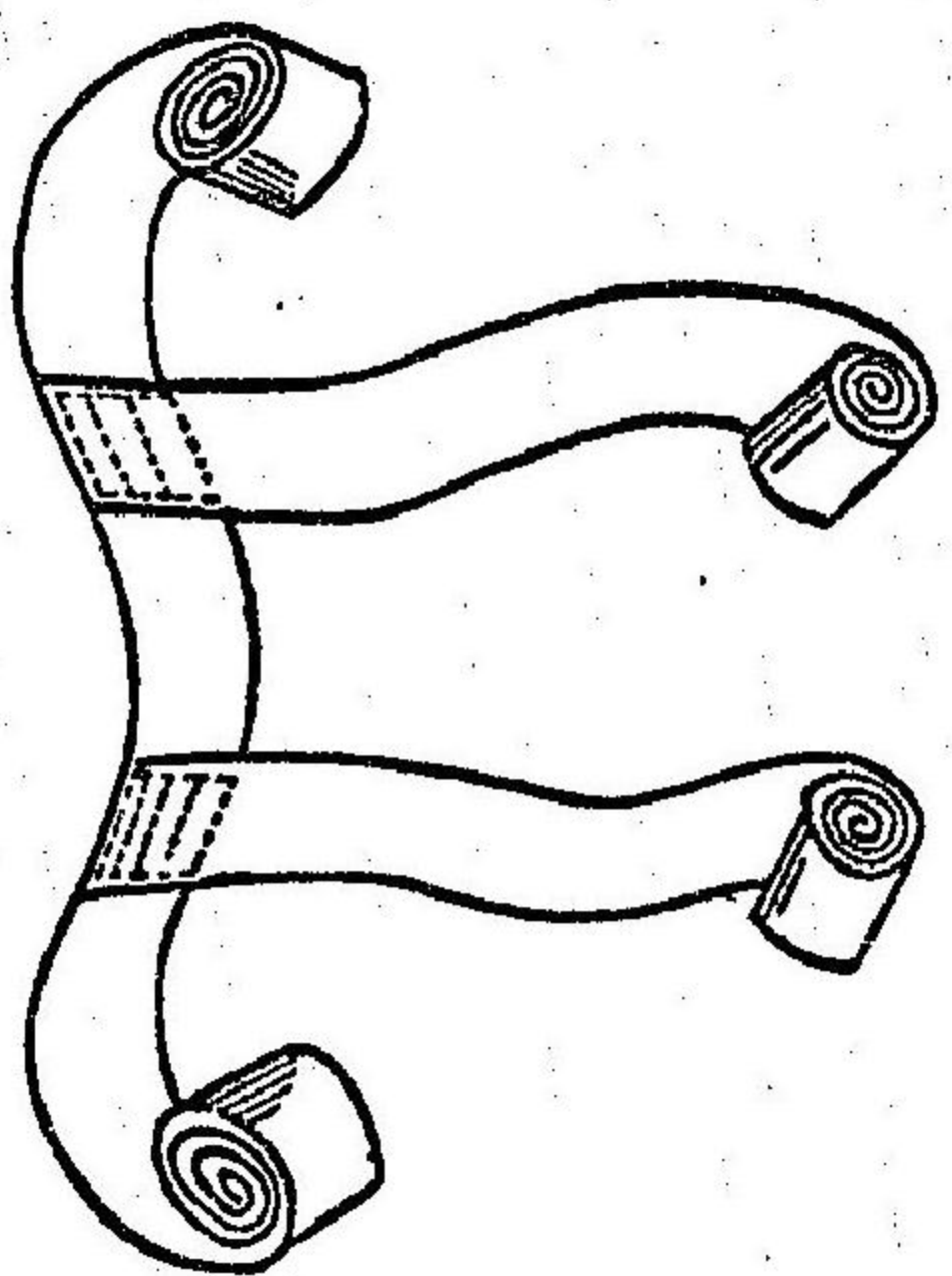
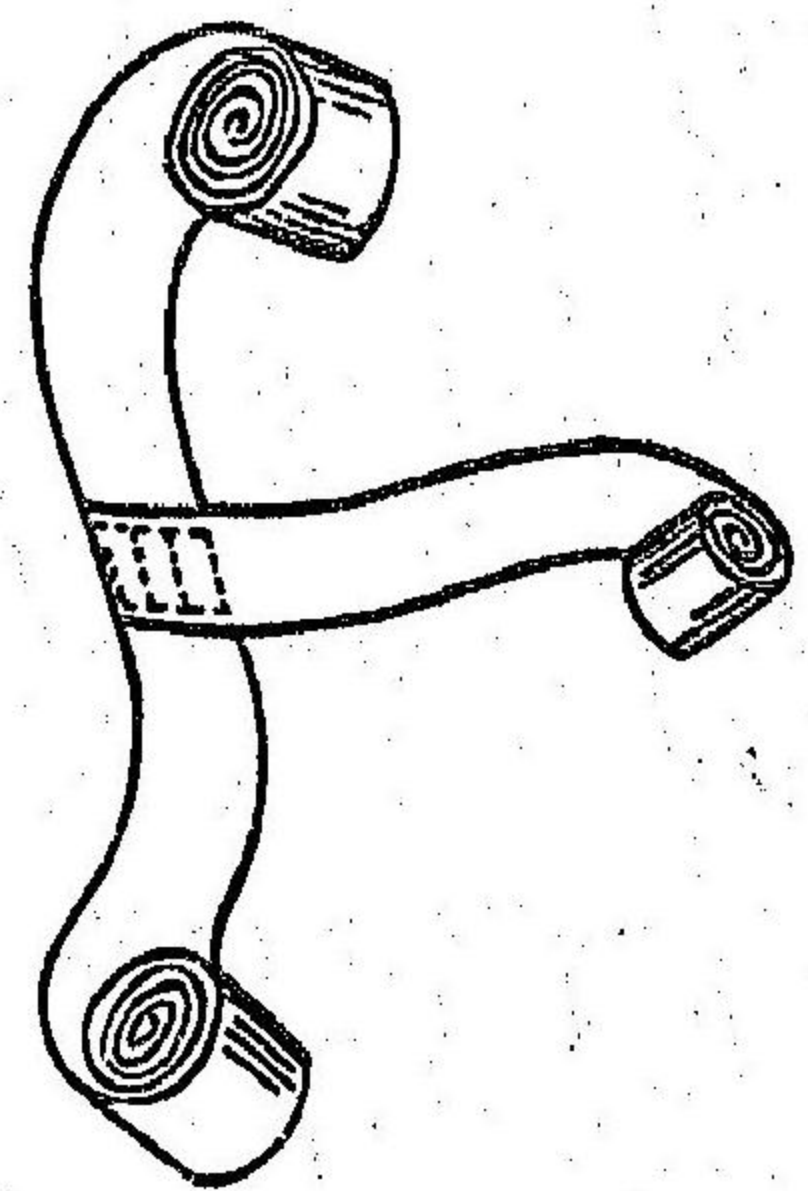
圖三十六第
法用巾角三足



第六節 復帶ノ用法

丁字帶 左ノ如シ多ク會陰ニ用ヒラル(第六十四圖)

圖四十六第
帶字丁複及單



多脚帶 木綿等ノ中央ヲ殘シ兩端ヲ適宜ニ引キ裂キテ數本ノ脚トシタルモノニシテ
多ク腹部ニ用ヒラル

拘攣帶 拘攣帶ハ鼻陰莖罩丸ヲ支フルニ用ヒラル其ノ單一ナルモノハ木綿切ニテ大
小形狀共ニ其部ニ適スル囊ヲ造リ紐又ハ小帶ヲ附シテ固定ス

第七節 副木

副木ノ用法 副木ハ骨折或ハ關節ヲ固定スル爲ニ用フ

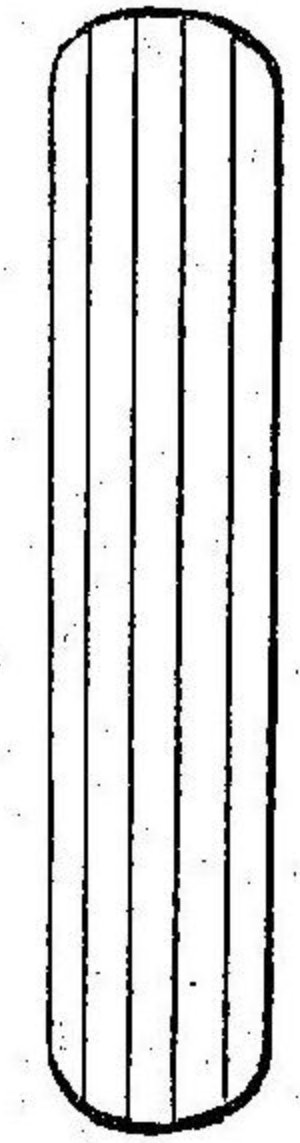
副木ハ其形狀大小其部ニ適合スル如ク木、銅、鐵線、鐵葉、アルミニウム、厚紙等ニテ造ラレ
一旦布ニテ包ミ皮膚ト副木トノ間ニハ綿花ヲ挿ミ下敷トシ一局部ニ壓ヲ加ヘサル様
ヌ可シ綿花、ナキトキハ脫脂綿紗ヲ用ヒ又已ムヲ得サルトキハ被服、秣、乾草、藁等可及

的彈力ヲ有スルモノヲ應用ス可シ

紙副木 ホール紙ヲ用ヒ小骨ノ骨折及關節ニ用フ

薄片副木 薄キ木板ニテ紙副木ト同様ニ用ヒラル

第 五 十 六 氏 吳



吳氏副木 第三十五圖ノ如キモノニシテ大ナラサル骨折或ハ小ナル關節ニ用フ(第六十五圖)

網狀夾 第六十七圖ノ如キ棒ニ金屬網ヲ張リタルモノナリ上肢ニ用ユルヲ例トス

手形副木 木製

ニシテ凹板平板

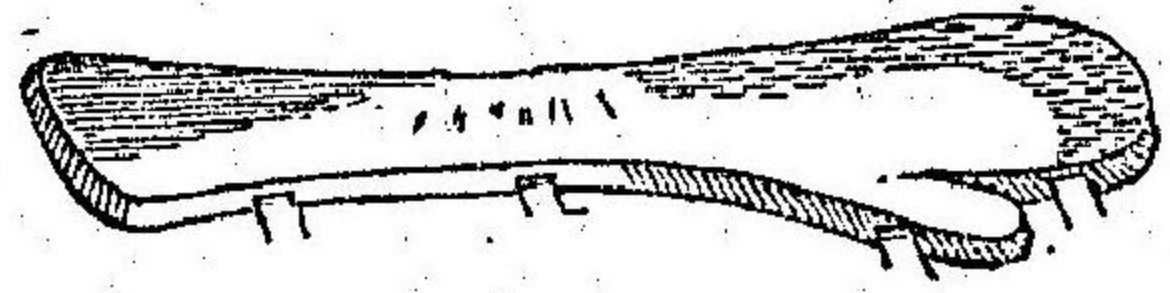
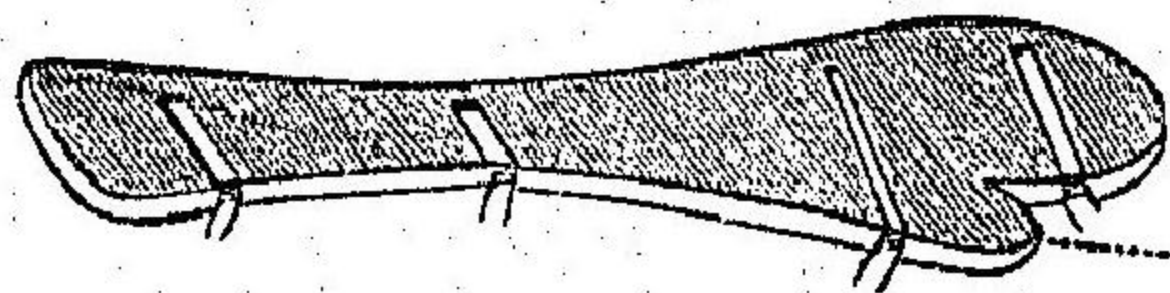
各一枚ヨリ成リ

前搏及手ニ適合ス

ル如クス下ノ形

如シ(第六十六圖)

第 六 十 六 圖 手 形 副 木



三角副木

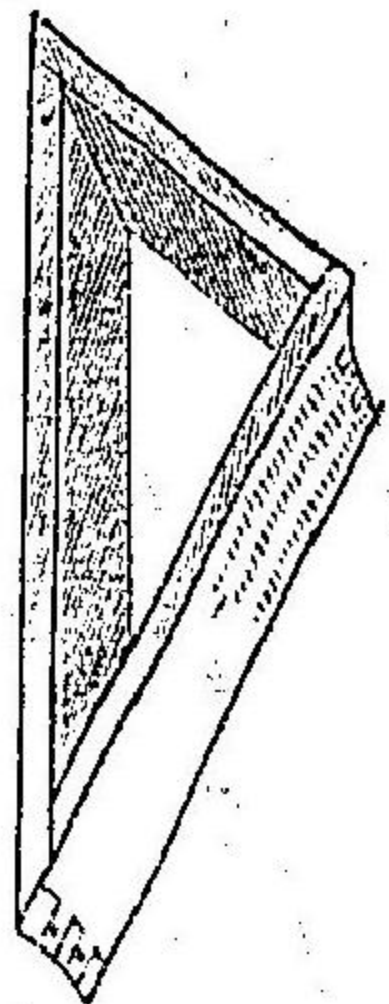
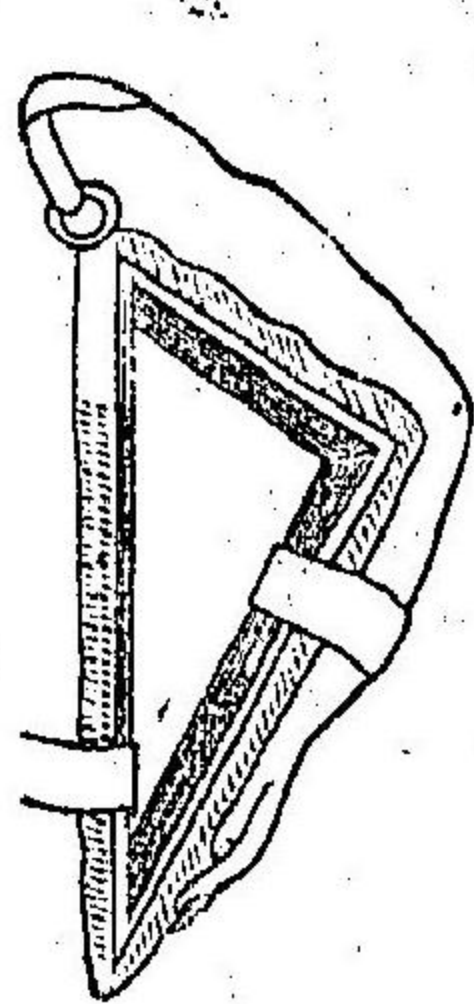
ノ如ク木ヲ以テ製シ

主ニ肩關節及上

膊ノ固定ニ用ユ

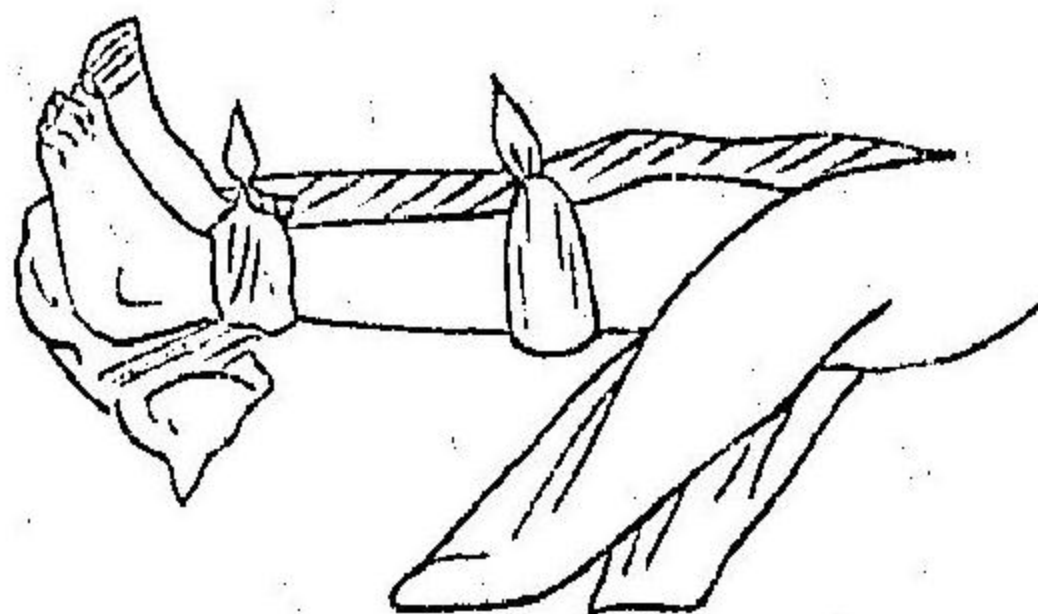
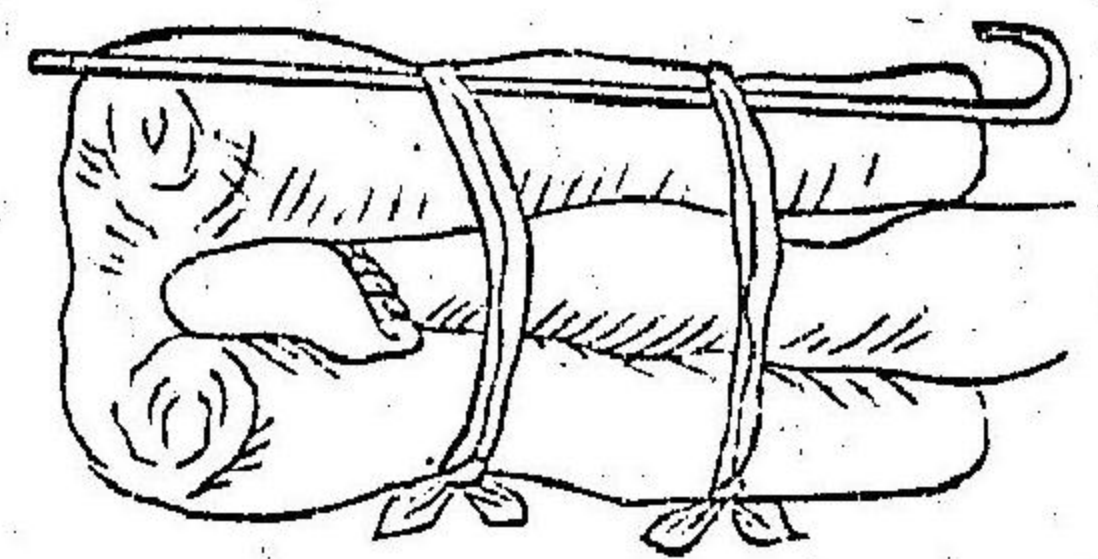
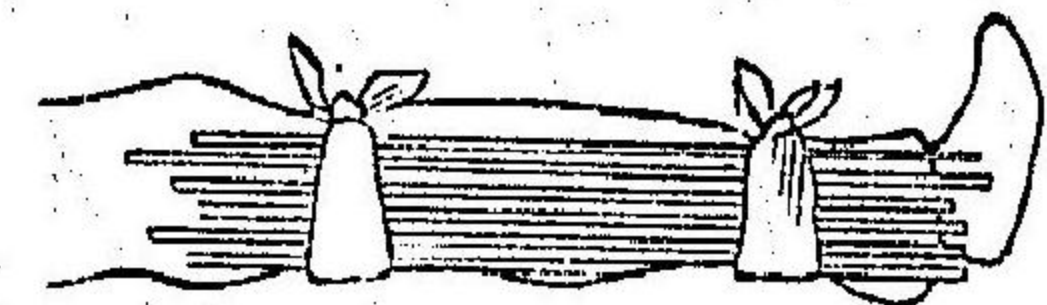
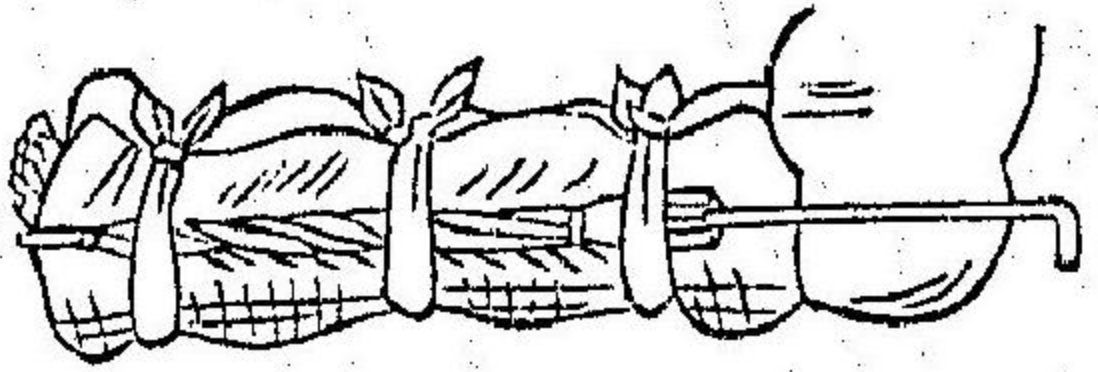
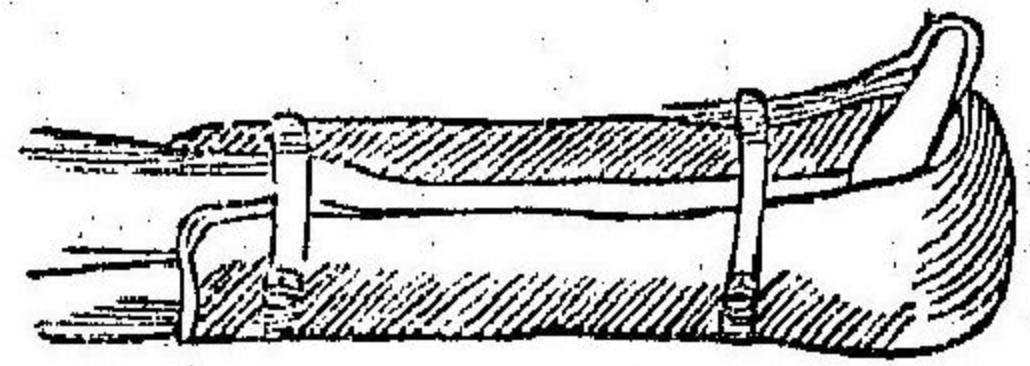
(第六十七圖)

第 六 十 七 圖 三 角 副 木



急造副木 急造副木トシテハ棒、杖、傘、狹キ板、ブリキ、藁束、木ノ皮卷キタル外套、毛布及劔乃銃等用ヒラル(第六十八圖)

第 六 十 八 圖 急 造 副 木



第八節 安置

細帶ヲ施シタル時ハ患部ヲ適當ノ位置ニ安置スルヲ要ス之ニ糠枕、砂囊等アリ

糠枕ハ布囊中ニ粃糠ヲ詰メタルモノナリ囊中ノ糠ヲ左右ニ寄セ一道ノ溝ヲ生セシメ

其上ニ患肢ヲ安置ス

砂囊長形ノ布囊ニ乾キタル砂ヲ詰メタルモノナリ患肢ノ兩側ニ沿フテ置キ之ヲ固定

安置ス

第七篇 救急

腦震盪

原因 鈍體ニ由テ頭部ヲ衝突或ハ打撲シ又ハ高處ヨリ墜落シ其震動ヲ柔軟ナル腦質ニ及ホス爲ニ起ルモノナリ

症狀 輕症ノモノニ於テハ頭部ノ打撲衝突後五官知覺視覺嗅覺味覺聽覺ノ作用ヲ失ヒ眩暈耳鳴眼朦朧トシ意識ヲ失ヒ顔面蒼白トナリ眼ハ閉鎖シ呼吸淺薄脈ハ細小系ノ如クシテ數ヲ減スルモ數分乃至數時ノ後脈性佳良トナリ二三回大息ノ後自ラ目ヲ開キ恰モ睡眠ヨリ覺メタル如ク次デハ自ラ起立シ業務ニ從事スルニ至ルモ

重症ノモノニアリテハ卒倒シ皮膚ヲ刺スモ痛癢ヲ感セズ顔面蒼白トナリ四肢厥冷シ呼吸冷ハ淺薄脈ハ不正トナリ尿管ヲ漏シ且ツ嘔吐ヲ發シ症狀益増惡シ遂ニ死ニ到ルモノアリ或ハ數日ノ後漸ク四肢ヲ自動スルニ至リ醒覺スルモノト雖モ此際體溫上昇顔面潮紅シ頭痛ヲ訴ヘ不安ノ狀ヲ呈スルコト數時間乃至數日ナル可シ

療法 宜ク皮膚ヲ摩擦シ或ハ毛布ヲ以テ身體ヲ包ミ心窩及臍腸部ニ濕布ヲ貼シ或ハ芥子泥ヲ用ヒ或ハ劇性ノ嗅藥エーテル等ヲ以テ鼻粘膜ヲ刺戟シ藥汁ヲ嚙下シ得ルモノニハ興奮藥トシテ樟腦麝香葡萄酒ブランデーヲ與フ可シ

其他頭部ニ氷囊ヲ貼シ或ハ冷水灌注ヲ行ヒ幸ニ平復ニ向フ時ハ久シク精神ノ勞使ヲ廢シ飲食ヲ節シ房事ヲ慎マシム可シ

卒倒

原因 卒倒ハ腦ノ血液運行ノ不整ヨリ來ルモノニシテ飢餓睡眠不足脫血疲勞後ノ勞働行軍戰鬪等ノ際之ヲ見又重症患者ノ快復期ニ之ヲ來スコトアリ

症狀 輕キ卒倒ハ眩暈シテ精神朦朧トナリ物ヲ明ニ見又人語ヲ正確ニ聽クコト能ハス呼吸淺ク脈膊頻數トナル重症ニアリテハ顔面蒼白ヲ呈シ身體冷厥シ冷汗ヲ流シ意識全ク廢絶シ呼吸弱ク脈ヲ觸レズ甚シキトキハ假死ノ状態ニ陥ルモノナリ

療法 先ツ被服ノ束縛ヲ除キ空氣流通十分ナル室ニ臥サシメ屋外ニ於テハ樹陰ヲ選ミ頭部ヲ低クシ若シ顔面潮紅結膜充血スル場合ニ於テハ冷卷法ヲ施スベシ

而シテ高聲ヲ以テ喚ヒ鼻孔ヲ刺戟シ醋又ハアンモニア水ヲ嗅ガシメ顔面及胸部ニ水ヲ注キ軀幹及上下肢ヲ心臟ニ向テ摩擦シ嘔吐アル時ハ頭部ヲ横ニ向ケ呼吸微弱ナルトキハ人工呼吸法ヲ施スベシ興奮劑トシテハメントール酒或ハ他ノ酒類ヲ冷水ニ混シ與フ可シ

喝病

原因 喝病ハ炎暑ノ候風ナキ時ノ劇動又ハ密集行進等ニ由リテ發スルコト多シ其誘因ハ虛弱病後睡眠不足飢渴飲酒交接ノ過度過勞等ニ因ス

症狀 初メ流汗頭重頭痛舌乾燥胸内苦悶倦怠ヲ覺ヘ眩暈昏迷シ應答不確實トナリ歩行蹣跚トナル此時適當ノ處置ヲナサハルニ於テハ卒倒ヲ來シ痙攣ヲ發シ顔面ハ暗赤色トナリ眼球ハ赤ク輝キ多クハ凝視ス呼吸ハ淺クシテ促リ時トシテハ肝弊ヲ帶ビ脈細ク殆ント手ニ觸レズ皮膚乾燥灼熱シ體温ハ四十一度乃至四十二度ニ昇リ人事不省トナリ且ツ狂騒スルコトアリ

療法 本病ノ處置ハ卒倒ニ同シキヲ以テ前章ヲ參考スヘシ

假死

假死トハ人事不省トナリ呼吸斷絶シ心臟ノミ僅カニ搏動セル状態ヲ云フ人ノ死ニ至ルヤ假死ヨリ順ヲ追テ真死ニ陥ルモノナリ

真死ノ徵候

- 一 屍體ニ暗赤色ノ斑紋屍斑ヲ生ス殊ニ屍體ノ下面ニ於テ著明ナリ
 - 二 關節強直ス
 - 三 眼球柔軟トナリ指壓スレハ壓痕ヲ殘ス
 - 四 臭氣ヲ放チ(屍臭)鼻孔ニ惡臭アル液ヲ出シ腹部ハ膨滿シ外面汚綠色ヲ呈ス
- 假死ハ電擊喝病毒瓦斯中毒又ハ絞扼盜首溺水等ニ於テ見ル
假死ニハ後章ニ述ブル人工呼吸法ヲ行フ可シ

電 擊

療法、電撃ノ爲ニ假死ニ陥リタルモノハ通氣良好ノ位置ニ於テ脱衣セシメ速ニ人工呼吸法ヲ行ヒ興奮藥ヲ投シ心臟ヲ亢奮セシメ火傷部ニハ其處置ヲナスヘシ昏迷狂亂痙攣アルモノ及顔面赤腫シタルモノニハ頭部ニ冷卷法ヲ施ス可シ絶縁ノ不完全ナル電氣裝置又ハ高壓電氣ヲ通セル電流ニ觸レタルモノハ電撃ト同一ノ危害ヲ受クルノミナラス又容易ニ電線ヨリ離ル能ハサルモノニシテ速ニ之ヲ救ハザレハ死ヲ招クモノナリト雖空手何等ノ準備ナク着手ス可カラズ其場合ノ處置左ノ如シ

- 一 先ツ電氣ノ取扱者ヲ迎ヘテ速ニ電流ヲ斷絶セシム可シ
- 二 救助者ハ硝子乾ケル竹木材毛織布等ヲ積ミ重ネタルモノ、上ニ乘リ自己ノ身體ト地面トヲ絶縁シ而シテ乾キタル毛布ヲ數層手ニ被ヒ又ハ洋服ノ上着ヲ折リ疊ミ或ハゴム手套ヲ入レ又ハ木材ヲ以テ被害者ヲ電線ヨリ引キ卸スカ若クハ長キ竹木材ノ柄ヲ有スル物ヲ以テ電線ヲ切斷ス可シ

毒瓦斯吸入

原因 地下室洞窟廢井糞坑燬破坑道燈用瓦斯ノ螺旋ヲ開キタルマ、放置セル室内燬爐ノ蓋ヲ開キ或ハ盛ニ炭火ヲ燃シ酸化炭素瓦斯ノ充滿セル室内ニ入り假死ニ陥ルコ

トアリ

症狀 初メ呼吸困難ヲ來シ顔面膨大青赤色トナリ眼球突出シ結膜充血瞳孔散大次テ呼吸緩徐脈膊結代アリ痙攣ヲ起シ遂ニ假死ニ陥リ次テ死ニ陥ルモノナリ

療法 炭酸瓦斯中毒ヲ救助スルニハ自己ノ生命ヲ失セサル様注意セザル可カラズ瓦斯充滿ノ室ニ入ラントスルトキハ先ツ外方ヨリ窓ヲ全開シ換氣ヲナス可シ(火焰ヲ近ク可カラズ爆發スルコトアリ)若シ窓戸ヲ開ク能ハサレハ石灰水若クハ常醋等分ノ水ヲ加フニ浸シタル布ヲ以テ鼻口ヲ緋帶シ戶外ニ於テ尙一度深ク吸氣ヲナシ急ニ室内ニ進入シ最モ近キ窓ニ近キテ之ヲ開放スルカ或ハ打チ毀シ室外ニ頭ヲ出シ新鮮ノ空氣ヲ呼吸シ次ノ窓戸ヲ破リ數回充分ニ呼吸シ室外ヨリハ盛ニ空氣ヲ送り且ツ室内ニ冷水ヲ注キ空氣ノ流通ヲ可良ナラシメタル後失神者ヲ搬出ス可シ失神者ヲ救助シタル時ハ清涼ナル氣中ニ安臥セシメ直ニ人工呼吸法ヲ行フ幸ニシテ呼吸振興シ來レハ鼻孔ヲ羽毛ノ類ヲ以テ刺戟シ噴嚏ヲ起サシメ又ハアンモニア水ヲ吸入セシメ胸部臀部脚足蹠手掌等ハ毛布又ハ刷毛ヲ以テ強ク摩擦シ幸ニ嚙下ヲ營ミ得ルニ至レバ葡萄酒ブランデーメントール酒等ヲ冷水ニ和シテ與フ可シ四肢ノ摩擦ハ氣力回復ニ至ル迄行フ可ク又一旦醒覺スルモ尙夢ノ如ク再ヒ睡眠スル如キトキハ努メテ喚ビ起シ身體ヲ動搖ス可シ

縊首

縊首トハ索條ヲ以テ頸部ヲ纏ヒテ下垂シ自己ノ體重ヲ以テ頸ヲ索扼シ窒息死ニ至ルヲ云フ

縊首者ト認ムル時ハ即時其ノ索繩ヲ切斷ス可シ但シ其際假死者ヲ落シ負傷セシムルコトアル故ニ他ノ手ヲ以テ其身體ヲ支フルヲ要ス次ニ被服ノ束縛ヲ解キ通氣良キ處ニ移シ上身ヲ高ク臥サシメ人工呼吸法ヲ施ス可シ

溺没

水中ニ溺レタル時ハ水或ハ泥土氣道ニ進入シ窒息死ニ陥ルモノナリ

死ニ類セル溺者ハ窒息ノ狀ヲ呈ス即チ顔面帶藍紅色トナリ眼ノ周圍ニ青班ヲ生シ口唇紫黑色ニ變シ皮膚光澤ヲ失ヒ口鼻ニ泡沫ヲ充テ氣管肺及胃中ニ多量ノ水ヲ含ム數時間水中ニ在リシモノニテモ多クハ假死ノ狀態ニ止リ真死ニ陥ルコト稀ナル故ニ數時間連續セル人工呼吸法ニヨリ回復スルコトアリ

溺者ハ速ニ濕リタル被服ヲ脱セシメ俯臥トシ心窩ニ枕衣服ヲ卷キタルモノニテ可ナリ(第六十九圖)又ハ救護者ノ膝ヲ枕トシ(第七十圖)頭部及胸部ヲ低クシ口ヲ開キ舌ヲ引キ出シ口内咽喉ノ泥土ヲ去リ手掌ヲ溺者ノ額ニ當テ首ヲ反ラセ背部ヲ打チテ氣道肺及胃中ノ水ヲ流出セシム強テ水ヲ吐シメントシテ倒マニ吊下ル等ノ如キハ有害ナ

リ水ヲ吐キ盡セバ直ニ人工呼吸法ニ着手ス可シ
人工呼吸法効ヲ奏セハ溫暖ナル褥中ニ移シ湯婆溫石ヲ與ヘ溫キブランネル布或ハ其ノ他ノ布片ヲ以テ四肢ヲ心臟ニ向テ摩擦シ能ク嘔下スルニ至レハブランデー等ノ酒類ヲ與フ可シ

法ス吐ヲ水ノ者没溺 圖九十六第



法採取者没溺 圖十七第



埋没

土砂、岩石、家屋等ノ崩レ來リテ人體ヲ壓シ之ヲ埋メテ空氣ノ流通ヲ絶チ以テ窒息セシムルコトアリ

速ニ發掘シ鼻口咽喉ノ土砂ヲ除去シ人工呼吸法ヲ行フ可シ多クハ骨折アルヲ以テ注意ス可シ

凍 涸

原因 疲勞負傷ノ爲運動シ得サルモノ或ハ醉中寒ニ遭遇シ或ハ寒ヲ冒シテ屋外ニ眠ルトキハ全身凍涸ニ罹リ終ニ假死ニ陥ルモノナリ

症狀 凍涸者ハ全身冷厥シ蒼白色トナリ手足唇鼻ハ紫藍色ヲ呈シ四肢強直シ耳鼻鼻尖指趾ノ如キ末梢ハ氷塊ノ如ク硬ク組織ハ脆クシテ損傷シ易シ故ニ是レガ取扱ハ粗暴ナル可カラズ

療法 凍涸者ハ凍傷者ト同ク急ニ温室ニ移ス可カラス必ス寒冷ナル室例之ハ空虚ナル納屋物屋等ニ入レ先ツ顔面ノ外身體ヲ雪ヲ以テ被ヒ其ノ雪ノ融解スルニ從テ雪ヲ加フ若雪ナキトキハ冷水ヲ盛レル浴槽中ニ入レ或ハ布片ヲ氷水ニ浸シ身體ヲ包ミ時々冷水ヲ注グ可シ

此ノ如クニシテ漸次氷雪ノ量ヲ減シ單純ノ水ニ移ラシメ身體柔軟トナルニ至リ冷カナル臥床中ニ移シ始メハ温キ布片ヲ以テ徐々ニ摩擦シ漸次室内ヲモ加温ス可シ皮膚

ノ摩擦ハ過劇ナル可カラズ動モスレバ傷フコトアレバナリ

要スレバ人工呼吸法ヲ行ヒ心臟充奮劑ヲ與ヘ皮膚粘膜ヲ刺戟シ嚔下作用ヲ起スニ至ラズ温茶葡萄酒ブランデー等ヲ與フ可シ

人工呼吸法

人工呼吸法トハ假死ノ場合一時廢絶シタル呼吸ヲ喚起セシムルノ法ニシテ即チ氣道ヲ開通シ胸廓ヲ一張一縮シ以テ肺ニ新鮮ノ空氣ヲ出入セシムルモノナリ

先ツ天候サヘヨクバ可成戶外新鮮ノ空氣中ニ於テ行フ室内ニ於テハ窓戸ヲ開放シ假死者ノ上半身ヲ露ハシ仰臥セシメ少ク上半身ヲ高クシ

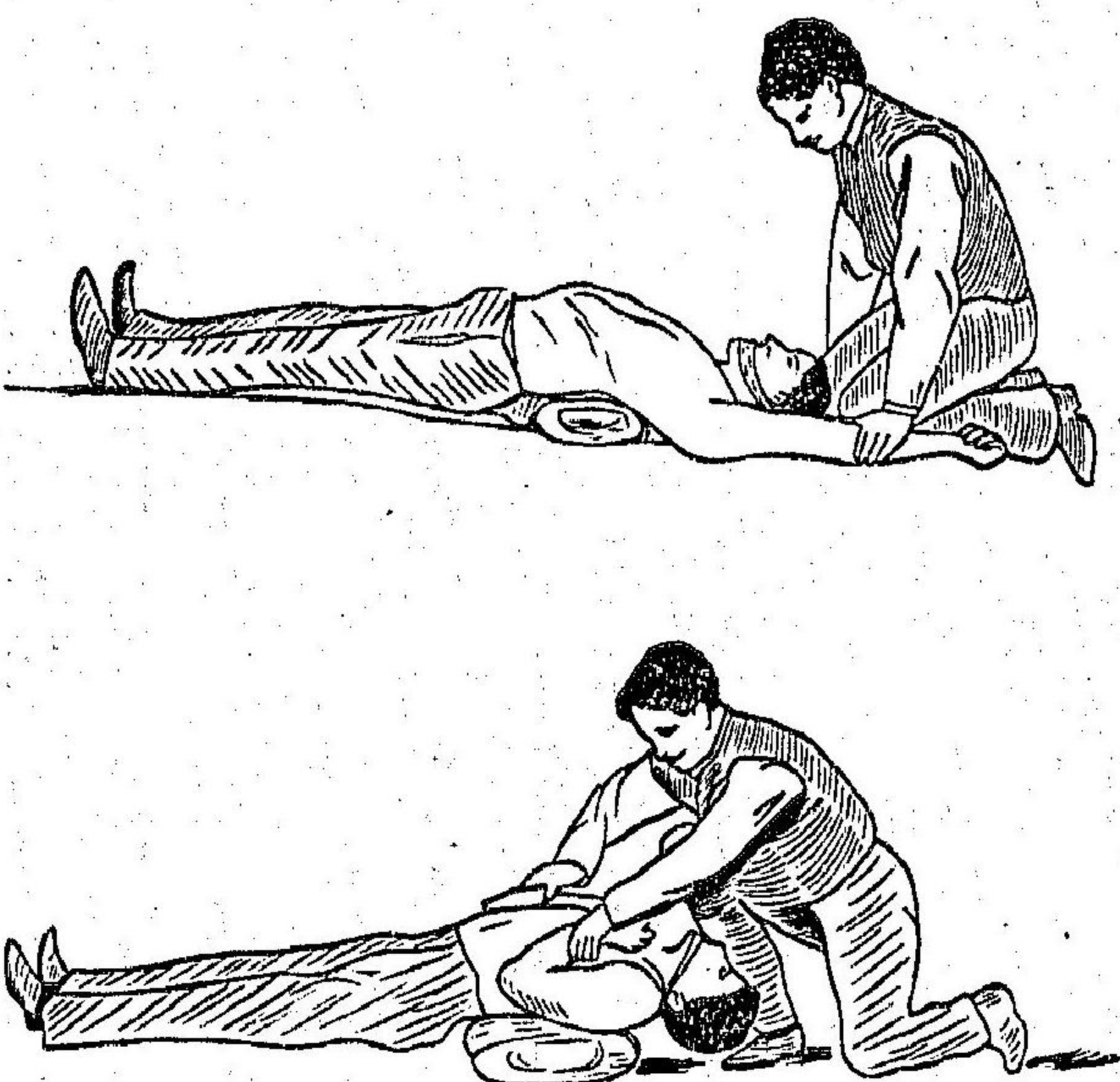
頭首ヲ下垂シ兩足ハ平行ニ直伸セシム又机ノ一端ヲ高クシ假死者ヲ仰臥セシメ頭首ヲ低キ方ニ向ハシムルモ可ナリ人工呼吸法ヲ行フニ方リ先ツ豫備手段トシテ開



口器ヲ下顎ノ一側ニ於テ白齒ノ後方ニ押シ入レ或ハ指頭ヲ頰部ヨリ齒間ニ入レ、コルク栓ヲ以テ開口セシメ舌ヲ引出シ布片ヲ纏ヒ一介者ニ左ノ拇指ト示指トヲ以テ固特

セシメ舌ノ退縮ヲ防グ若シ他ニ人ナキ時ハ引出シタル舌ヲ頤ニ著ケ細布ヲ以テ舌上及頤ヲ過キ項ニ於テ結ブ可シ或ハ介者ヲシテ兩手ヲ以テ下顎隅角ヲ把ヘ下齒列ヲ引出シ上齒列ノ前ニ送り出サシムルモ可ナリ(第七十一圖)

第一法 (第七十二圖)ハ假死者ヲ平ニ仰臥セシメ衣服ヲ束テテ背下ニ入レ頭部ヲ低ク



法吸呼工人 圖三十七第

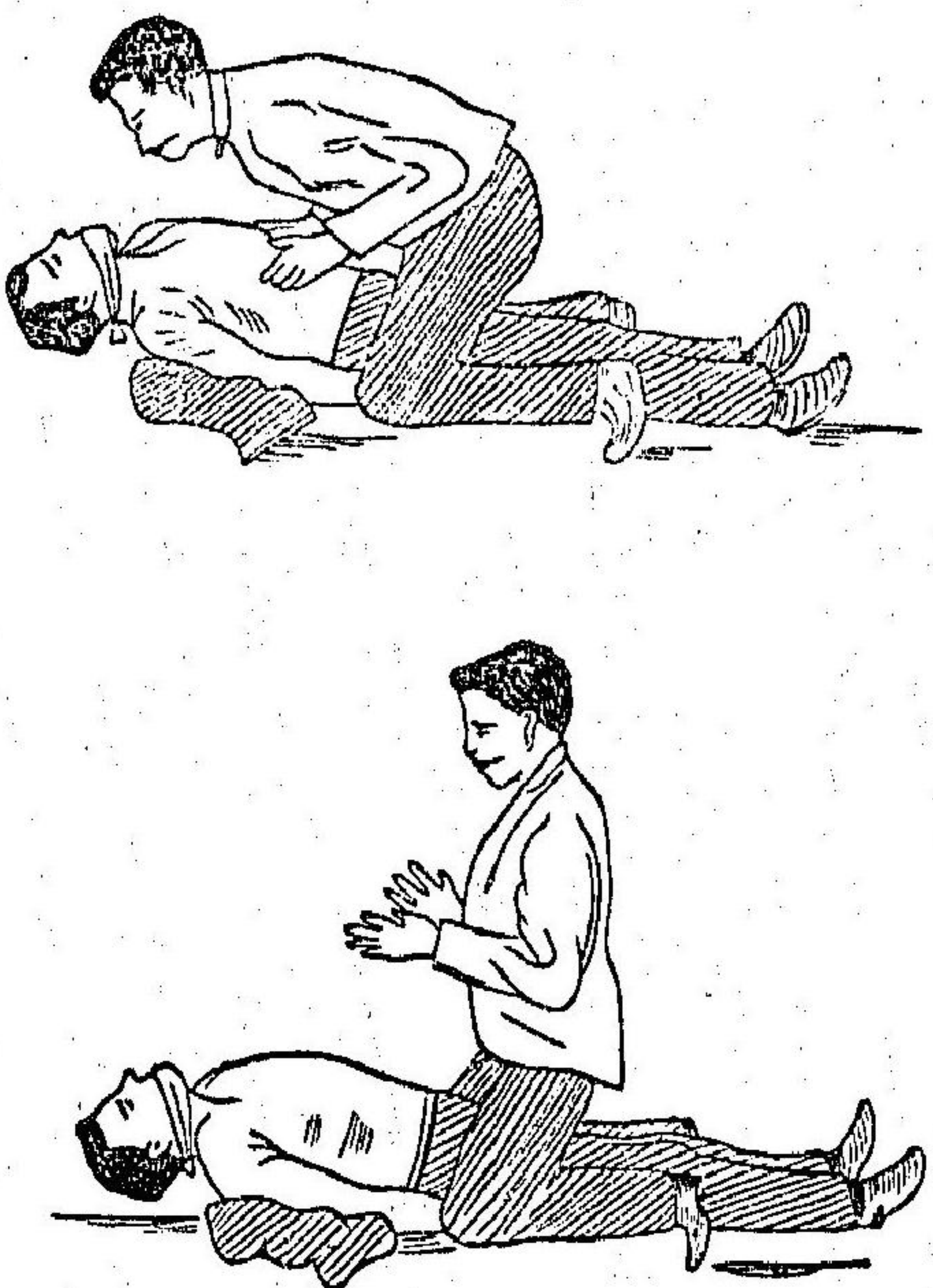
シ術者ハ患者ノ頭邊ニ跪キ兩手ヲ以テ其ノ兩臂ノ稍上方ヲ握リ平等ニ強ク上方ニ牽引シ頭ノ兩側ニ至ル之ニヨリテ胸廓ハ強ク擴張セラレ空氣ヲ氣道ニ流入セシム(即チ吸氣ヲ行ハシメタルナリ)此ノ操作約二秒ニシテ伸張シタル臂ヲ屈ケテ胸側ニ送り戻シ強ク胸側ヲ壓迫ス是レ胸廓及肺ヲ縮小セシメ空氣ノ流出セシム(呼氣ヲ起サシム)ルモノニシテ此ノ如クスルコト二秒ノ後更ニ兩臂ヲ舉上シ呼氣ヲ行ハシムルコト前ノ如ク頻回反復ス

可シ

又二人ノ介者アルトキハ假死者ノ兩側ニ一人ツ、跪キ各臂ヲ握リ一、二、三ノ合圖ヲ以テ同様ノ動作ヲナサシム然ルトキハ術者ノ疲勞少ク數時間行ヒ得ルノ便アリ

以上ノ動作ハ一分時間約十五回ノ割ヲ以テ頻回反復シ數十分乃至數時間ニ亙リ注意忍耐シテ行ヒ時々自發呼吸ヲ營ミ得ルヤ否ヤヲ視察ス可シ呼吸機能回復スルニ從ヒ蒼白ナル顔面殊ニ唇ハ紅色ヲ帶フルニ至ル可シ

第二法 (第七十三圖)ハ假死者ヲ仰臥セシメ衣服ヲ束ネテ腰下ニ差入レ假死者ノ兩上肢ヲ真直ニ垂レ或ハ背部ノ下ニ交叉シ術者ハ假死者ノ股部ニ跨リテ跪坐シ假死者ノ



法吸呼工人 圖七十二第

胸廓下部ニ兩手掌ヲ著ケ徐ニ押壓シ肋骨ヲ脊柱ニ近ケシメ少ク上方ニ壓迫シ且ツ術者ノ臂ヲ自己ノ胸肋ニ支へ身體ヲ俯屈シ其重リヲ以テ胸ノ壓迫ヲ補ハシメ術者ノ顔ハ假死者ノ頭ニ接觸スル迄ニ至ル可シ之ニ由リテ空氣ハ肺ヨリ壓出セラル、モノナリ後約二秒ヲ經テ術者ハ速ニ今迄壓迫シタル兩手ヲ放チ自己ノ身體ヲ擡ク

人工呼吸ヲ行フ際次ノ過失ヲ來スコトヲ忘ル可カラス一ハ操作速ニ失シ空氣ノ肺臟中ニ進入スルノ暇ナキコト一ハ胸廓ノ壓迫過劇ニシテ肋骨々折ヲ起シ又皮下溢血ヲ來スコト是レナリ

尙注意スヘキコトハ人工呼吸ヲ行フ時間ニシテ短時間ニ呼吸ノ振起セサルヲ以テ直ニ絶望スベカラス數時間持續シテ始テ回復スルコトアルヲ以テ忍耐シテ弛マズ續クルヲ要ス又暫時呼吸ヲ營ムモ再ヒ止ムコトアリ此ノ場合ニハ整然呼吸ノ回復スル迄續行ス可シ

人工呼吸法ニヨリ自發呼吸機能起リシトキハ即時ニ之ヲ止メ血液循環及體溫ヲ回復スルコトヲ努ム可シ

第八篇 産科大意

第一節 妊娠

妊娠トハ婦人ノ受胎シタル卵子ヲ其體內ニ包容セル状態ヲ云フ即チ卵巢ヨリ出テタル卵子ノ精虫ニ會合シテ受胎シ子宮内(普通)ニ止リテヨリ發育ノ後體外へ排出分娩セラル、マデヲ云フ受胎ハ交接ニヨリ其精虫腔ヨリ子宮ヲ經テ輸卵管ニ入り卵子ト會合シテ後再子宮内ニ來リテ發育スルモノナリ

妊娠ハ大凡二百八十日即チ四十週間妊娠ノ一ヶ月ハ二十八日ナリ持續シ胎兒ハ單獨ニテ發育ヲ遂ゲ得ルニ至ル迄子宮内ニアルモノナリ

卵膜

卵膜トハ卵ノ外被ニシテ二枚ノ囊ヨリナリ妊娠ノ末期ニ至レハ大ニ薄ク且ツ二層互ニ密着スルモノナリ

胎盤

胎盤ハ子宮ノ内面ニ密着シテ胎兒ノ血液ヲ母體ノ血液ト交換スル器ニシテ形狀扁平圓形或ハ橢圓形ヲナス大小一様ナラスト雖モ直徑平均十五乃至二十仙迷五六寸ニシテ厚サハ最モ厚キ處ニテ二乃至三仙迷七八分ヨリ一寸重量平均五百四十瓦大凡百四

十五(五)アリ

胎盤ハ胎兒ノ發育ニ密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ其作用ハ初生兒ノ呼吸器ト消化器ヲ兼ネルモノナリ即チ胎兒ノ不潔ナル靜脈血ハ胎盤ニ於テ母體ノ新鮮ナル動脈血ト會シ種々ノ(酸素其ノ他)營養分ヲ取り不必要ナル成分ヲ母體ニ返却シタル後清潔ノ動脈血トナリテ臍帶靜脈ニ集リ胎兒ニ至リ營養ヲナシ發育ヲ完全ナラシムルモノナリ

臍帶

臍帶ハ胎兒ノ臍ヨリ出テ胎盤ニ附着スルモノニシテ長サ大凡五十仙迷凡一尺六寸五分大サ小指大ナリ内ニ二條ノ臍帶動脈管ト一條ノ臍帶動脈管ヲ有ス臍帶動脈及靜脈ハ前記ノ如ク必用ナルモノナルヲ以テ此血液ノ循環ヲ阻止スルコト五分間以上ニ及フ時ハ胎兒死亡スルニ至ル
以上ノ卵膜胎盤及臍帶ハ共ニ胎兒娩出後排出スルモノナルヲ以テ之ヲ稱シテ後産ト云フ

羊水

羊水ハ卵膜内ニ滿チ初メ透明ニシテ水ノ如キモ後ニハ胎兒ノ排泄物ニヨリテ混濁スルニ至リ一種ノ臭氣ヲ有ス其量妊娠末期ニ於テ大凡五合ナリトス

羊水ノ効用ハ胎兒及胎盤并ニ臍帶ノ壓迫ヲ防キ以テ血行ノ妨ナカラシムル外胎兒ノ運動ヲ自由ナラシメ且其運動ヲシテ柔カニ母體ニ感ヒシメ且周圍ノ癒着ヲ防ク作用アリ

胎兒

胎兒ハ發育ノ初メニ於テハ白キ絲屑ノ如キモノナレ共漸次發育スルニ從テ身體各部ヲ具ヘ體形ヲナスニ至ル其順序ハ正キヲ以テ發育ノ狀態ト大サトニヨリ其時日ヲ定メ得可キモノナリ

妊娠第一個月ノ終胎兒ノ長サ僅カニ三分ヲ出テス

妊娠第二個月ノ終長サ大凡三仙迷大凡一寸(鶏卵大ナリ)

妊娠第三個月ノ終長サ大凡八仙迷大凡二寸六分(アリテ頭軀幹四肢ヲ分ツコトヲ得可ク大サ鶏卵ノ如シ此時ヨリ始テ胎兒ノ名稱ヲ附ス)

妊娠第四個月ノ終茲ニ男女ノ區別ヲ生シ長サ十五仙迷(凡五寸)トナリ胎盤ヲ形成ス

妊娠第五ヶ月ノ終長サ二十四仙迷(大凡八寸)胎兒ハ運動ヲ來シ母體ハ之ヲ感スルニ至ル

妊娠第六ヶ月ノ終全身ニ白色ノ毳毛ヲ生シ長サ二十九仙迷(九寸六分)トナル

妊娠第七ヶ月ノ終身長三十三仙迷(凡二尺一寸)體重大凡千瓦(二百四十五(五)アリテ諸器

管發育シ母體ヲ離ル、モ辛フシテ獨立ノ發育ヲ營ミ得可シ即皮膚ハ赤色ニシテ毳毛アリ胎脂ヲ附着シ眼瞼ハ已ニ開ケリ此時以後ニ至リ分娩セルモノハ充分ノ保護ヲ與フレハ生長スルコトヲ得

妊娠第八ヶ月ノ終身長四十仙迷凡一尺三寸重量大凡千五百瓦(三百八十九瓦)ニシテ皮膚ハ赤ク猶瘦セタリ顔貌ハ恰モ老人ノ如シ

妊娠第九ヶ月ノ終胎兒ノ身長四十五仙迷大凡一尺四寸五分體量大凡二千五百瓦六百五十瓦)ニシテ全身少ク肥滿ス

妊娠第十個月ノ終胎兒ノ身長大凡五十仙迷大凡一尺六寸五分重量大凡三千瓦八百瓦)ニ達シ全身充分ニ肥滿シ成熟胎兒ノ徵候ヲ呈スルニ至ル

成熟胎兒

成熟胎兒ハ身長四十六仙迷乃至五十仙迷ナルヲ常トス體重ハ大凡三千瓦(大凡八百瓦)ニシテ皮膚淡赤色ヲ呈シ爪ハ硬クシテ指頭ヨリ突出シ身體肥滿ス而シテ頭髮ハ三乃至五仙迷(一寸五分内外)ノ長サアリテ密生シ肩ノ廣サ十一仙迷(三寸六分)腰部ノ廣サ九仙迷(三寸)ナリ

成熟胎兒ハ分娩スルヤ高聲ヲ發シテ啼泣シ活潑ニ四肢ヲ動カシ眼ヲ開キ大小便ヲ排出ス而シテ口中ニ乳嘴又ハ指頭ヲ入ルル時ハ直ニ哺乳運動ヲナス

早熟胎兒

早熟胎兒ハ薄弱ニシテ矮小ナリ身長四十八仙迷ニ達セス體重亦三千瓦ニ達セズ皮色暗赤ニシテ皺皺多ク老人ノ如ク啼泣スルモ低聲ニシテ哺乳力不充分ナリ

第二節 妊娠ノ爲ニ起ル子宮ノ變化

子宮ハ妊娠スレハ肥大シ且ツ胎兒ノ發育スル爲ニ大サヲ増スモノナリ其各月ニ於ケル大サハ次ノ如シ

第一ヶ月ノ終著明ノ腫大ヲ見ス

第二ヶ月ノ終子宮ハ鴛卵大トナリ形少ク球狀ヲ呈ス

第三ヶ月ノ終子宮ハ拳大トナリ前下方ニ下垂スル如ク下腹下リ膨隆ス此時尿意頻數便秘ヲ來スコトアリ

第四ヶ月ノ終子宮ハ外部ヨリ大サ略小兒頭大トナリテ觸ル

第五ヶ月ノ終子宮ハ恥骨ト臍トノ中央ニ達シ胎兒ノ運動ヲ覺ユルニ至ル

第六ヶ月ノ終子宮ハ臍ト同高ニ達シ胎兒ノ運動ヲ觸知シ耳ヲ接スレハ聞クヲ得ルコトアリ

第七ヶ月ノ終子宮ハ臍ノ上方二指幅乃至三指幅ニ達シ心臓音ヲ聞ク可シ

第八ヶ月ノ終子宮ハ臍ト胸骨下端トノ中間ニアリ

第九ヶ月ノ終子宮ハ最モ高クシテ殆ト心窩及肋骨下縁ニ達シ腹部膨大シ母體ノ呼吸及運動ヲ妨クルニ至ル

第十ヶ月ニ至レハ子宮ハ前下方ニ下リ八ヶ月ノ終リト同一ノ高サトナルモ子宮ハ淺ク腹壁ニ近接シ腹部ハ前方ニ膨隆シ心窩ノ緊張ハ多少減ジ却テ呼吸ハ容易トナルモ運動ハ尙困難ナリ

第三節 妊婦ノ全身ニ及ボス變化

全身症狀中著明ナルハ惡心吐逆ナリ殊ニ早朝空腹時ニ於テ水様液ヲ吐クコト多ク時トシテ毎食後ニ吐逆スルコトアリ之ヲ惡阻ト云フ其他平常ノ嗜好品ヲ嫌ヒ却テ常ニ好マザルモノヲ喜ビ灰土白米煎豆煙草等ヲ好ムモノアリ此等ノ症狀ハ大約妊娠ノ初期第二三ヶ月ヨリ來リ長クトモ三四ヶ月ニシテ自ラ減退スルモノナリト雖モ甚シキハ少モ食餌ヲ取ル能ハスシテ遂ニ衰弱シ死ニ至ル場合アリ其他流涎ヲ來シ便秘下痢齒痛等ヲ發スルコトアリ

又眩暈衄血心悸亢進等ヲ來シ精神ハ沈鬱トナリ或ハ却テ活潑トナリ又氣分變リ易ク頭痛齒痛筋痛腰痛等ヲ訴ルコトアリ

妊娠ノ徵候

今妊娠ニ來ル變化ヲ左ノ三種ニ區別ス

一不確徵候トハ惡心嘔吐尿利頻數諸部ノ疼痛精神ノ變狀ノ如キモノニシテ他ノ病氣ノ場合ニモ來リ得キモノナリ

二半確徵候トハ月經ノ閉止子宮ノ膨大乳房ノ變化腹壁其他皮膚ニ於ル着色等ヲ云フモノニシテ是等ハ妊娠ニアラサル婦人ニモ來ルコトアレバナリ

三確徵候トハ胎兒ヨリ起ル變化ニシテ胎兒ノ諸部ヲ明ニ觸知スルコト胎兒ノ運動ヲ觸レ聽キ又ハ視ルコト胎兒ノ心臟音ヲ聽キ知ル事等ナリ

妊娠並ニ分娩ノ時期算定法

最終ニ通シタル月經ノ月日ヲ問ヒ其第一日ヨリ起算シ二百八十日ニ相當スル日ヲ分娩ノ豫定期日トナスナリ故ニ通常最終ノ通經第一日ニ七日ヲ加ヘ三ヶ月ヲ減シテ分娩ノ期日ト見做ス可シ

妊婦ノ養生

元來妊娠ハ婦人ノ天職ニシテ疾病ナラザルヲ以テ平素ノ攝生ト異ルナシト雖モ此場合ニ於テハ僅微ノ不攝生モ能ク疾病ヲ誘起スルヲ以テ注意セサル可カラズ
飲食物ハ平素ニ異ルヲ要セサルモ可及的消化シ易キ物ヲ用ヒ芥子胡椒唐椒ノ如キモノ或ハ酸味多キモノ強烈ナル酒濃キ茶珈琲ノ如キハ之ヲ避ク可シ爲ニ流産ヲ來シタルモノアリ

妊娠中ハ便通ニ注意スベシ便秘ノ傾キアラバ適當ノ運動ヲナシ又ハ毎朝清水ヲ飲ミ
淡薄ナル少量ノ野菜果物等ニヨリテ毎日一二行ノ通利ヲ得ルヲ良トス若シ之ニテ効
ナクハリスリン又ハ石鹼水ノ浣腸ヲ行フ可シト雖モ可成習慣ヲ得毎日上圖スルニ務
ム可シ

運動ハ管ニ通利ヲ良ナラシムルノミナラズ健康上大切ナルヲ以テ家事ヲ處理スル外
各自適宜ノ屋外運動ヲナシ清淨ナル土地ニ散歩スヘシ

異常ナキ妊婦長ク屋内ニアリ坐業ヲナシ且ツ無意ニ横臥スル等ハ却テ害アリ殊ニ勉
メテ裁縫ニ從事スル如キハ怠ム可キコトナリ其他長途又ハ惡道ヲ人力車馬車ニ乘リ
重キモノヲ提ゲ或ハ高處ニアルモノヲ上下スル如キ一般勞責シテ腹部ニ力ヲ要スル
コト等ハ避クルヲ宜トス

妊娠中下腹ニ疼痛緊張ノ感アルカ又ハ胎兒ノ下降シタル如キ感アラハ運動ヲ禁シ安
靜ヲ守ル可シ

妊娠中ノ交接ハ最モ注意ス可キモノトス殊ニ末期ニアリテハ頗ル有害ナリ

精神ノ過勞モ害アリ故ニ妊娠中ハ睡眠ヲ充分ナシ喜悲ノ情ヲ劇シカラシムルコトヲ
避ク可シ又分娩ノ困難ヲ思ヒ畸形兒ヲ生ムコトナキヤ等ノ杞憂ハ全ク害アルヲ以テ
慰撫ス可ク且ツカ、ル談話ヲナス可カラズ小説演劇音樂等ハ感情ヲ動カスコト大ナ

ルノミナラス長時間雜沓ノ内ニアリテ端坐スルモノナレハ害少カラズ

衣服ハ寬大ニシテ時候ニ適シ溫保ノ目的ヲ達スルヲ以テ足ル妄リニ重着シ運動ヲ妨
ケ又ハ強ク緊リテ身體ニ壓迫ヲ加フルハ宜シカラズ

腹帶ハダレ腹トナラザル限り正規ノ妊娠ニハ必要ナシトスルモ溫保ト胎兒ノ位置ヲ
保ツ上ニ於テ必用ナシトセズサレハ舊慣ニヨリテ所謂由輪田帶ヲナスモ可ナリ此時

ニハ廣キ布片ヲ緩カニ纏フ可シ之ニ依リテ胎兒ノ發育ヲ妨ケ分娩ヲ容易ナラシムル
ト云フ如キハ俗説ニ過ギス

浴湯ハ毎日一回位之ヲ用フルハ害ナキモ長時間ヲ費スコトナク感冒セサルコトニ注
意ス可シ

妊娠ノ末期ニ至リ陰部ヨリ粘液ノ出ルコト多キ時ハ一日數回微温湯ヲ以テ外陰部ヲ
洗フ可シ

乳房ハ已ニ妊娠中ヨリ注意シ不潔物ノ附着シタル時ハ石鹼ニテ清潔ニシ且ツ冷水又
ハ酒精ニテ屢々之ヲ洗フコトハ他日化膿等ヲ豫防スルニ可ナリ乳嘴突起セズ扁平ナ
ル時ハ日々之ヲ引出シ哺乳ニ適セシムル様計ル可シ

殊ニ妊娠中ハ俗説ヲ信シ爲ニ危害ヲ來スコトアルヲ以テ注意ス可シ

第四節 分娩時ノ準備及處置

分娩ニ方リテハ直ニ産婆ヲ招ク可キモノナリト雖モ茲ニ豫メ心得可キコト及相當ノ準備等ヲ記シ參考ニ供セントス

産室ハ靜穩ニシテ光線ノ射入ヨキ階下ヲ選定シ且ツ家人ノ中ヨリ沈着ニシテ用ニ立ツ可キ婦人一人ヲ選ミ室内ニテ用ヲ辨スル外無用ノ人ハ一切室内ニ立入ラシム可カラス室ハ空氣ノ流通ヲ能クシ二十度内外ノ溫度ヲ保タシム可シ

産床ハ三方ヨリ近寄り易キ様ニシ藁布團又ハ通常ノ臥褥ヲ用ヒ其上ニ油紙及敷布ヲ布キ適量ノ殺菌水(清潔ナル蒸冷水)及多量ノ沸湯ヲ用意シ消毒初生兒ノ沐浴又ハ湯婆等ニ支障ナキヲ期ス可シ

産婦ノ衣服ハ清潔ナルヲ用ヒ葡萄酒又ハ善良ノ日本酒ヲ用意シ全時ニ初生兒ニ用フ可キ浴槽及臥床等ノ用意ヲ忘ル可カラス

分娩ノ第一期開口期ニハ産婦ハ室内ヲ歩行スルモ差支ナシ而シテ疼痛(陳痛)來ルトキハ何カ堅固ナルモノニ倚ラントスルヲ以テ其心シテ助ク可シ

産婦ノ疼痛(陳痛)發作ニ際シテハ努責ヲ禁ス可シ若シ此陳痛速リニ至リ同時ニ血液ヲ含メル粘液漏出スルトキハ直ニ産床ニ就カシム可シ然ラサルモ陳痛強劇ナレハ産床ニ就カシムルハ勿論ナリ而シテ後第二期娩出期ニ至リテハ陳痛ノ來ル時ノミ努責スルヲ教ヘ無益ノ努責ヲ禁ス一ニ産婆ノ意圖ニ從フ可キモノトス

初生兒臍帶ノ剪斷

初生兒生ルレハ母體ノ股間ニ横ヘ後産臍帶ヲ緊張セザル位置ニナシ口鼻ヲ拭ヒ且ツ壓迫スルコトナク自由ニ呼吸ヲ營ミ得ル様注意ス可シ而シテ高聲ヲ發シテ泣クトキハ呼吸ノ正確ニ營マレツ、アル證ナルヲ以テ臍帶ヲ檢シ脈膊ヲ感スル間ハ其儘ニナシ置キ少時ヲ經テ脈膊ヲ觸レザルニ至レハ初生兒ノ臍ヨリ二指幅位距リタル處ニテ丈夫ニシテ柔カナル紐又ハ麻糸ニテ臍帶ヲ結紮ス其法双手ノ拇指ト示指ヲ以テ結紮ス可キ場所ニ附着セル膠樣質ヲ可成擦リ去リ之ヲ結紮シ後更ニ其兩端ヲ今一回周圍ニ回シテ結節ヲ作ル可シ茲ニ於テ第一結紮了レハ更ニ之ノ部ヨリ胎盤ニ向テ二指幅ヲ距テ同様ノ方法ヲ以テ第二ノ結紮ヲナス可シ而シテ兩結紮點ノ中間ヲ左手ニ持テ他ノ損傷ヲ防キツ、右手ニ剪ヲ持テ臍帶ヲ切斷ス可シ茲ニ於テ胎兒ヲ溫キ襦袢又ハフランネル布ニ包ミ臍帶ノ斷端ヨリ出血シ居ラサルヤ呼吸ハ正規ニ持續シツ、アルヤヲ注意ス可シ

後産第三期ハ其後數回ノ陳痛ニヨリテ子宮内ヨリ漸次剝ケ臍口ニ來リ外陰部ハ膨滿セル狀ヲ呈スルニ至ル是ノ時ニ於テ子宮上ニ輕壓ヲ加フレバ胎盤ハ外部ヘ壓出サル、ヲ以テ兩手ニテ之ヲ受ケ索條部ヲ取り之ヲ何レカノ方面ニ捻リ回セハ全部索狀トナリ徐々ニ脱出スヘシ決シテ強力ヲ以テ引出サントスル勿レ只捻轉スルノミヲ以テ

足レリトス脱出後ハ全部ヲ細檢シ胎盤ノ欠損シテ子宮内ニ遺殘セサルヤ又卵膜ノ破
レ口ノミニテ其外ニ欠損部ナキヤヲ検査ス可シ

第五節 産褥ノ經過及初生兒取扱法

産婦ノ分娩後妊娠前ト同一ノ状態ニ復スルニハ通例六週乃至八週間ヲ要スルモノナ
リ之ノ期間ヲ産褥ト云フ

産褥ニ入レハ乳汁ヲ分泌ス初メハ帶黄白色ナレトモ三日乃至四日ヲ經レハ乳房腫大
シ分泌増加ス分泌後數日間ニ於テハ褥婦ハ疾病ニ罹リ易キモノナレハ注意ヲ要ス健
康ナル褥婦ハ快活ニシテ何等ノ苦痛ナク睡眠静ナリ食氣ハ二三日ヲ經レハ舊ニ復シ
脉膊ハ緩慢ニシテ一分間六十乃至八十ヲ算ス體温ハ三十六度五分ヨリ三十七度五分
ノ間ニアリ疾病ヲ來セハ體温及脉膊共ニ異常ヲ呈ス

子宮ノ漸次縮小スルト共ニ血液ト粘液ト混合シタルモノヲ排出ス之ヲ惡露ト云フ數
週持續ス可シ

産褥ノ經過ヲ佳良ナラシメントスレハ安静ト清潔トニ注意スルコトヲ要ス分娩後外
陰部ニ附着セル血液粘液等ハ丁寧に拭ヒ去リ布又ハ綿ヲ以テ洗ヒ殺菌綿紗ヲ當テ丁
字帶ヲ以テ押へ且ツ腹帶ヲ施ス可シ

五日乃至七日間ハ主トシテ仰臥ノ位置ヲトラシメ衣服ハ下着ト寝衣ヲ用ヒ寛大ナル

ヲ撰ミ不潔ヲ來セハ度々交換シ室ハ夏時晴天ナラハ窓ヲ明ケ冬時ニ於テハ隣室ノ窓
ヲ開ク可シ精神ハ注意シテ安静ヲ守ラシムル爲家事ヲ放擲セシメ感動ヲ避ケシメ談
話モ慎ム可シ食品ハ初メ一二日間ハ主トシテ牛乳肉汁又ハ粥葛湯ノ如キ流動物或ハ
半熟卵ヲ與ヘ三日乃至四日ヨリ漸次常食ニ移リ鰯魚肉等ヨリ獸肉野菜ヲ用ヒ八日目
ニ至レハ殆ント常食ヲ與ヘテ可ナリ

産褥ヲ去リ得ヘキ時ハ平均二週日ヲ以テ標準トス可シト雖モ勞働等ヲナスコトナク
冬季等ニアリテハ四五週日産室ニアリテ感冒ヲ防ク可シ

○初生兒ノ營養

初生兒ニ最モ適當ナル營養品ハ母乳ナリ止ムナキ場合ヲ除ク外ハ兩者相互ノ利益ト
シテ母親自ラ授乳ス可キモノトスヘシ母體ニ肺結核脚氣精神病或ハ癩癩ノ如キ疾病
アル時ハ他ノ方法ニヨラサル可カラス

婦人ノ小兒ニ授乳スルニ適スル時ハ分娩後八乃至十時間ノ後ニシテ乳房ハ清潔ヲ守
ル可シ清潔ハ育兒上決シテ忘ル可ラサルコトナリ授乳前ニハ其都度乳房ヲ清水ニ浸
シタル布片ニテ拭ヒ授乳了レハ再ヒ乳汁ノ腐敗ノ爲不潔トナルコトヲ避ク可シ
授乳ニハ左右乳嘴ヲ交互ニ含マシム可ク十五分乃至二十分ニシテ乳ニ飽キ眠ニ就ク
モノナリ

授乳時間正確ハ養育上最モ必用ナルヲ以テ規則的ニ初メ二週間位ハ二三時間毎ニ其後ハ三時間毎ニ夜間ハ四時間毎ニ一回授乳スヘシ時間ヲ守ラス授乳スレハ小兒ハ直ニ消化不良ヲ來ス可シ

○初生兒ノ沐浴

第一年間ハ毎日沐浴セシムルヲ必用トスルモ寒胃ニ罹ラシメサル様注意スヘシ臍帶ノ殘部ハ漸次乾燥シテ第四日ヨリ第七八日目迄ノ内ニ脫離スルヲ以テ完全ニ消毒セル綿ヲ以テ軟カニ包ミ綿帶シ置ク可シ

○初生兒ノ衣服

初生兒ノ衣服ハ寛大ニシテ余リ堅カラサルヲ可トス餘リニ重着セシムル時ハ汗疹ヲ生ン感冒等ニ罹ルコトアリ衣服ノ地質ハ毛物ヨリハ木綿ヲ用フルヲ可トス金巾ハ冷氣ヲ覺ユルヲ以テ不可ナリ襪襪ハ新ラシキ布ヲ用ヒ古キ物ヲ用フル場合ハ一旦煮沸消毒シタルモノヲ用フ可シ

今參考ノ爲メ分娩時三千瓦ヲ有スル小兒ノ平均一ヶ月ニ體重ヲ増加スル例ヲ示セハ左ノ如シ蓋シ小兒ノ健否ヲ知ル標準トナレバナリ

第一ヶ月ニ於テ	約八百瓦	第二ヶ月ニ於テ	約八百瓦
第三ヶ月ニ於テ	約七百瓦	第四ヶ月ニ於テ	約七百瓦

第五ヶ月ニ於テ	約六百瓦	第六ヶ月ニ於テ	約五百瓦
第七ヶ月ニ於テ	約四百瓦	第八ヶ月ニ於テ	約三百五十瓦
第九ヶ月ニ於テ	約三百瓦	第十ヶ月ニ於テ	約二百五十瓦
第十一ヶ月ニ於テ	約二百五十瓦	第十二ヶ月ニ於テ	約二百瓦

○初生兒ノ糞尿

健全ナル初生兒ハ二十四時間中ニ於テ三四回ノ大便ヲ通ス若シ便秘スル時ハ微温湯又ハグリソリンヲ用テ浣腸ヲ行ヒ排便ヲ行フヘシ利尿ハ平均十回内外ナリ

○乳母ノ選擇

乳母ハ二十歳乃至三十歳位迄ノモノニシテ健康ナル外見ヲ有シ病氣ナク乳房ノ發育佳良ニシテ容易ニ乳汁ヲ壓出シ得可ク乳母ノ小兒ガ其乳ニヨリテ充分發育シ全身ニ疾病障害ナキモノヲ撰ブ可シ尙醫士ノ健康診斷ヲ受ケ適否ノ斷定ヲ受ク可シ

第六節 妊娠及産褥ノ異常及處置

妊婦ハ種々ノ病氣ノ發スルモノナレ共主ナルモノ左ノ如シ

○淋病

婦人ニ最モ多ク來ル疾病ニ白帶下ニシテ陰部ヨリ乳様又ハ黄綠色ノ液體ヲ分泌スルモノナリ就中注意ヲ要スルハ淋毒病ノ爲ニ來ルモノニシテ交接ニヨリテ傳染ス此ノ

分泌物ハ傳染性ヲ有スルヲ以テ此病ノ存スル時ニハ汚染シタル手指ヲ顔面ニ觸ル可
カラス淋毒眼ニ入り眼病ヲ來シ失明スルコトアリ殊ニ注意ヲ要スベキハ斯ノ如キ患
者ノ産ミタル小兒ニハ必ス五十倍ノ硝酸銀水ヲ分娩直後ニ點眼スルニアリ之レ膿漏
眼風眼豫防ノ最良法ナリ

○嘔吐惡阻

妊婦ノ吐逆ハ初メ二三ヶ月ニ於テ甚シトス之ニ由テ敢テ衰弱ヲ伴フコトナケレハ病
氣ト稱ス可カラサルモ若シ吐逆甚シクシテ全身ニ衰弱ヲ來スカ如キ場合ニハ之ヲ一
ノ疾病トス可ク通例初期ニ於テ早朝空腹時ニ惡心或ハ吐逆ヲ來ス等ハ輕キ方ニ屬ス
カ、ル時ハ過度ノ勞働ヲ避ケ適度ニ運動ヲナサシメ殊ニ新鮮ナル大氣ノ内ニ散步セ
シメ便通ニ注意シ必用アレバ洗腸ヲ行ヒ毎朝起床前ニ少量五合位ノ牛乳又ハ粥汁葛
湯ヲ用ヒ一時間位猶臥床ニアラシム可シ重キモノニアリテハ殆ト吐逆シ盡シ食物ヲ
取り得サルコトアリ次ニ總テノ食物ヲ嫌フニ至リ營養減退精神異常ヲ來シ救フ可カ
ラサルニ至ルコトアリ注意セザル可カラズ半夏茯苓煎ヲ試ム可シ

○水腫

水腫ハ單ニ妊娠ノ爲下肢及大陰唇等ニ來ルコトアレ共時トシテ腎臟病心臟病ノ爲ニ
來ルコトアリカ、ル場合ハ全身殊ニ眼瞼ニ著キヲ以テ注意可ク速ニ醫療ヲ受ケサル

可ラス且ツ脚氣ニアリテモ下肢ニ水腫ヲ來スコトアリ

○卒倒

妊婦ノ卒倒ハ窮屈ナル衣服ヲ用ヒ又ハ帶紐ヲ緊縛シ又ハ重着シ芝居寄席寺院等多人
數ノ集合シタル處ニ長ク居ルコト等ニ起ルモノニシテ卒カニ皮膚蒼白トナリ四肢冷
へ五官ノ作用ヲ失フモノナリ
カ、ル場合ハ醫士ヲ招クハ勿論ナルモ靜カニ平臥セシメ頭部ヲ低クシ衣帶ヲ緩メ戸
障子ヲ開放シ頭部ニ冷卷法又ハ氷卷法ヲ行ヒ酢香水等ノモノヲ吸入セシメ心窩ニ芥
子泥心部ニ氷嚢ヲ置ク可シ

○流産

妊娠後二十八週ニ滿タスシテ分娩スルヲ流産ト云フ其原因種々アリト雖モ子宮ノ疾
病下腹部ノ打撲衝突墜落身體ノ振盪精神興奮ニアリ又藥品中毒ニ原因スルコトアリ
此場合恐ル可キハ子宮ノ出血ナリ

○早産

妊娠後二十八週ヨリ三十八週以內ニ分娩スルヲ云フ

○子癇又ハ急癇

子癇ハ産婦ニ來ルモノナレトモ屢々妊娠中ニ來ルコトアリ全身ニ痙攣ヲ發スル病ニ

シテ顔面ヨリ始リ上肢軀幹下肢ニ及ビ項部ハ後方ニ屈シ顔面ハ紫紅色ヲ呈シ齒牙ヲ閉シ口腔ヨリ泡ヲ出ス時トシテ全身知覺ヲ失シ人事不省トナリ自ラ舌ヲ嚙ミ出血スルコトアリ殊ニ此病ハ發作ニ先チ全身ニ水腫ヲ來シ尿量急速ニ減シタル時ニ起リ易シカ、ル場合ハ醫士ノ來ル迄ヨロシク患者ヲ保護シ舌口等ヲ傷ケサル事ニ注意シ木片等ヲ齒間ニ挟ミ下顎骨ヲ前方ニ引キ窒息ヲ豫防ス可シ

○產褥熱

產後ニ於テ最モ恐ル可キハ發熱ナリトス體温上昇脈頻數頭痛口渴關節痛衰弱等ヲ呈ス

產褥熱ハ分娩ノ爲ニ受ケタル生殖器ノ創口ヨリ病芽ノ進入スルニ因スルモノニシテ產婆ノ手或ハ不潔ニシテ病原ノ附着シタル布片其他ノ物品ニ因ルモノナリ

症狀 普通分娩後第三日ノ頃ニ突然惡感又ハ戰慄ヲ來シ齒關シ夫ヨリ三十八度五分乃至四十一度ノ熱ヲ發シ脈ハ頻數トナリ全身灼熱シ口渴ヲ來シ不眠頭痛アリ局部ノ創面ハ黃色又ハ灰白色ノ苔ヲ有シ疼痛ヲ訴ヘ遂ニ化膿ニ陥リ死ヲ致スコトアルヲ以テ產後ハ一日三回檢温ヲ怠ル可カラス

豫防法

產褥熱ハ前篇ニ述タル創傷傳染病ト見做ス可ク病芽ノ進入ニヨリテ起ルモノナハレ

消毒清潔法ヲ嚴守シテ妊娠分娩產褥等ノ處置ヲナスノ外ナシトス

○腔加苔兒 (自下)

症狀 腔粘膜ノ分泌物增多シ白色若クハ膿様ノ粘液ヲ漏シ時トシテ尿意頻數等ヲ來ス

療法 清潔ヲ旨トシ月經時ハ殊ニ注意シ安靜ヲ守リ便通ヲ注意シ過房ヲ戒ム可シ

局處療法ハ屢々洗滌シテ清潔ニ保タシムルニアリ洗滌用トシテ用フ可キモノハ

硫酸亞鉛 六〇

又ハクロール酸カリウム

常水 四〇〇〇

右洗滌料 四〇〇〇

過マンガン酸カリウム 二〇 常水

右洗滌料 五〇〇〇

リゾール 〇五 常水

右洗滌料

腔内洗滌ハ普通ノ濯水器ヲ以テスルモ可ナリ

其他綿花ニ糸ヲ附シ左ノ藥液ヲ吸收セシメテ腔中ニ挿入スルハ簡便ニシテ佳効アリ

タンニン酸	四、〇	リスリン	三〇、〇
右外用			
明礬	五、〇	ワゼリン	三〇、〇
右爲軟膏綿球ニ浸シ挿入ス			
イロチオール	二、五	リスリン	五〇、〇
右同上			
陰部瘡庠アレハ左方ヲ用フ可シ			
酸化亜鉛	二、〇	樟腦	〇、五
澱粉	三〇、〇		
右撒布			
石炭酸	六、〇	グリスリン	二〇、〇
水	七四、〇		
右塗布			

三六二

第九篇 小兒病

齒牙ノ發生

乳齒ノ發生ハ左ノ如キ順序ヲ以テ數回ニ發生スルモノナリ

第一期	第五—八ヶ月	二個	(此期ノ齒終ニ於ケルノ數ニ)
第二期	第八—十二ヶ月	六個	同
第三期	第十二—十六ヶ月	十二個	同
第四期	第十八—二十四ヶ月	十六個	同
第五期	第二十四—三十ヶ月	二十個	同

而シテ乳齒發生後數年ヲ經テ所謂永久齒ヲ生スルモノニシテ五—六才ノ間ニ於テ先ツ四個ノ臼齒ヲ發生シ此際乳齒ハ弛緩シ多クハ其發生ノ順次ヲ以テ脱落シ新ニ發生セル永久齒之ニ代リ十六—二十六才ニ至リ智齒ノ發生ヲ見ルニ至リ全數三十二枚ノ永久齒ヲ完成スルモノナリ

小兒ノ營養

自然營養

小兒ニ對シ唯一ノ營養品ハ實ニ人乳(殊ニ母乳)ニシテ之ヲ小兒ノ死亡數ニ徴スルモ一

才未滿ニ於テ殊ニ消化器病ノ爲ニ斃ル、モノ人工營養ニヨル小兒ニ多キヲ見テ知ル可シ然リト雖モ母乳ノ分泌極メテ乏少ニシテ之ヲ以テ養フニ足ラサルカ乳嘴ニ異常アリテ哺乳ニ不適當ナルカ或ハ乳房ニ疾病アル等ノ場合ハ乳母ヲ選定シ哺乳セシム可ク己ムヲ得サル場合ハ他ノ營養品(殊ニ獸乳)ヲ以テ代養ス可キナリ

母乳ヲ禁止スヘキハ前記ノ外結核病重症、腺病、貧血病、精神病、脚氣等ヲ存スル時ナリトス

人乳ノ平均分析表左ノ如シ

比重	一〇二九八	水	八七、五八%
乾酪素	〇、八〇%	アルブミン	一、二一%
脂肪	三、七四%	乳糖	六、三七%
灰分	〇、三〇%		

哺乳ノ回数ハ小兒ノ年齢強弱ニヨルト雖モ先ツ初生兒ニアリテハ生後第一、二日ハ必スシモ正確ナルヲ要セス生後十二時間ヲ經テ第一回ノ哺乳ヲナシ爾後一日八—十回ノ哺乳ヲ行ヒ第三日以後ニアリテハ正確ニ時間ヲ定メ一日六七回トシ毎二三時間ニ一回ノ割合ヲ以テス可シ二週日以後ニ於テハ三時間—三時間半ニ一回トシ一日五六回之ヲ行ヒ夜間ハ可成哺乳ヲ廢スルノ習慣ヲ養生スヘシ

哺乳量ハ初メ兩三日間ハ凡一日六〇、〇〇ヲ飲ミ第二週ニ入レハ一〇〇、〇〇ニ進ミ遂ニ一回ニ一五〇、〇〇—二〇〇、〇〇ヲ飲用スルニ至ル

離乳ノ時期ハ生後滿八ヶ月以上ニシテ四個—六個ノ齒牙ヲ發生スルニ至レハ支障ナキモノナリト雖モ小兒ノ強弱發育状態ヲ慮リ且ツ炎暑ノ候ハ離乳ヲ避ク可シ

離乳ハナル可ク除々ニ之ヲ行ヒ決シテ急速ナル可カラズ往々ニシテ下痢ヲ來スコトアリ而シテ其時機ニ違スレハ先ツ牛乳初メハ齡ニ應シ湯及糖ヲ加ヘ希釋シ漸次純乳ニ及フ可シ若クハ肉羹汁ヲ與ヘ其他鷄卵ノ半熟米粥等ヲ少量ヨリ漸次增量シ試用スルヲ要シ全然母乳ヲ廢スルハ十二ヶ月ノ後ナル可シ

人工營養

人乳ノ代用品トシテハ獸乳アリ殊ニ馬乳、山羊乳等ヲ良シトスルモ容易ニ得難キ事情アルヲ以テ牛乳ハ尤モ廣ク用ヒラル蓋シ其成分ノ人乳ニ酷似セルモノヲ良トス

牛乳ヲ最モ安全ニ用ヒント欲スレハ第一成ル可ク牛乳ヲ腐敗菌其他ノ病原菌ヨリ遠カラシメ第二ハ健牛ヨリ之ヲ得テ搾取時搾乳者及器具ノ清潔ニ注意セサル可ラズ

此目的ニハ牛乳ノ殺菌法ヲ行フ之ニハ煮沸殺菌法ヲ良トス即チ攝氏百度ノ熱ヲ以テ十五分乃至二十分間殺菌スルモノニシテ家庭ニ於ル便方ナリ而シテ後水及糖ヲ加ヘ年齢ニヨリ稀釋スルヲ要ス其方法左ノ如シ

ヒーデルト氏法

年 齡	牛 乳	稀 釋 液
一—三週	—	三—四
四—八週	—	二
八—十二週	—	—
四—六ヶ月	二	—
七—八ヶ月	三—四	—
八—十二ヶ月	全乳	—

此法ニヨリテ生スル糖ノ不足ハ稀釋牛乳一〇〇〇ニ對シ糖四〇二匁ヲ加フレハ可ナリ

哺乳法牛乳ヲ以テ哺乳セシムルニハ適度ニ稀釋シ殺菌ノ後冷所ニ貯ヘ用ニ及ンテ攝氏三十八度ニ溫メテ用フ可シ量ハ四週以下ノ小兒ニハ一回四〇〇—八〇〇ヲ與ヘ其以後ハ一〇〇〇—二〇〇〇以上ニ及フ可シ牛乳製品トシテ我國ニ於テハ未ダ煉乳即チ「コンデンスミルク」ニ満足セザル可カラズ蓋シ本品ハ糖ノ含量多キニ過キ適度ニ稀釋スレハ營養ニ乏ク又成分ノ消化可良ナルモノニアラス其種類多シト雖モ目下弊譽アルハ米國製鷹印ナレトモ價造品アルヲ以テ注意ス可シ眞正ナル鷹印煉乳ノ成分左

ノ如シ

水	蛋白質	脂肪	乳糖	蔗糖	鹽類
三二・三三	八・三九	九・四六	七・六五	四一・二九	一・八八

煉乳ノ稀釋ハ左ノ標準ニ據ル可シ

年 齡	煉 乳	水
第一—三ヶ月	—	二四—二〇
第四—六ヶ月	—	一九—一八
第七—八ヶ月	—	一七
第九—十二ヶ月	—	一六—一五

而シテ之レカ稀釋ニハ溫湯ヲ用フ可ク或ハ麥汁ヲ代用スルモ可ナリ

小兒ノ藥劑

小兒ノ藥劑ハ一般ニ大人ノ其レニ準ス可キモ劑形調味及用量ニ注意シ可及的水劑或ハ散劑トナシ全量ニ付テハ水劑ニ於テハ左ノ表ニ據ル可シ

年 齡	水劑一日ノ全量	年 齡	水劑一日ノ全量
初生兒	二〇・〇	一—三才	三〇・〇
五—八才	四〇・〇	十才	五〇・〇

藥劑ノ用量ハ體量年齡ニヨリテ加減ス可キモ大凡次ノ標準ニ據ル可キモノトス

年 齡	大人ノ用量ニ對セル比	年 齡	大人ノ用量ニ對セル比
一年以下	十五分一—十二分一	一—二年	十分一
二—三年	八分一	三—四年	六分一
四—七年	四分一	七—十年	三分一
十年以上	二分一		

臍 潰 瘍 (へそのをのたゞれ)

療法 硼酸水(三%)ヲ以テ注意シテ消毒シヨードフォルム又ハデルマトールヲ撒布シ綿紗ヲ被ヒ縛帶ス可シ

臍ヘルニア (てべそ)

原因 便秘ニヨル努責強劇ナル號泣咳嗽嘔吐等ヨリ誘發セラル

症狀 小兒ノ靜肅ナルトキハ異常ヲ見サルモ一度啼泣咳嗽等ノ爲腹壓ヲ加フルアラハ腸管臍部ヨリ脱出シ櫻實大—鳩卵大ノ柔軟無痛ノ膨隆物ヲ生シ壓スレハ音ヲ發シテ消失ス早期ニ於テ治療セザレハ長スルニ及ンデハ根治的外科手術ヲナサレハ終生治スルノ期ナク危險ナリ

療法 最モ簡便ナルハ兩側ヨリ撮擧シタル皮膚皺襞ヲ以テヘルニア口ヲ壓迫シ約二

寸巾ノ伴創膏ヲ以テ兩側肋骨ニ至ル迄貼布固定シコロヂエムヲ併用シ或ハ綿枕ヲ當テ其上ヨリ十字ニ伴創膏ヲ貼シ前記ノ原因ヲ去ルニ努ム可シ

初生兒黃膽

症狀 小兒ノ生後二三日ニシテ皮膚淡黃色又ハ黃色ヲ呈スル病ナリ

療法 自然ニ治スルモノナリ唯保育上ノ注意ヲナシ便通ヲ良ナラシムル方法ヲトレバ可ナリ

口 角 潰 瘍 (口づけ)

療法 ヨード丁幾ヲ塗り硼酸軟膏亞鉛花軟膏等ヲ應用ス

驚 口 瘡 (がこう)

症狀 乳兒ニ來ル疾病ニシテ初期ニアリテハ舌頰内面齒根ニ斑點ヲ生シ始メハ白色(乳汁ノ凝固物ニ似タリ)ナルモ後ニ帶黃色又ハ黃褐色ヲ呈シ遂ニ數個融合シテ不整形トナリ之ヲ強テ剝離セントスレバ出血シ遂ニハ口内及咽喉ニ蔓延シ同時ニ他ノ部モ充血シ疼痛ノ爲哺乳ノ困難ヲ來シ衰弱ヲ來スニ至ルモノナリ

療法 豫防法トシテ營養物乳房及小兒口内ヲ清潔スルコトニ努ム可シ

已ニ本症ヲ來セルモノニハ五倍乃至二十倍ノ硼砂グリスリン百倍過マンカン酸カリユム水五十倍ノクロール酸カリユム水等ヲ外用シ又布片又ハ筆ヲ以テ一日數回丁寧

ニ清拭ス可シ

口 内 炎 (口のたぐれ)

症状

甲、加苔兒性口内炎 輕症ニアリテハ口粘膜齒齦等ノ潮紅ヲ呈シ唾液ノ増加ニヨリ濕潤セルヲ見ル重症ニアリテハ齒齦舌ハ腫張シ舌ノ側縁ニ數多ノ小半月狀ノ齒痕ヲ現ハシ流涎甚ク指又ハ乳房ヲ口内ニ送ルニ熱感アリ

乙、亞布苔性口内炎 ナルモノアリ七ヶ月以上三歳以下ノ小兒ニ來リ帶黃白色若クハ灰黃色ヲ呈シ紅キ暈輪ヲ以テ圍繞セラレタル多數ノ小斑ヲ現ハスモノナリ其斑點ハ帽針頭大乃至豌豆大ニシテ多ハ舌端邊緣背面頰口唇等ニ現ル口内一般ニ腫張シ疼痛ヲ發シ且ツ口臭ヲ發ス

丙、潰瘍性口内炎 ハ四歳乃至十歳ノ小兒ニ來リ乳兒ニハ希ナリ先ツ齒齦ノ一局部ニ潮紅及腫張ヲ來シ出血シ易ク劇烈ナル惡臭ヲ放チ遂ニ齒齦ニ潰瘍ヲ作り頓ガテ齒ノ脱落ヲ見ルニ至ル唾液多量ニシテ血性若クハ膿性トナリ腐敗臭アリ

療法

甲ニ對シテハ清潔法ヲ務メ三十倍硼酸水若クハ五十倍クローリル酸カリウム水ニテ一日數回洗滌ス可シ

乙ニ對シテハ前記ノ療法ヲ試ミ効ナキ時ハ五十倍ノ硝酸銀水或ハ五十倍ノ硫酸亞鉛水効アリ又左方ハ稱用ス可キモノナリ

○石炭酸

三〇

留水

一〇〇〇

右昆和硼酸水洗滌後一日一回一數回塗布

丙ニ對シテハクローリル酸カリウム特效アリ即五十倍液ヲ以テ一日數回塗布又ハ合嗽ヲナサシムルニアリ其他三十倍硼酸水百倍過マンガン酸カリウム液ヲ用フ

生 齒 困 難 (齒 熱)

症状 小兒ノ生齒期ニ至リ時トシテ健康ヲ害シ神思不安睡眠不穩輕度ノ口内炎下痢嘔吐咳嗽皮疹等ヲ來シ時トシテ痙攣ヲ發シ熱發ヲ見ルコトアリ之レ生齒ノ刺戟ニヨリテ來ルモノナリ

療法 特種ノ治療ヲ要セス熱アレハ少量ノサリチール酸ナトリウム等ヲ投ス可シ

消 化 不 良

症状 消化不良ハ殊ニ哺乳期ニ頻發スルモノニシテ多クハ營養品ノ不淨(細菌的)ニ原因スルト雖モ母體若クハ乳母ノ食傷月經下劑服用牛乳稀釋ノ違法不適當ナル食餌等モ原因タルコトアリ之ニ二種アリ

(甲) 急性消化不良、吐乳ヲ來シ酸味ヲ放ツ暖氣ヲ發スルモノニシテ吐物ハ單ニ乳汁ナ

ルアリ或ハ凝固物ヲ混スルコトアリ或ハ腹痛ヲ來シ兒ハ下肢ヲ腹部ニ當テ次テ再
ビ伸展スルノ運動ヲナシツ、啼泣シ雷鳴及放屁ヲ發ス糞便ハ綠色ヲ呈シ軟ニシテ
白色塊片ヲ混シ一日四五回通利シ漸次體量ノ輕減スルニ至ル

(乙) 慢性消化不良ハ急性症ヨリ來リ初期ニアリテハ哺乳後嘔吐ヲ來シ糞便ハ其量多
ク通利頻數ナルヲ覺ヘシムルノ外容體何等ノ異狀ナキガ如キモ體重増加セズ遂ニ
食慾缺乏シ腹滿便秘等ノ症狀ヲ呈シ瘦削症ニ陥リ死ニ至ルコトアリ

療法 豫防法トシテハ凡テ營養法ニ注意シ其性状用量溫度稀釋等ハ勿論哺乳ニ注意
ス可シ(毎三時一回以上ナル可カラズ便秘ノ傾向アルモノニハ小兒散一日數回一刀尖
ツ、ヲ與フ可ク母體ノ健康精神及身體ノ過勞ヲ戒メ過食ノ授乳多キニ過キ爲ニ來ル
モノニハ度數ヲ減少セシム可シ

人工營養法ニヨレル小兒ニ本症ヲ來セシモノニアリテハ一層ノ苦心ヲ要セザル可ラ
ス澱粉性營養ニヨルモノハ乳母或ハ牛乳ニ改良シ牛乳ニヨリシモノニハ人乳ニ改ム
可シ

藥物療法トシテハ稀鹽酸ペプシン等ヲ與ヘ下痢ニハ次硝酸蒼鉛次サリチール酸蒼鉛
等ヲ與ヘ疼痛ニハ溫巴布ヲ行フベシ

○稀鹽酸

〇三—〇五

含糖ペプシン

一〇〇

○單舍利別

二〇〇

餉水

八〇〇

右混和毎二時一兒匙宛

○次サリチール酸蒼鉛

〇二—〇五

(又ハ次硝酸蒼鉛

白糖

〇二

右爲一包毎三時一包ツ、

乳兒脚氣

症狀 本病ハ脚氣ヲ患フル婦人ノ乳汁ニヨリ哺育セララル、小兒ニノミ來ル疾病ニシ
テ多クハ吐乳ヲ以テ始マル吐乳ハ一日二三回ニ過キザルアリ毎哺乳時ニ來ルアリ皮
面蒼白色トナリ啼泣シ易ク尿量減少シ次ニ聲音ヲ發スル能ハザルニ至リ呼吸迫リ全
身ノ水腫ヲ發スルニ至ル

療法 速ニ脚氣ニ罹レル婦人ノ授乳ヲ禁止ス是レ唯一ノ療法ナリ藥劑ハ稀鹽酸ペプ
シネ劑ヲ與フ可シ

異物

凡ソ小兒ノ腸管内ニ來ル異物ハ誤テ嚥下セラレタルモノニシテ貨幣縫針帽針鈕果實
若クハ其核魚骨等主ナルモノナリ此ノ如キハ多クハ何等ノ症狀ヲ呈セサルモノナレ
トモ時アリテ危險ナル病症ヲ惹起スルコトアリ

療法 専ラ馬齡薯、甘蔗、小麥、米等ノ軟粥ヲ多量ニ食セシメ之ニヨリテ異物ヲ包被シ自然ニ排出セシム可シ下劑ハ決シテ用フ可カラズ

小兒急癇 (引つけ)

症狀 小兒急癇ハ日常屢々見ル所ノ病ニテ全身ノ諸筋ニ痙攣或ハ搐搦ヲ來シ人事不省トナル重ニ乳兒ニ來リ疼痛、外傷、齒牙ノ發生、食傷、痲瘋、蛔虫、消化不良、熱等ニ發スルモノナリ、輕症ナレハ顔面或ハ一方ノ上肢ニ痙攣ヲ起シ意識ハ恍惚トナリ、眼球上方ニ向ヒ凝視シ呼吸及脈膊不正トナリ、數分時ノ後自然ニ緩ミ眠ニ就ク

重症ナルモノニアリテハ人事不省トナリ、顔面及全身ニ甚シキ痙攣ヲ起シ皮色蒼白トナリ四肢モ種々ノ運動ヲナシ眼球ハ上方ニ向ヒ或ハ絶ヘズ旋回シ呼吸ハ深淺不動トナリ一時呼吸ノ歇ムコトアリ脈ハ頻數便通ハ往々失禁ヲ來シ發作ハ數分乃至數十分數時間ニ及ブコトアリ發作ノ後ハ患者自然ニ眠ニ就クト雖モ醒覺後尙不快ナル如ク頗ル不活潑ニシテ顔面蒼白ヲ呈シ且屢反復スル發作ニ依テ死ニ陥ルコトアリ

療法 臨機ノ處置トシテ少ク頭部ヲ高クシ被服ヲ緩解シ呼吸ヲ自由ナラシメ齒間ニ布片木片等ヲ挿入シ舌傷ヲ避ク口唇黃白色ヲ呈シ呼吸困難ノ狀アルトキハ冷水ヲ顔面及胸部ニ注ク可シ

食傷及便秘ニヨルヲ察スルトキハ速ニ灌腸ヲ行ヒ糞便ヲ排出スルヲ要ス高熱ノ爲ナ

ル時ハ頭部ノ冷卷法ヲ施シ發作劇烈ニシテ久時持續スルトキハ患兒ヲ溫浴ニ入レ頭部ニ冷水ヲ注ク可シ其他下肢ニ芥子泥ヲ貼シ下脚ヲ溫保スル等ノ法アリ

藥物トシテハ痙攣靜止ノ目的ヲ以テ左ノ洗腸ヲ行フ

○抱水クロラール 一、〇 五〇〇

右二回ニ洗腸ス

○ブロームカリウム 二、〇 二、〇

重炭酸ナトリウム 二、〇

右混和二時間毎ニ一珈琲匙宛

又消化障害ヨリ來レルモノニハ下劑甘汞又ハヒマシ油ヲ投シ蛔虫ニ原因スルモノハサントンヲ投スベシ

夜驚症

症狀 小兒就眠後數時間ノ後突然號叫ヲ以テ醒覺シ甚敷驚怖ノ狀ヲナシ臥床ヨリ蹶起シ人ノ助ケヲ呼ビ或ハ傍人ニ擁着シ數分間乃至數十分ノ後心神漸ク己レニ歸リ再び安眠ニ移ルヲ常トス

療法 小兒ノ精神ヲ威嚇恐怖セシムル如キ談話繪畫等ハ之ヲ禁シ晚餐ハ過食ヲ避ケ

眠前食品ヲ與フ可カラス
藥劑トシテハ左方ヲ與フ可シ

- プロイムカリウム 〇三—一〇 白糖 〇三
- 右爲一包臨臥時頓服用

第十篇 皮膚病

面 皰 (にきび、にらも)

療法 多發スルモノハ煤毒及結核ノ疑アリ

- 三%炭酸カリウム水
- 右洗滌用及塗布料トス

- 乳硫黄
- アルコール
- グリスリン
- エーテル 各等分

- 右塗布
- 苛性カリウム 一〇〇 三〇〇
- アルコール 三〇〇
- グリスリン 一〇〇〇
- 水 一〇〇〇

右外用(ベルツ氏皮膚液)

- 腋 臭 (わきが わきくさ)
- タンニン酸 五〇 二〇〇〇
- アルコール 二〇〇〇

- 療法
- 右塗布 一日二三回
- ナフトール 五〇 一〇〇〇
- アルコール 一〇〇〇

グリセリン 一〇〇
 右塗布
 ○フェール酸 三〇 澱粉 一〇〇
 右撒布料
 ○明礬 二〇 澱粉 一〇〇
 右撒布料
蕁麻疹 (ほろせ)
 症状 外來ノ刺戟昆虫ノ刺咬或ハ婦人生殖器病海魚果物ニヨリ來ルコトアリ一部分又ハ全身ニ發シ堪ヘ難キ癢痒アリ
 療法 ハ單水冷浴稀鹽酸類ノ點滴等ヲ行フ癢痒ニハ搔破スルコトナクアルコイルヲ塗布ス可シ
 食物ニヨリテ來リシモノハ直ニ下劑ヲ投ズ可シ
 昆虫ニヨリテ來ルモノニハアンモニア水ヲ塗擦ス可シ
 ○石炭酸 〇.五 グリセリン 三〇〇
 右塗布小兒ニ用フ
 ○サリチール酸 三〇 グリセリン 一〇〇

アルコール 一五〇〇
 右塗布
匍行疹 (ヘルペスとびひつづら)
 症状 初メ赤色ノ小蕾疹ヲ生シ忽チ水泡ヲ生スルヲ常トス顔面及胸部陰部ニ生スルコト多シ
 帶狀匍行疹ハ神經ノ行路ニ沿フテ生シ一神經ノ分佈區ニ限局シ帶狀ヲ呈シ發スルヲ常トス
 療法 粉末劑ヲ撒布シテ乾燥セシムルヲ主トス
 ○酸化亜鉛 五.〇 澱粉 五.〇
 右撒布
 水泡破潰シタルトキハ
 ○次硝酸蒼鉛 右撒布
癩 (癬ぢやうねぶと)
 療法 初期ニ切開シ卷法ヲ施シ又塗布藥ヲナスニアリ膿點ヲ有スレバ吸角ヲ用ヒ吸引ス可シ
 ○五十倍石炭酸水

右巻法

○水銀軟膏

右塗擦

濕疹

(ふきてものみづがきつゆがき)

原因症状 皮膚病中尤モ多キ疾病ニシテ頭部顔面四肢ノ屈側陰部腋窩肛門部ニ好發ス初期ハ皮膚紅色トナリ丘疹水泡ヲ生シ水泡ハ膿化シ次テ破潰糜爛シ痂皮ヲ生シ遂ニ落屑ヲ以テ治癒ス

通常癢痒アリ常ニ濕潤シ周圍ノ區別明ナラズシテ前記ノ經過ヲトルモノナリ
理化學的皮膚刺戟ノ外腸胃病糖尿病貧血腦病腎臟病子宮病等ヨリ來ルコトアリ
療法 原因ヲ除クヲ第一トシ

一般療法トシテハ

- 一 急性期ニハ鉛糖水硼酸水ノ巻法ヲナシ
- 二 水泡ヲ生ズル時ニハ、デルマトール次硝酸蒼鉛亞鉛花澱粉ヲ用ヒ
- 三 濕潤セル場合ハ乾燥ノ目的ヲ以テ軟膏劑ヲ用フルヲ法トス

○酸代豆餅

二五、〇

豚脂

五〇、〇

ワセリン

澱粉

二五、〇

サリチール酸

一〇、〇

右爲軟膏貼用

痂皮ヲ生シ固結セルモノハワセリンオレーフ油等ニテ軟化シ然ル後

○亞鉛花軟膏

右貼布

○酸化亞鉛

一〇、〇

澱粉

一〇、〇

サリチール酸

一〇、〇

ワセリン

二〇、〇

右爲軟膏塗布

○濕化亞鉛

四、〇

澱粉

四〇、〇

右撒布

○デルマトール

一〇、〇

ラヌリン

八〇、〇

ワセリン

一〇、〇

右爲軟膏貼用

一般濕疹ニ石鹼ヲ用ユルハ有害ナルヲ以テ洗滌ニハ硼酸水或ハ白水ヲ以テ清洗シ乾燥ノ後撒布劑ヲナス可シ

疥癬 (ひぜん)

原因症状 疥癬虫ノ寄生ニヨリテ生ス該虫ハ肉眼ヲ以テ見得ル小體ニシテ雌雄ノ別アリ非常ノ癢痒ヲ發シ屢々濕疹ヲ生スルモノナリ指間腕關節肘關節内股陰部等ニ好發ス

療法 虫體及卵ヲ殺滅スルヲ主トス

○流動蘇合香 一〇、〇 ヘルバルサム 一〇、〇

右混和夜間塗擦綿帶ヲナシ翌朝入浴清洗着衣ヲ交換ス

○昇華硫曹 五、〇 單軟膏 五〇、〇

右爲軟膏夜間塗擦

其他百倍デシンフエクトール水ノ全身浴ヲ用ユルコトアリ小兒等ニ可ナリ

白癬 (白禿風、しらくもはたけ)

症状 一種ノ細菌ニ原因シ主トシテ頭髮部ニ生ス初メ毛根周圍ニ黃色膿泡狀點ヲ見次ニ黃色痂皮ヲ生シ漸次擴大シ毛髮脱落スルニ至ルモノナリ近時地方小學校生徒ニ大流行ヲ見ル

療法 痂皮ニヨリ厚結スルモノハ先ツ油類ヲ塗布シ刷毛ヲ以テ摩リ尙油類ニ浸シタル布片ヲ被フコト一晝夜ニシテ痂皮軟化セバ毛髮ヲ剃去シ一日二回カリ石鹼ヲ以テ

洗滌シ藥液ヲ塗布シ綿帶ヲ施ス可シ其處方左ノ如シ

○石炭酸 五、〇 グリスリン 五〇、〇

アルコール 五〇、〇

右塗擦シ壓抵帶ヲ施ス痂皮ハアルコールヲ以テ軟化剝離スルモ可ナリ

○石炭酸 二、〇 サリチール酸 四、〇

ワセリン 四〇、〇

右外用 サリチール酸 三〇、〇

○イヒチオール 五、〇

グリセリン 各五〇、〇

右外用 ヘルリスパルサム 各一〇、〇

○石炭酸 五、〇

アルコール 二〇〇、〇

右刷毛ヲ以テ塗布シ微温水ニテ洗滌ス

脱髮症 (禿頭、たいわんぼうづ)

療法 寄生菌及慢性炎症等ニ原因スルヲ以テ左方ヲ用フ可シ

○昇汞 〇、五 フグリスリン 各七五、〇

縮水 一五〇〇

右外用用法豫メ石鹼ヲ以テ患部ヲ洗滌乾燥ノ後此液ヲ擦入シ更ニ塗布ス

○石炭酸 二〇〇 サリチール酸 五〇

ワセリン 四〇〇

右外用

○ペルイバルサム 五〇 アルコール 二〇〇〇

右一日二回頭部塗擦

○レゾルチン 一〇〇 オレーフ油 一〇〇

アルコール 一〇〇〇

右一日二回塗擦

澱 風 (なまづ)

療法 一日二三回左ノ處方ヲ塗擦ス可シ殊ニ浴後ヲ可トス

○サリチール酸 三〇 アルコール 一〇〇〇

右塗布

○サリチール酸 〇三 カリ石鹼 一〇〇

右塗擦

毛 虱

療法 毛髮ニ附着セル卵子ハアルコールヲ以テ洗滌ス可シト雖石油ヲ用テ可ナリ即塗布後十二時間以上布片ヲ以テ頭部ヲ被包シ後石鹼ヲ以テ洗去ス卵子ハ細カキ櫛ニテ梳キ去ルヲ要ス此際希薄ナル醋ヲ用フレハ容易ニ櫛去シ得可シ

○石油 一〇〇 オレーフ油 二〇

ペルイバルサム 一〇〇

右外用

○水銀軟膏 五〇

右少量ツ、塗擦ス

○ペルイバルサム 二〇 ワセリン 二〇〇

右髪油トス

陰 毛 虱

療法 ○水銀軟膏 五〇
右ヲ充分塗擦ス可シ

○昇汞食鹽

〇二

水

三〇〇

右一日二回三四日外用

又石油ノ塗法モ可ナリ

鶏眼 (魚ノ目)

療法 骨突隆部ニ多ク指趾及足蹠ニ多シ

先ツ出血セザル程度ニ刀ヲ以テ皮膚肥厚ノ部ヲ圓錐形ニ除キ其内ニサリチール酸ヲ

壓シ入レ伴創膏ヲ貼布シ放置スルコト數日ニシテ奏効ス可シ

第十一篇 花柳病

梅毒

原因 梅毒ノ傳染ハ不潔ノ交接ニヨリ生殖器ヨリスルモノ多ク其他接吻等モ又傳染ノ機會トナル殊ニ梅毒性潰瘍ノ分泌物中ニハ無數ノ病毒ヲ含ムモノニシテ檢査不完全ナル娼妓等ニアリテハ一人ニシテ一週間中ニ容易ニ百人ノ梅毒傳染ヲナサシムルモノナリ

症狀 本病ノ潜伏期ハ大約四週日ニ亘ルモノニシテ疾病ノ經過ヲ三期ニ分ツ第一期ハ局所ニ病毒ノ止ル時期第二期ハ皮膚及頸部腋下鼠蹊等ノ淋巴腺並ニ鼻口蓋等ノ粘膜ニ及ホスノ時期即チ全身梅毒第三期ハ骨關節内臟器ヲ胃スノ時ナリ
第一期ニ於テハ硬性下疳トシテ現出シ陰莖ノ包皮婦人ノ大陰唇及子宮頸部ニ護膜様硬度ニシテ周圍トノ境界ノ劃然トシ疼痛ナク出血セザル結節ヲ生ス大サハ小豆大乃至大豆大ナリ而シテ四―八週ニ至レハ其中央ニ陥没ヲ生シ漸次崩壞シテ凹陥ヲ呈シ肥厚ヲ殘留スルニ至リ次テ隣接淋巴腺ニ腫脹即無痛横痃ヲ現出ス即チ陰部ニアリテハ兩側ノ鼠蹊部ニ數個ノ磊塊ヲ生シ壓スルモ疼痛ヲ發セズ斯ノ如キモノ凡六週間ニシテ

第二期ニ及ブ此期ニ於テハ多クハ發熱惡寒アリテ皮膚ニ種々ノ發疹ヲ生ヌ多クハ赤色ヲ呈シ帽針頭大ヨリ白銅貨大ニ至リ身體ノ兩側ニ生シ背部ニ最モ多ク上肢及顔面之ニ次キ殊ニ顔面ニ於テハ髮際部ニ於テ著明ナリ

次テ陰莖下面陰囊トノ境界大腿内面陰唇間肛門周圍等ニ丘疹ヲ生シ粘液様物ヲ以テ被ハレ惡臭ヲ放チ傳染性强シ之ヲ扁平贅肉ト云フ

其他手掌足蹠ノ發疹毛髮脱落鼻加答兒咽喉加答兒等ニヨリ聲音嘶啞シ遂ニ數ヶ月ニシテ第三期ニ入ル此期ニ於テハ先ツ眼前朦朧ヲ覺ヘ虹彩炎ヲ以テ發スルコト多ク次テ骨膜炎關節炎等ヲ發シ内臟ノ諸器ニ病患ヲ來スニ至ル

療法 六〇六號(サルバルザン)ノ注射ハ最モ確實ナリ

第一期即チ硬性下疳ニシテ分泌物多ク創面不潔ヲ呈スルトキハ日々洗滌シテヨートフオルム或ハ甘汞ヲ撒布シ綿花繻帶ヲ施ス可シ分泌ナキモノハ單ニ硝酸銀ニテ燒灼シ粉末撒布又ハ濕布繻帶若クハ膏藥ヲ貼ス

第二期第三期ニ於テハ先ツ水銀療法ヲ行フ而シテ五六週ノ後効力著明ナラサレバヨード劑ヲ用フ可シ

水銀療法トシテハ

○水銀軟膏

三〇—四〇

右塗擦用トス

塗擦法ハ右ノ如ク施行スルヲ要ス

- 第一日 兩腓腸部
 - 第二日 兩股内面
 - 第三日 胸及腹部
 - 第四日 上膊ノ内面
 - 第五日 背部肩胛角ノ下半部
 - 第六日 溫浴
- 以上ヲ以テ第一回ノ塗擦ヲ了ル

第七日ヨリ更ニ第二回ノ塗擦ヲ行ヒ連用三十回乃至五十回ナルヲ要ス但シ患者自ラ行フ時ハ背部ノ塗擦ヲ除クモ可ナリ之ヲ擦入スルニハ指頭又ハ手掌ヲ以テ徐々ニ皮膚ニ塗擦シ皮膚乾涸シ膏藥ヲ認メザルニ至ル可シ初メハ軟膏固有ノ色ヲ(灰綠色)呈スルモ漸次擦入スルニ從テ褪色シ毛孔等ニ淡黑色點ヲ見ルニ至ルモノニシテ毎日午前中ニ於テ少クモ三十分時ヲ一回ノ塗擦ニ費ス可シ

塗擦療法ニ際シテハ寒胃ヲ豫防シ食物ヲ撰良シ營養ヲ佳良ニ保チ煙草ヲ禁スルヲ可トシ且ツ食後必ス齒ヲ清潔ニ掃除ス可シ

○クロール酸カリウム

六〇

水

三〇〇〇

右含嗽料常用

ヨード剤内服法

○ヨードカリウム 二〇〇 單舍利別 一〇〇〇
 水 一〇〇〇
 右一日三回服了

○ヨードカリウム 二〇〇 プロウムカリウム 二〇〇
 苦味丁幾 三〇〇 水 一〇〇〇
 右一日三回分服

○ヨードカリウム 一五〇 重炭酸ナトリウム 二〇〇
 キナ丁幾 四〇〇 水 一〇〇〇
 右一日三回分服

ヨード剤内服中ハ健胃劑ヲ參酌シテ服用スヘシ

軟下疳及横痃 (疳瘡下疳よこね)

原因症状 軟下疳モ又不潔ノ交接ニヨルモノニシテ主トシテ陰莖頸部包皮婦人ノ大
 小陰唇ニ來リ所謂瘡瘡ヲ生シ鼠蹊淋巴腺ノ化膿ヲ來スモノナリ然リト雖モ軟性下疳
 トシテ横痃ヲ發シタルモノニシテ後日梅毒症狀ヲ呈スルモノアルヲ以テ恐ル可キモ
 ノナリトス

療法 創面及周圍ハ弱防腐液ヲ以テ清拭シ乾燥スルヲ待チ毎日結晶石炭酸ヲ以テ腐
 蝕シ痂皮ノ落剝シタル後ヨードフォルムヲ散布ス疼痛アリテ陰莖腫脹シ包皮ノ水腫
 等アル時ハ冷奄法及濕布繙帶ヲナス可シ
 横痃ヲ發スルニ至レハ可及的化膿セシメ切開ヲ行フヲ可トス

淋病 (淋疾)

原因症状 淋菌ノ傳染不潔ノ交接ニヨルモノニシテ尿道ニ炎症ヲ發スルモノナリ其
 炎症蔓延スレハ睪丸炎、膀胱炎、婦人ニアリテハ膾子宮、卵巢等ニ炎症ヲ來スモノナリ本
 病ニ兼テ屢關節炎ヲ併發スルコトアルハ已ニ述タリ

療法 患者ハ安靜ニ居リ淡泊食料ヲ用ヒ香料酒類炭酸飲料ヲ禁シ房事ヲ戒メ便通ヲ
 整理ス可シ
 内服藥トシテハ

○コバイババルサム 一五〇
 右一日三回十五滴ヲ白糖ニ和シ每食後服用

○白檀油
 右一日三回十五滴或ハ一日一回ニ服用

バルサム劑ハ食思ヲ害シ嘔氣嘔吐下劑等ヲ來スコトアリ此ノ如キ時ハ直ニ後服ヲ止

ム可シ
尿道洗滌ハ一日三回行フテ可ナリ洗滌前後ハ可及的排尿ヲ避クルヲ可トス之ニ用フ
ル藥品左ノ如シ

- プロタルゴール 〇、二五—一％水
 - 硫酸亜鉛 〇、二五—一％水
 - 過マンガン酸カリウム 〇、〇五—〇、一％水
 - タンニン酸 〇、五％水 ○イヒチオール 一—五％水
 - 明礬 一％水 ○次硝酸蒼鉛 二、五％水
 - 硫酸亜鉛 〇、四 ヨードフォルム 三、〇
 - 水 二〇〇、〇
- 右用時振盪毎二時注入
- 硫酸亜鉛 錫水 各〇、三—〇、六
 - 錫水 二〇〇、〇
 - 硼酸 二、五
 - サルチール酸ナトリウム 〇、五 錫水 一〇、〇

右注入料

淋疾ニシテ睪丸炎ヲ併發スルハ私宅患者ニ於テハ略其半數ヲ算スルヲ以テ左ニ其療法ヲ述レハ

急性期ニ於テハ要スルニ消炎法ニテ

尿道局所療法ノ廢止、便通整理、食餌療法ニシテ睪丸腫張疼痛アレハ安靜ニシ提睪帶ヲ用ヒテ舉上シ水銀軟膏イヒチオール等ヲ塗擦シ水卷法ヲ施ス可シ

(注意)淋疾菌ハ他部ニ附着セバ屢々恐ル可キ結果ヲ來スモノニシテ殊ニ眼ニ於テ淋疾性眼炎ヲ來シ失明ノ不幸ヲ見ルコトアルヲ以テ自他共ニ注意シ消毒ヲ怠ル可カラズ

ム可シ
尿道洗滌ハ一日三回行フテ可ナリ洗滌前後ハ可及的排尿ヲ避クルヲ可トス之ニ用フル藥品左ノ如シ

- プロタルゴール 〇、二五—一％水
 - 硫酸亜鉛 〇、二五—一％水
 - 過マンガン酸カリウム 〇、〇五—〇、一％水
 - タンニン酸 〇、五％水 ○イヒチオール 一—五％水
 - 明礬 一％水 ○次硝酸蒼鉛 二、五％水
 - 硫酸亜鉛 〇、四 ヨードフォルム 三、〇
 - 水 二〇〇、〇
- 右用時振盪毎二時注入
- 硫酸亞鉛 各〇、三—〇、六
 - 錫水 二〇〇、〇
- 右尿道注射
- 硼酸 二、五
 - サルチール酸ナトリウム 〇、五
 - 錫水 一〇〇、〇

右注入料

淋疾ニシテ睪丸炎ヲ併發スルハ私宅患者ニ於テハ略其半數ヲ算スルヲ以テ左ニ其療法ヲ述レハ

急性期ニ於テハ要スルニ消炎法ニテ

尿道局所療法ノ廢止、便通整理、食餌療法ニシテ睪丸腫張疼痛アレハ安靜ニシ提睪帶ヲ用ヒテ舉上シ水銀軟膏イヒチオール等ヲ塗擦シ氷卷法ヲ施ス可シ

(注意)淋疾菌ハ他部ニ附着セバ屢々恐ル可キ結果ヲ來スモノニシテ殊ニ眼ニ於テ淋疾性眼炎ヲ來シ失明ノ不幸ヲ見ルコトアルヲ以テ自他共ニ注意シ消毒ヲ怠ル可カラズ

第十二篇 耳病

外耳濕疹 (耳ノふきてもの)

療法 新ク發生シタルモノハ單ニグリスリン、ワゼリン等ヲ塗布シ清潔ヲ保テバ自然治癒スルモ時日ヲ經過シタルモノハ一般皮膚病篇濕疹ノ條下ヲ参照ス可シ

外聽道癰 (耳ノ穴ノてきもの)

症狀 疼痛ヲ發シ熱發ヲ來シ痛ハ劇烈ニシテ不眠ニ陥リ幸ニ自然ノ破潰ヲ見レバ排膿シ痛苦減退スルモ然ラサルモノハ局部腫脹シ外聽道ヲ閉塞スルニ至ル

療法 水銀軟膏イヒチオール等ヲ綿花ニ塗り輕ク外聽道ニ挿入シ或ハ單ニアルコールヲ浸セル綿花ヲ挿入シ一日一回乃至二回交換ス可シ

盯聾蓄積 (耳垢ノかたまり)

症狀 療法耳垢ノ蓄積セルトキハ耳内ニ硬固ノ塊物ヲ觸レ何等ノ耳病ヲ有セザルニ突然聽覺ヲ失フニ至ルコトアルヲ以テ注意シテ檢スレバ褐色ノ塊物ヲ見ル可シ然ルトキハ左方ヲ點入シ(五七日)徐ロニ軟化セシメ取り去ル可シ但シ此際強力ヲ用ヒ又深部ヲ探ル可ラズ容易ニ出血シ來シ或ハ鼓膜ヲ傷ルコトアリ

重炭酸ナトリウム

〇五

グリスリン

六〇

單水

二〇〇

右微温トシ耳内ニ點入一日二三回

又重曹水ヲ微温トシ弱壓ヲ以テ洗滌スルモ可ナリ

耳内異物 (物の入りし時)

療法 昆虫ノ類ニシテ撮子ヲ用ユルモ除去シ得ザルトキハアルコール或ハ油類ヲ點入シテ殺シ置キ後適當ノ水銃又ハスポイトニテ微温湯ヲ注射シ除去ス可シ普通外聽道ノ後壁ニ向テ注射スレハ容易ニ流出ス

豆類菓實砂土ノ如キモノニシテ容易ニ排除シガタキ時ハ稍強キ力ヲ以テ微温湯ヲ注射ス可キモ強テ耳搔キノ類ヲ挿入シ排除セントスルハ却テ良シカラズ

第十三篇 眼病

眼瞼縁炎

(眼ノ縁ノただれめいぼものもらい)

療法 清潔ヲ守リ軟膏類ヲ塗ル可シ

○五十倍硼酸水

右卷法料トス

○十倍グリスリン水

右塗布

○黄降汞

〇一

ワセリン

五、〇

右軟膏トシ朝夕眼瞼ニ塗擦ス

○硼酸末

〇五

ワセリン

五、〇

右爲軟膏用法同前

濕疹アルモノニハ

○サリチール酸

一、〇

酸化亜鉛

五、〇

澱粉

五、〇

ワセリン

一〇〇

右混和眼瞼軟膏トス

○ヨードフォルム 二、〇 フセリン 八、〇

右外用

結膜加苔兒 (やにめ)

原因

塵埃、刺戟物、强光、寒風、視力過勞、不眠等ニヨリテ來リ或ハ流行性ニ來ル

症狀

眼瞼内面充血潮紅シ分泌盛強常ニ刺戟癢痒羞明アリ時トシテ疼痛ヲ發ス

○硝酸銀

〇、五 餾水 五〇、〇

右眼瞼ノ裏面ニ柔軟ナル毛筆ヲ以テ塗布シ直ニ清水若クハ稀食鹽水ヲ以テ洗滌ス一日一回

自家用點眼水トシテハ

○硫酸亞鉛

〇、〇三 餾水 一五、〇

右一日三回點眼

○タンニン酸

〇、五 餾水 五〇、〇

右點眼

○硼酸

二、〇 水 一〇〇、〇

右卷法料トス

○イヒチオール

〇、二—〇、五 澱粉 一〇〇、〇

酸化亜鉛

一〇、〇 フセリン 二五、〇

右外用 (但シ濕疹ニ因スル慢性症ニ適ス)

其他ただれめ、めくされ、等ニアリテハ左ノ内服藥ヲ用フ可シ

○ヨードカリウム

一、五 水 一〇〇、〇

右一日三回分服

○ヨード鐵舍利別

八、〇 單舍利別 一〇〇、〇

水

一〇〇、〇

右一日三回ニ分服 (但シ服用中茶ヲ禁ズ)

○肝油

三〇、〇

右朝夕二回分服

○甘汞末

右撤布料トス

トラホーム

原因 急性及慢性ノ二種アリ

急性症ハ結膜加苔兒ニ似タルモ眼瞼裏面ニ顆粒狀ノ乳頭ト白色ノ斑點ヲ生シ一般ツブツラ生スルモノニシテ傳染力アリ其分泌物ハ之レカ媒介タリ混淆同居ニヨリテ

多クハ一家悉ク之ニ冒サル、ニ至ルモノナリ不潔ノ空氣中ニ於テ結膜加答兒等アルトキハ傳染ヲ受ケ易シ

慢性症ハ初期敢テ自覺セザルコト多ク眼瞼裏面ニ白色ノ小顆粒ヲ生シ次テ潮紅シ粘膿ヲ生スルモノナリ

療法 急性症ハ冷卷法ヲ施シ五十倍ノ硝酸銀水ヲ塗布ス可シ
卷法劑トシテハ

○硼酸 一五〇
水 五〇〇〇
サリチール酸 一〇

右冷卷法トス

○一萬倍過マンカン酸カリウム水 五〇〇〇

右冷卷法料トス

已ニ急性症去リ眼球ニ異常ナキトキハ平カナル硫酸銅塊ヲ以テ一日一回眼瞼裏面ニ塗擦スヘシ

極々慢性ノモノニアリテハ

○硫酸銅 〇.五 各一〇〇
右乳鉢ニテ充分混和點眼料トス
グリセリン水

流 涙 症

療法 點眼藥トシテ

○硫酸亞鉛 〇.〇三 一〇〇

右一日三回點眼用トス

錦水

第十四篇 藥物中毒

凡テ藥物中毒ニ對シテハ其毒物ヲシテ創傷胃腸等ヨリ速ニ排除スル方法ヲ採ルニアリ

一 創傷ヨリ毒物ヲ輸入セルトキ之レカ排除ヲナスニハ傷部ノ絞約吸攝水若クハ消毒液ノ洗滌燒灼等ヲ行フ

二 胃内ニ毒物ノアルトキハ多量ノ微溫湯ヲ飲用セシメ同時ニ吐逆セシムルニアリ若シ吐逆不能ナレハ吐劑ヲ與フ可シ

吐劑トシテハ

○ 硫酸銅

一〇 水

六〇〇

右數回ニ分服セシメ嘔吐ヲ催スニ至ル

○ 又芥子末ヲ一碗ノ溫湯ニ加ヘ服用セシム

三 腸内毒物ハ下劑及灌腸ニ依テ排除ス

若シ咽頭及食道ノ糜爛等アリ又過度ノ嘔吐アル時ハ氷片ヲ與ヘ胃痛アルモノニハ其處置ヲナス可シ

體溫ノ低下スルモノニハ四肢摩擦按摩他動的運動溫濕布纏包ヲ行フ

衰弱人事不省ニ對シテハ頭部ヲ低下シ冷水ヲ灌漑シ皮膚ニハ芥子泥貼用樟腦エーテル酒類ノ洗腸ヲ行ヒ患者嚙下シ得レバアンモニア茴香精ヲ與ヘ人工呼吸電氣等ヲ應用スベシ

アルカリ中毒 (苛性カリ、苛性ナトロン、アンモニア、カルキ)

療法 吐劑温水等ヲ用フルコトナク先ツ酸類食醋水氷片ヲ與ヘ次テ多量ノ飲料即牛乳油類ヲ與フ

○酒石酸 五〇 水 五〇〇〇

右五分毎ニ一食匙

○醋 二五〇 單舍利別 三〇〇

水 三〇〇〇

右同

急性アルコホル中毒

療法 新涼ノ空氣中ニ移シ冷水灌腸ヲナシ腦ノ充血甚シケルハ頭部ヲ高位ニ保チ氷水灌漑氷卷法醋水(醋一、水三)又ハ食鹽水ノ灌腸ヲナス可シ

硝酸銀中毒

療法 温水及吐劑ヲ與ヘ已ニ時間ヲ經過シタルモノニハ卵白乳汁食鹽ヲ與フ可シ

鉛中毒

療法 温水飲用吐劑下劑ヒマシ油硫酸マクネシウムヲ與フ

○硫酸マクネシウム 三〇〇 水 三〇〇〇

右十分時内ニ二回ニ用フ

慢性鉛中毒ニアリテハ皮膚帶青色ヲ呈シ齒齦鉛色ニ變シ胃消化不良痙痛便秘關節疼痛知覺鈍麻腎臟炎等ヲ來ス

鉛ヲ取扱フモノハ數々入浴ヲナサシメ飲食喫煙ハ嚴重ニ別室ニ於テシ殊ニ食前必ス顔口手ヲ洗滌セシムルコトヲ要ス

内服藥左ノ如シ

○ヨードカリウム 二〇―四〇 單舍利別 二〇〇

水 一〇〇〇

右一日中ニ服用

便秘ニハ下劑關節痛ニハ硫黃浴ヲ賞用ス

ブローム劑中毒 (ブロームナトリウム及ブロームカリウム等)

症狀 久時ノ連服ニ由テ來ルモノハ頭痛發作性咳嗽精神沈鬱等ヲ來シ嗜眠ニ陥リ體力減少ヲ來ス

療法 服用ヲ止メ強壯劑及溫浴ヲ行フ

石炭酸中毒

石炭酸ハ外用洗滌等ニヨリ中毒ヲ來スコトアリ殊ニ大創面等洗滌ノ場合ハ注意セサルヘカラス

症狀 頭痛眩暈食思缺乏嘔吐尿變色綠色若クハ暗黑色ヲ呈シ四肢冷却人事不省トナル

療法 石炭酸使用ヲ止メ胃中ニ入リタル時ハ微溫水ヲ多量ニ服用セシメ左方ヲ與フ

○硫酸ナトリウム 五〇〇—六〇〇 水 一〇〇〇

右毎二時一食ヒツ、

其他氷片牛乳蛋白及人工呼吸ヲ要ス

モルヒネ中毒 (阿片中毒)

療法 多量ノ溫湯ヲ飲マシメ濃茶咖啡ヲ與ヘタンニン酸興奮劑芥子泥頭部氷囊冷水灌注内服ニアルコール劑ヲ用フ

○アンモニア水

右一二滴ヲ水ニ和シテ用フ

大量ノ中毒ニシテ患者嗜眠ニ陥ルトキハ勉メテ患者ヲ喚ヒ起シ常ニ身體ヲ動搖シ覺

醒セシム可シ

呼吸不整トナルトキハ人工呼吸法ヲ應用ス可シ

菌中毒

症狀 嘔吐下痢便中粘液又ハ血液ヲ含ミ腹痛アリ酩酊狀ヲ呈シ頭痛瞳孔散大視官障害譫語搖擗等ヲ來ス

療法 下劑珈琲興奮劑ヲ處スベシ

附 錄

調 劑 法

處 方

凡ソ疾病治療ノ目的ヲ以テ藥物ヲ處スル之ヲ處方ト云フ處方ヲ記スルニ一定ノ式アリ藥品ノ名稱量目及調合法授與法ヲ明記シ醫師ノ作製スル處方箋トシテハ患者ノ住所職業年齢ヲ記シ自ラ記名捺印スルヲ法トス

處方ノ藥品ハ單一ナルコトアリト雖モ多クハ數種ノ配合ヨリナリ主藥佐藥賦形藥調味藥等ノ序列ヲ以テ記スルヲ常トス

藥品ハ現行帝國藥局法ニ收載セルモノヲ用フルヲ常トシ其ノ藥品ヲ局方藥ト云フ藥物用量ハ其固體ナルト液體ナルニ論ナク常ニ重量ヲ以テス重量ハ「グラム」系ニ據ル重量

本邦ニ於テハ舊時醫藥上ノ重量ニハ多ク英式重量即氏量ヲ使用シタリト雖モ近時ハメートル系統ニヨル「グラム」量ヲ用ユルニ至レリ蓋シ「グラム」量ハ最も簡單明白ナル重量系統ナルヲ以テナリ之ヲ進退スルニハ十分數ヲ以テス其大小量ノ名目左ノ如シ

キログラム	1	100	10,000	1,000,000	100,000,000	10,000,000,000
ヘクトグラム	100	10,000	1,000,000	100,000,000	10,000,000,000	1,000,000,000,000
デカグラム	10,000	1,000,000	100,000,000	10,000,000,000	1,000,000,000,000	100,000,000,000,000
グラム	1,000,000	100,000,000	10,000,000,000	1,000,000,000,000	100,000,000,000,000	10,000,000,000,000,000
センチグラム	100,000,000	10,000,000,000	1,000,000,000,000	100,000,000,000,000	10,000,000,000,000,000	1,000,000,000,000,000,000
ミリグラム	10,000,000,000	1,000,000,000,000	100,000,000,000,000	10,000,000,000,000,000	1,000,000,000,000,000,000	100,000,000,000,000,000,000

「グラム」ハ我カ二分六厘餘ニ相當スルモノニシテ今其比較表ヲ擧クレハ左ノ如シ

衡 (重量)

キログラム	1	100	10,000	1,000,000	100,000,000	10,000,000,000
ヘクトグラム	100	10,000	1,000,000	100,000,000	10,000,000,000	1,000,000,000,000
デカグラム	10,000	1,000,000	100,000,000	10,000,000,000	1,000,000,000,000	100,000,000,000,000
グラム	1,000,000	100,000,000	10,000,000,000	1,000,000,000,000	100,000,000,000,000	10,000,000,000,000,000
センチグラム	100,000,000	10,000,000,000	1,000,000,000,000	100,000,000,000,000	10,000,000,000,000,000	1,000,000,000,000,000,000
ミリグラム	10,000,000,000	1,000,000,000,000	100,000,000,000,000	10,000,000,000,000,000	1,000,000,000,000,000,000	100,000,000,000,000,000,000

「グラム」ハ瓦ノ字ヲ記ス通常ハ十分數ノ形ヲ以テ數字ノミヲ記スルヲ常トシ「コンマ」以上ヲ全數トナシ「コンマ」以下ヲ小數トナスコト左ノ如シ

一二三四五六七 (一千二百三十四瓦五百六十七「ミリ」瓦)

而シテ調劑上ニハ單ニ「グラム」ト稱シ「キロ」「ヘクト」「デカ」ナル稱ヲ用ヒス例之ハ二三四〇トアレハ之ヲ二百三十四瓦ト云ヒ二五ヲ二「コンマ」五「グラム」ト云フ

天秤及桿秤

天秤及桿秤ハ常ニ均整ナル状態ニ在ルヘキコト勿論ナルヲ以テ常ニ注意シテ使用シ且ツ使用後ハ必ス清拭シ腐蝕ヲ防グ可シ
分銅ノ正確ナル可キハ調劑上當然ノ要求ナリトス而シテ使用後汚染シ又多少鏽ヲ生スルコトアルモ決シテ堅キ物質ヲ以テ清淨スルコトナカル可シ蓋シ其重量ニ異動ヲ來スヲ以テナリ汚染シタル時ハヨロシク希薄ナルアルコイルニ浸漬シ溫布ヲ以テ拭フ可シ

液量器

前記ノ如ク處方ノ藥品ハ重量ニヨルヲ例トスルモ液狀藥物ニアリテハ其比重蒸餾水ニ近キモノハ便宜上液量器トシテ政府ノ檢定ヲ經タルモノヲ用ユ大小種々アレトモ通例〇・五—一〇・〇ヲ測リ得ルモノヲ便トス

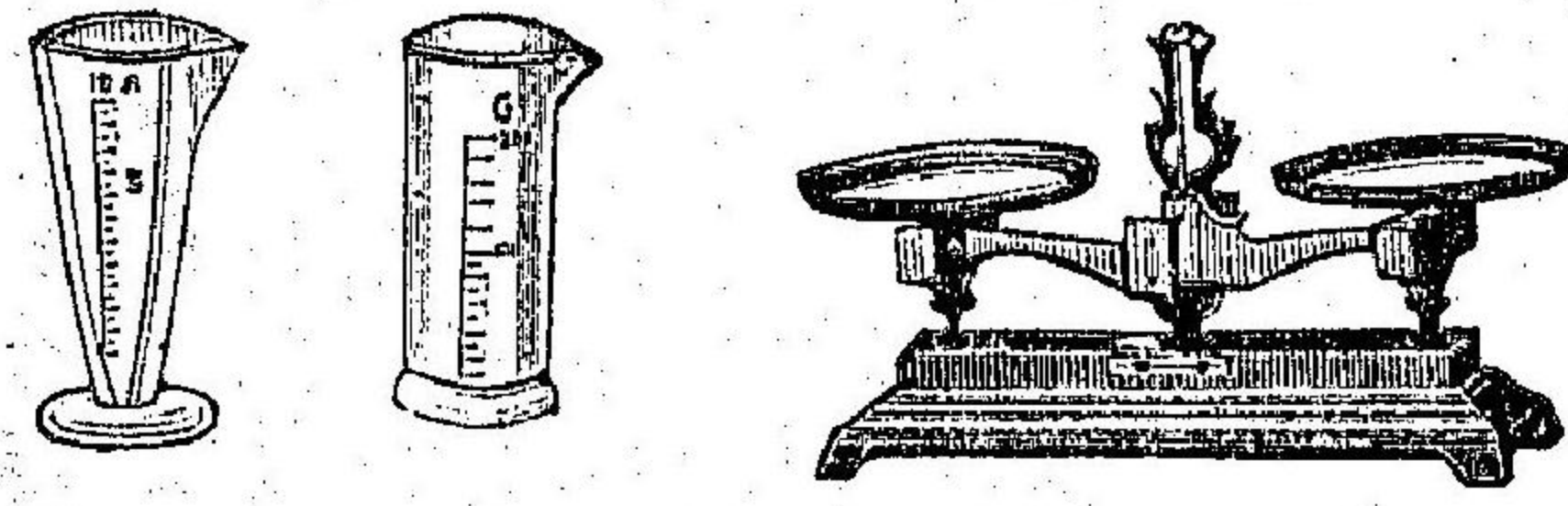
調劑藥ノ種類

調劑藥ニハ其形態製法及性質ニヨリ水劑、散劑、丸劑、撒布劑、軟膏劑、灌腸劑等ノ別アリ
又用途ノ差異ニヨリ點眼劑、注射藥、注入藥、洗滌藥、卷法藥、吸入劑、含嗽藥、塗布藥、巴布劑等
アリ

圖四十七第

調劑器具圖

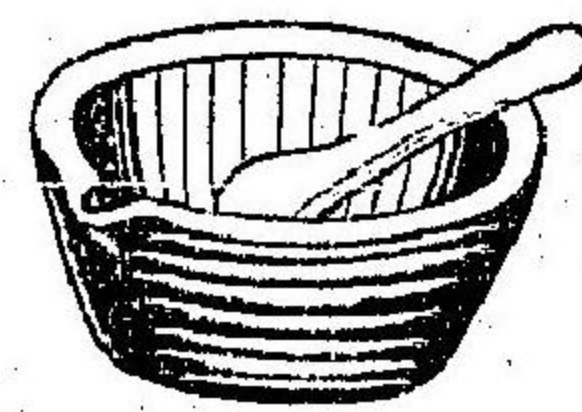
天平 液量器



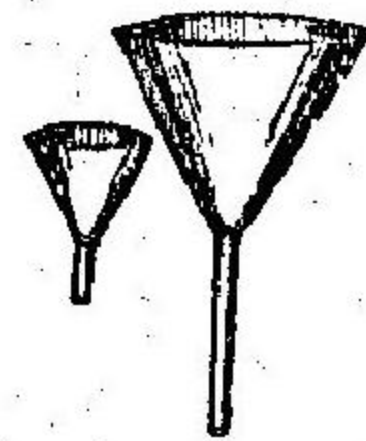
浸劑器



乳鉢



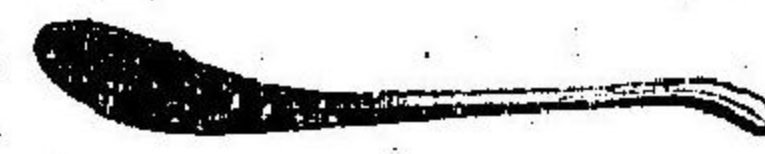
漏斗



膏藥瓦



水牛匙



眞鍮匙



凡テ服用スルモノヲ内服藥ト云ヒ其他ノモノヲ外用藥ト云フ

調劑用器械

調劑ニ要スル器械ハ通常天秤、液量器、匙、乳鉢、漏斗、膏藥板、浸劑器等ナリ(第七十四圖)

各藥一瓦ノ滴數表

藥名	滴數	藥名	滴數	藥名	滴數
稀鹽酸	一六	ヒマシ油	二〇	アンモニア苗香精	二五
薄荷水	一六	エーテル精	二五	苦味丁	二五
薄荷苗香水	二五	甘硝石精	三〇	キナ丁	二五
コバイバルサム	二五	アルコール	四〇	アンモニア水	二五
百露バルサム	一六	舍利別類	二二	吐根丁	二五
エーテル	五〇	藥用酒類	二〇	ヨード丁	二五
オレイン油	二〇	酒精製丁幾類	二五	ホミカ丁	二五

備考 處方上ニ記スル場合ハ滴ヲ略シm字ヲ用フ例之六滴ト記スルニ六mト記スルカ如シ

處方用容量名比較表

一食匙

約一五、〇

小兒匙(半食匙)

約七、五

一茶匙四分一食匙 約三—四、〇 半茶匙 約二、〇
小兒ニ對スル藥物用量表

藥名	年 齡					
	一年以下	一—二年	三—五年	五—八年	八—十二年	十二年以上
抱水クロラール	〇・一	〇・一	〇・二	〇・二五	〇・四	〇・五
タレニン酸	〇・〇五	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇二	〇・〇三
アンチピリン	〇・〇八	〇・一	〇・一五	〇・二	〇・三	〇・五
次硝酸蒼鉛	〇・〇五	〇・一	〇・一	〇・二	〇・三	〇・五
甘 汞	〇・〇〇七五	〇・〇一五	〇・〇二	〇・〇三	〇・〇四	〇・〇五
ブロームカリウム	〇・二	〇・三	〇・五	一・〇	一・〇	一・〇
ヨードカリウム	〇・〇一	〇・〇三	〇・〇六	〇・一	〇・二	〇・三
ドイフル散	〇・〇〇一	〇・〇〇三	〇・〇一	〇・〇三	〇・〇五	〇・一
サントニン	—	〇・〇一	〇・〇二	〇・〇三	〇・〇四	〇・〇五
硫酸銅	(〇・五ヲ一〇〇、〇〇ノ水ニ溶解シ一茶匙ツ、奏効ノ後止ム催吐ノ目的)	—	—	—	—	—

備考 本表ノ分量ハ一回量ヲ記ス
藥品貯藏法摘要

一藥品ハ凡テ其品名ヲ明記シタル瓶中ニ容レ鎖鑰アル場所ニ貯フヘシ
 二光線ノ爲メ變質ヲ來ス藥品ハ黑色或ハ茶褐色瓶ニ容レ置クヲ要ス其種類左ノ如シ
 硝酸銀劑 フォルマリン 甘 汞 劑
 レゾルチン サントニン劑 次サリチール酸蒼鉛
 昇 汞 食 鹽 ナフトール
 三光線ヲ遮リ且密閉シ貯ヘ置クヘキモノ
 昇 汞 ガ ー ゼ 過マンガン酸カリウム
 四瓶中ニテ特ニ冷所ヲ選ミ密栓スルヲ要スルモノ
 コロヂニム類 精 製 樟 腦 エーテル精
 五硝子瓶ニ容レ鐵線ヲ投シ密栓スヘキモノ
 ヨード鐵舍利別
 六冷暗所ニ注意シテ保存シ製造月日ヨリ滿一ケ年ノ後當然失効ニ歸スルモノ
 飯匙蛇毒血清 (傳染病研究所製造)

危険ヲ來ス可キ藥品配合禁忌

主 藥	配合禁忌藥	變化摘要
重クローム酸カリウム	グリヌリン	

抱水クロラール	苛性カリ	黄色酸化汞	硫酸銅	鉛糖	吐根丁幾	ヨード丁幾	番木鱈丁幾	飯匙蛇毒血清	プローム樟腦
		黄降汞	醋酸鉛		吐根丁幾	ヨデウム丁幾	ホミカ丁幾		プロームカ
劇	劇	劇	劇	劇	劇	劇	劇	劇	劇
内	外	外	外	外内	内		内	注	内
六〇二〇		〇〇六		〇〇三		〇〇六	二〇〇		一〇三
催眠劑トシ不眠症精神亢奮癡癲病等ニ用ユ 一回〇・五—一、〇ヲ水劑トシ用ユ 洗腸トシ癰癤等ニ應用スルコトアリ注意シテ貯フ可シ	狂犬病毒蛇等ノ毒創ヲ腐蝕シ或ハ皮膚病等 ニ用ユ注意シテ貯フ可シ	膏藥トシテ慢性濕疹及結膜炎等ニ用ユ	收斂ノ目的ヲ以テ點眼水トシ又吐劑トシテ 應用スルコトアリ注意シテ貯フ可シ	收斂止血ノ目的ヲ以テ一日數回〇・〇二— 〇・〇五ヲ散丸トシテ下痢咯血其他ノ出血 ニ用ヒ尿道注入ニハ〇・〇一—〇・〇五ヲ洗滌ニ ハ〇・〇一—〇・〇六ノ液ヲ用ユ	去痰劑トシテ解熱劑ニ伍シ氣管支加答兒等 ニ用ユ一日二、〇—三、〇ヲ量トス注意シテ 貯フ可シ	解熱消炎ノ目的ヲ以テアルコール等分ノモ ノヲ外用シ(創面、咽喉、齒齦)テ効アリ又凍 傷ニ用ユ注意シテ(密栓)貯フ可シ	健胃劑トシテ一日一、〇ヲ普通量トス注意 シテ貯フ可シ	飯匙蛇毒解毒ノ目的ヲ以テ受傷部周圍二三 時間以内ニ一劑(四〇、〇)ヲ注射ス本品ハ 製造後一年ヲ經過スレバ失効ニ歸ス注意シ テ冷暗所ニ貯フ可シ	神經性疾患心悸亢進遺精等ニ一日數回〇、 一—〇・二ヲ用ユ

ヨードカリウム	サリピリン	硝酸銀	硫酸亞鉛	ヨードフォルム	ドーフル散	アンチピリン	クロール酸カリウム	莫若越幾斯
ヨードカリ	サリチル酸		皓礬	ムヨードホル	陀氏散	ピリン	鹽酸カリ	莫エキス
劇	劇	劇	劇	劇	劇	劇	劇	劇
内	内	外	外	外	内	内	外	内
		〇〇三	〇二一〇 シテハト	〇〇二				〇〇五
鎮痙鎮痛ノ目的ヲ以テ一日〇・〇二—〇・〇 五ヲ用ユ但シ小兒ニハ用ユ可ラス注意シテ 貯フ可シ	含嗽及吸入藥トシテ三十倍—五十倍ノ溶液 ヲ用ユ本品ハ決シテ火邊ニ近ク可ラズ引火 ノ性アリ注意シテ貯フ可シ	解熱鎮痛等ノ目的ヲ以テ一日二、〇—三、〇 ヲ用ユ注意シテ貯フ可シ(空腹時ニ用ユ可 ラズ)	鎮痛鎮痙鎮靜等ノ目的ヲ以テ一日〇・三— 〇・六ヲ用ユ本品一、〇中〇・〇一ノモルヒ ネヲ含有ス注意シテ貯フ可シ	防腐ノ目的ヲ以テ創面ニ撒布シ或ハ「ヨ ドフォルム」コロヂウム又ハ「ヨードフォル ム」グリシリントシテ外用ス其比一ト一〇 ナリ注意シテ貯フ可シ	收斂藥トシテ〇・二—〇・三ノ液ヲ點眼シ又尿道 注射藥トシテ淋病ニ應用ス吐劑トシテ食傷 等ニ用ユルコトアリ注意シテ貯フ可シ	收斂藥トシテ〇・五—一ノ蒸餾水溶液ヲ 點眼シテ貯フ可シ	アンチピリント同一ノ目的ニ同量ヲ用ユ本 品ハ殊ニロイマチス病ニ特效アリ注意シテ 貯フ可シ(空腹時ニ用ユ可ラス)	梅毒第二期及第三期ニ用ヒ其他腺病質ロイ マチス肋膜炎淋巴腺肥大喘息頭痛神經痛等 ノ慢性症ニ用ユ 一日數回〇・二—〇・五ヲ用ユ注意シテ貯フ 可シ

硼砂	次没食子酸若鉛	炭酸マグネシヤ	重酒石酸カリウム	硼酸	芳香散	次サリチル酸若鉛	サリチル酸
硼酸ナトリウム	ルデルマトー	炭酸マグ	酒石酸重酒石酸英			サリピス	
外	外内	内	内	外	内	内	外内
嗽用トシ口腔病ニグリスリン蜂密ニ溶解シテ用ユ	一日數回〇、三、一、〇ヲ下痢症ニ用フヨロドフオーム代用品トシテ良好ナルヲ以テ創面濕疹癩亂火傷等ニ撒布シ軟膏(一、一、〇)劑トシテ用ユ	腸胃内制酸ノ目的ヲ以テ一日數回〇、五、一、〇ヲ緩下劑トシテハ三、〇、一、五、〇ヲ用ユ	緩下劑トシテ一日三、〇、一、五、〇ヲ散水劑トシテ用ヒ清涼止瀉利尿ノ目的ヲ以テ一日數回〇、五、一、〇ヲ用ユ	創面胃及膀胱洗滌ニハ三、〇%洗眼合嗽ニハ二、〇%ノ溶液ヲ用ヒ撒布劑トシテハ澱粉ト(五、一、二、〇)混シ耳鼻等ニ其他軟膏トシテ用ユ	健胃驅風劑トシテ一日數回〇、二、一、〇、五ヲ散劑トシテ用ユ	次硝酸若鉛ト同一ノ目的ヲ以テ〇、六、一、一、五ヲ一日數回服用ス	胃ノ酸酵ニ際シ〇、一、一、〇、三ヲ一日數回散水劑トシテ用ユ 寄生性皮膚病疥癬等ニ一、〇%酒精液又ハ一、〇、一、五、〇%軟膏トシテ用ヒ膀胱加答兒ニハ〇、一、〇、一、〇、三%溶液トシテ洗滌ニ用ユ

アセチルサリチル酸	硫酸ナトリウム	過マンガン酸カリウム	昇華硫黄	人工カルルス泉鹽	次硝酸若鉛	酒石酸	精製樟腦	酸化亜鉛	サリチル酸ナトリウム
アスピリン	芒硝		硫黄華	カルルス泉	ビスミット		カンフル	亜鉛花	楊子
内	内	外	内	内	外内	内	外内	外	内
寒胃及ロイマチス性病ニ〇、五、一、一、〇ヲ一日數回服用ス但シ空腹時ニ用ユレバ胃ヲ害シ易シ	緩下劑トシテ一回三、〇、一、四、〇ヲ重酒石酸カリウムニ混シテ用ユ	消毒防腐除臭收斂ノ目的ヲ以テ用ユ含嗽用トシテ〇、五、一、一、〇ノ溶液尿道注入ニハ〇、〇、五、一、〇、五、一、〇ノヲ用ユ 毒蛇咬傷ニハ〇、五、一、一、〇ノ溶液ヲ一日數回〇、五、一、一、〇、五、一、一、〇ノヲ注射ス	緩下劑トシテ用ユ人工カルルス泉鹽ヲ代用シテ佳ナリ石炭酸中毒ニ用ユルコトアリ	收斂止痢藥トシテ一日二、〇、一、五、〇ヲ用ヒ火傷及創面等ニ撒布劑又ハ膏藥トシテ用ユ	緩下劑トシテ一回五、〇、一、一、〇、〇、一、一、〇、一、一、〇ヲ用ユ	清涼劑トシテセルテル水ヲ製スルニ用ユ	軟膏トシテ凍傷等ニ又鎮痛劑トシテ外用ス	軟膏トシテ凍傷等ニ又鎮痛劑トシテ外用ス	解熱發汗ノ目的ヲ以テ一日二、〇、一、三、〇ヲ用ユ頓服トシテハ一、〇、〇ニテ佳ナリロイマチス病ニ効アリ

乳糖	白糖	重碳酸ナトリウム	ケンチアナム末	硫酸マグネシア	イヒチオール	リンゴ	コロヂエム
		重碳酸ナトリウム	龍胆末	硫酸	スルフォール	クレソール	
		重碳酸ナトリウム	龍胆末	硫酸	スルフォール	クレソール	
内	内	外内	内	内	外	外	外
利尿劑トシテ五〇%ノ水溶液ヲ毎二時一食匙ツ、用ヒ緩下劑トシテ一〇、〇〇、一〇、〇〇(小兒ニハ一、〇〇、二、〇〇)ヲ牛乳ニ和シテ用ユ 其他一般散藥ノ賦形藥ニ供ス	調味賦形藥トシテ小兒ノ散藥ニ伍シテ用ユ	一日數回〇、五―二、〇ヲ散水藥トシ胃病ニ用ユ吸入藥トシテ〇、五―二、〇%ノ液ヲ用ユ	一日數回〇、二―一、〇ヲ散劑トシテ用ユ	一日一〇、〇―三〇、〇ヲ水劑トシ緩下劑トス	消炎鎮痛ノ効アルヲ以テロイマチス神經痛皮膚病等ニ純品又ハワセリン、ラスリン(二五%)ニ伍シテ供用ス 丹毒ヘルペス瘡疔等ニ効アリ 淋疾ニハ〇、五―二、〇%ノ液ヲ注入シ或ハ一〇―二〇%ノグリソリン液トシ子宮内膜炎等ニ綿球ニ浸シテ挿入ス 臍、痰壅便秘ノ消毒ニハ五―一〇%ノ手及器具ニハ一―三%ノ外科用トシテハ〇、二―〇、五%ノ液ヲ用ユ 繻帶液トシ又ヨイトフォーム等ヲ溶解シ小創ニ塗布スルニ便ナリ	疥癬藥トシテ用ユ	健胃下泄及通經藥トシテ二粒―六粒ヲ用ユ

蔗菁ヤイラツバ丸	ペルバルサム	流動蘇合香	豚脂	カリ石鹼	タンニン酸	タンニール	タカチアスターゼ	還元鐵	蔗菁鐵丸
						アセチール			
内	外	外	外	外	外内	内	内	内	内
諸膏劑ノ原料トス	疥癬藥トシテ用ユ	健胃下泄及通經藥トシテ二粒―六粒ヲ用ユ	皮膚病濕疹疥癬癩風ニ用ユ其他消毒性洗滌水トシテハ一、五ヲ一升ノ水ニ溶解シタルモノヲ用ユ	收歛止血ノ目的ヲ以テ一日數回〇、〇五―〇、二ヲ散水劑トシテ下劑赤痢胃腸出血ニ用ヒ又略血ニ用ユルコトアリ 創面ニハ純品ヲ撒布シ含嗽吸入ニハ〇、五―一%ノ腔加答兒白帶下痲疾ニハ〇、五―五%ノ水溶液濕疹ニハ一〇%ノ軟膏ヲ用ユ其他止瀉浣腸劑トス	收歛藥トシテ下痢症ニ一日數回〇、二―一、〇ヲ用ユ	澱粉消化劑ナルヲ以テ胃病ニ用ユ一日數回食後〇、二―〇、五ヲ用ユ	補血劑トシテ丸劑トナシテ用ユ	月經不調及便秘性貧血等ニ一日三丸―六丸宛ヲ服用ス胃ヲ害シ易キ弊アリ	

ケレオソート丸	含糖ペブシン	藥用石鹼	プロロムカリウム	プロロムアンモニウム	ザロール	薄荷腦	プロタルゴール	コバイバ膠囊	明礬
クレオソール	ペブシネ		臭素カリ		サリチル酸	メントール	銀プロテイン		
内	内	外	外内	内	外内	外内	外	内	外内
消化不良異常醗酵ノ際ニ用ヒ又應急トシテ 齧齒ニ發セル齒痛ニ挿入ス可シ	消化不良胃加答兒ニ一日數回〇、五—一、〇 ヲ稀鹽酸ヲ配伍シテ水劑トシ用ユ	浣腸劑トシテ用ユ	一日數回〇、五—一、〇ヲ水劑トシテ用ユ癩 痢瘰癧神經過敏症神經衰弱心悸亢進不眠頭 痛生殖器ノ疾病遺精ヒステリー等 百日咳咳嗽等ニハ〇、五—一、〇ノ液ヲ吸入 料トス	プロロムカリウムト同様ノ目的ニ用ユ	ロイマチスニハ一日數回〇、五—一、〇腸酸 酵下痢膀胱加答兒ニハ一日數回〇、五—一、 〇ヲ用ヒ潰瘍濕疹等ニハ一日數回〇、五—一、 〇ノ軟膏トシテ用ユ	一日數回〇、〇—一、〇、三ヲ咳嗽胃痛嘔吐胃 酸酵吃逆胆石痛ニ用ユ 神經痛片頭痛等ニハ一〇%酒精溶液或ハ軟 膏(一—一〇)トシ塗擦シ齒痛ニハ純品ヲ齒 腔ニ挿入ス	淋疾ニハ〇、二五—一、〇ノ液ヲ用ヒ創傷ニ ハ五—一〇%軟膏ヲ使用ス	淋疾膀胱加答兒氣管支加答兒等ニ一日數回 一個—二個ヲ用ユ本品一個中ニハ〇、五ノ コバイバルサムヲ含ム	下痢及腸出血ニ一日數回〇、〇五—一、〇、五ヲ 用ユ吸入含嗽ニハ〇、五—一、〇%尿道注入ニ ハ一%膠注入ニハ一—四%ノ水溶液ヲ用ユ

鹽酸キニーネ	チモール	ナフトリン	芥子末	レソルチン	激粉	ナフトール	稀鹽酸
キナエン キニーネ			カラシ				
内	内	内	外内	外	外内	外	内
マラリア病ニハ〇、五—一、〇ヲ發作前ニ頓 服セシメ其他一日數回〇、二—一、〇、五ヲ又神 經痛頭痛齒痛ニモ用ヒ單ニ解熱劑トシテハ 一日一〇、〇—一、〇ヲ又健胃強壯劑トシテハ 日〇、〇五—一、〇ヲ用ユ 小兒ニ對スル用量左ノ如シ	腸虫病殊ニ十二指腸虫ニ用ユ	同上	少量ハ食欲ヲ振起セシムルニ用ユ 充血誘導鎮痛鎮痙ノ目的ニテ神經痛ロイマ チス胃痛疝痛嘔吐等ニ泥トナシテ灼痛堪ヘ ガタキニ至ルマデ貼用ス	皮膚病ニ用ユ	滋養物トシテ用ヒ又撒布劑トシテ濕疹癩亂 他藥ニ配合シ等ニ用ユ	皮膚病ニ應用ス	消化器病消化不良胃液減少等ノ場合或ハ止 渴藥リモナーデトシテ與フ一日〇、五— 一、〇ナリ

單軟膏	硼酸軟膏	溶解銀軟膏	亞鉛花軟膏	セネガ舍利別	單舍利別	ヨード鐵舍利別	グリスリン	蒸餾水	キナ丁幾	林檎鐵丁幾	苦味丁幾	アルコール
單膏	硼膏			セ舍利	單舍利	ヨード鐵舍利	リスリン	餾水	キナ丁	林鐵丁	苦味丁	酒精
外	外	外	外	内	内	内	外	外内	内	内	内	外内
諸種膏藥ノ原料タリ	創面皮膚病ニ用ユ	消炎劑トシテ大人三、〇小兒ハ一、〇ヲ患部皮膚ニ塗擦ス	收斂乾燥ノ目的ヲ以テ皮膚剝脫糜亂濕疹火傷等ニ用ユ	去痰性調味料トス一日五、〇―八、〇ヲ用ユ	調味料トシ一日五、〇―八、〇ヲ用ユ	梅毒患者ノ貧血脈病等ニ一日三回一、〇―五、〇ヲ用ユ殊ニ小兒ノ強壯劑トシテ適ス	皮膚病ニ用ヒ又洗腸用トス	ヨード鐵舍利別ハ本品ニテ溶解スルヲ可トシ硝酸銀水及一般點眼藥ハ本品ニテ製ス可シ	健胃強壯劑トシテ一日三、〇―四、〇ヲ用ユ	比較的胃ヲ害セザル補血鐵劑トシテ一日二、〇―三、〇ヲ他藥ニ配合シテ用ユ	健胃劑トシテ一日二、〇―三、〇ヲ用ユ	諸藥ノ溶解藥及消毒藥トス

樟腦精	醋酸アンモニウム液	エーテル	エーテル精	アンモニア茴香精	アンモニア水	薄荷水	石灰水	亞硝酸エチール精	カスカラサクラダ越
幾	ミンドル精	液	精	精	精	精	精	精	精
外	内	内	外内	内	外	内	外内	内	内
樟腦一トアルコール一〇ノ比ニ溶解シタルモノナリ ロイマチス性痛神經凍傷等ニ塗布ス	發汗利尿劑トシテ呼吸器加管兒等ニ一日數回三、〇―一〇、〇ヲ多量ノ水ニ和シテ用ユ 每一時五―二〇滴ヲ糖水ニ和シ失神虛脫胃痛神經痛嘔吐喘息等ニ用ユ	一〇―四〇滴ヲ糖水ニ和シ興奮藥トシテ用ヒ又吸入劑トシテ失神ニ用ユ	興奮性去痰藥トシ粘稠ナル咯痰アル氣管支加管兒肺炎等ニ一日數回〇、五―一、〇ヲ用ユ	ロイマチス神經痛ニ塗擦シ毒虫ノ螫傷ニハ十倍ノ水溶液ヲ以テ卷法トシ失神假死ニ吸入トス	水劑ノ賦形藥又ハ配合藥トシテ一日五、〇―八、〇ヲ用ユ	胃酸過多慢性下痢膀胱加管兒ニ對シ一日三回二、五、〇―一、〇、〇ヲ牛乳、水ニ和シテ用ユ咽病氣管支病ニ五倍以上ノ液ヲ吸入含服セシム火傷ニハアマニ油又ハオレイン油ニ混シ綿帶藥トス	發汗利尿劑トシ一日數回〇、五―一、五ヲ用ユ	緩下劑トシテ一日數回一、〇―四、〇ヲ用ユ	越幾斯

水	銀	軟	膏	灰	白	軟	膏	外	模毒塗擦療法(一回二、〇—五、〇)及消炎ノ目的ヲ以テシ陰虱ニ効アリ
ラ	ヌ	リ	ン					外	諸種膏藥ノ原料トス
ワ	セ	リ	ン					外	同上
肝								内	滋養品トシテ用ユ
オ	レ	ー	フ					外	藥品ノ溶解藥トシ又火傷ニ用ユ又胆石症ニ用ユ下劑トシテ小兒ニ五、〇—二〇、〇ヲ用ユルコトアリ
下	香							外	齒痛ニ用ユ
ヒ	マ	シ	油						強下劑トシテ一五、〇—三〇、〇ヲ用ユ
サ	ン	タ	ー					内	淋疾藥トシテ用ユ
テ	レ	ビ	ン					外	引赤藥トシ又皮膚病ニ用ヒ吸入藥トスルコトアリ
石	榴	根	皮					内	蟻虫驅除藥トシテ用ユ
抛	牛	兒						内	止痢藥トシテ本品三〇、〇ヲ煎出シ一日ニ服用ス
白	聖	末						内	制酸劑トシテ應用ス

二〇

備考 一日數回ト記セルハ凡三回或ハ四回服用ノ意ナリ
 頓服トアルハ一回ノミ用ユルモノヲ云フ
 人工カル、ス泉鹽ト硫酸アグネシア苦味丁幾トキナ丁幾並ニ豚脂ト單軟膏ハ各交換シテ用ユルコトヲ得

外科用材料一覽表

藥名	異名變名	用法	摘要
單綿紗	脫脂ガーゼ	外科用トシ殊ニ濕布繙帶ニ用フ	
昇汞綿紗	昇汞ガーゼ	手術及創傷繙帶ニ用フ	
脫脂綿	精製綿	外科創傷繙帶トシ又綿球墜球等ニ用フ	
三角巾		手足ノ繙帶ニ適ス	
リント布	脫脂紋巴	膏藥貼用ニ供ス(但シ細毛ノアル面ニ藥物ヲ塗ル可シ)	
亞麻仁油紙		防腐及濕布繙帶ニ防水用トシテ用フ	
ピソク氏硬膏		伴創膏ニ代用ス	

附録

二

縫合糸	創面縫合用トス
卷軸帶	八裂乃至四裂アリ通例六裂ヲ以テ便利トス
鑷止油	外科用刀剪類ノ鑷止用ニ供ス

醫療及調劑用具 (平常備置ヲ要スルモノノミヲ掲グ)

品名	數稱	摘	要
醫療器	一具	兩頭及刀一把針器剪一箱入 鑷子一縫合針五箱入	
護謨洗腸器	一具	赤護謨製	
グリズリン洗腸器	一具	二〇、〇用	
體溫器	一具	白木筒入	
止血器	一具	眞鍮製腎臟形	
膿盆	一個	眞鍮製附屬品付	
灌水器	一具		
塗布棒	一個	ゴーボ氏式	
副木	五個		
點眼瓶	一組	二〇、〇入着色二白三	
品名	數稱	摘	要
天秤	一具	上皿秤量一〇〇、〇	
桿秤	一具	秤量二、〇	
液量器	一組	圓筒形二〇〇、〇 圓錐形一〇〇、〇	
乳鉢	一具	硝子製	
眞鍮匙	一組	三本	
スポイト	一組	〇〇號	
膏藥	一個		
漏斗	一個	硝子製	
浸劑器	一個	磁製	

醫療及調劑用具取扱方心得

- 第一 藥品用器ハ一定ノ閉鎖セル場所ニ置ク可シ
- 第二 藥品ハ可及的空氣ニ觸レシメザルヲ可トス調劑ニ方リテハ一藥毎ニ瓶栓ヲナシ常ニ整頓シ置ク可シ殊ニ硝酸銀甘汞サントニンノ如キハ日光ニ觸レハ變化スルノ恐アリ
- 第三 用具使用後ハ直ニ水又ハ紙ヲ以テ洗拭シ就中秤器ハ丁寧ニ掃拭シ腐蝕ヲ來シ或ハ平均ヲ失セシメザル様注意ス可シ
- 但シ刀剪針等醫療器内容品ハ水洗乾燥後鑷止油ヲ塗布シ置ク可ク秤器及分銅ハ塵埃ヲ固着セシメサル様注意シ若シ附着スレハ軟布ヲ以テアルコールヲ浸シ徐々掃キ取ル可シ堅キ金屬ヲ以テ磨キ又ハ眞鍮磨キヲ用フル如キハ嚴禁ス

明治四十五年三月廿二日印刷
明治四十五年三月廿五日發行

航路標識管理所

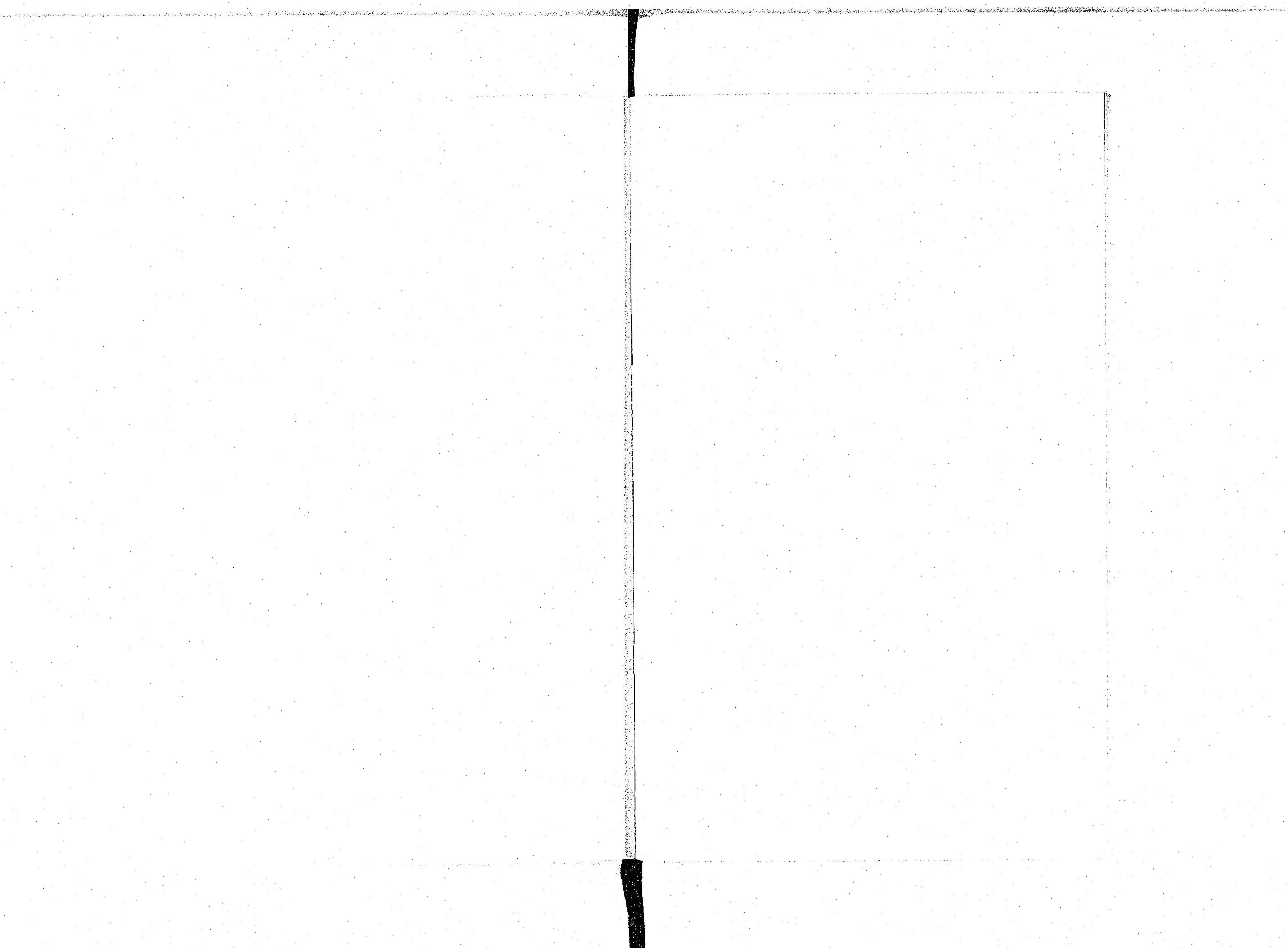
印刷者 高島幸三郎
東京市京橋區高代町四番地

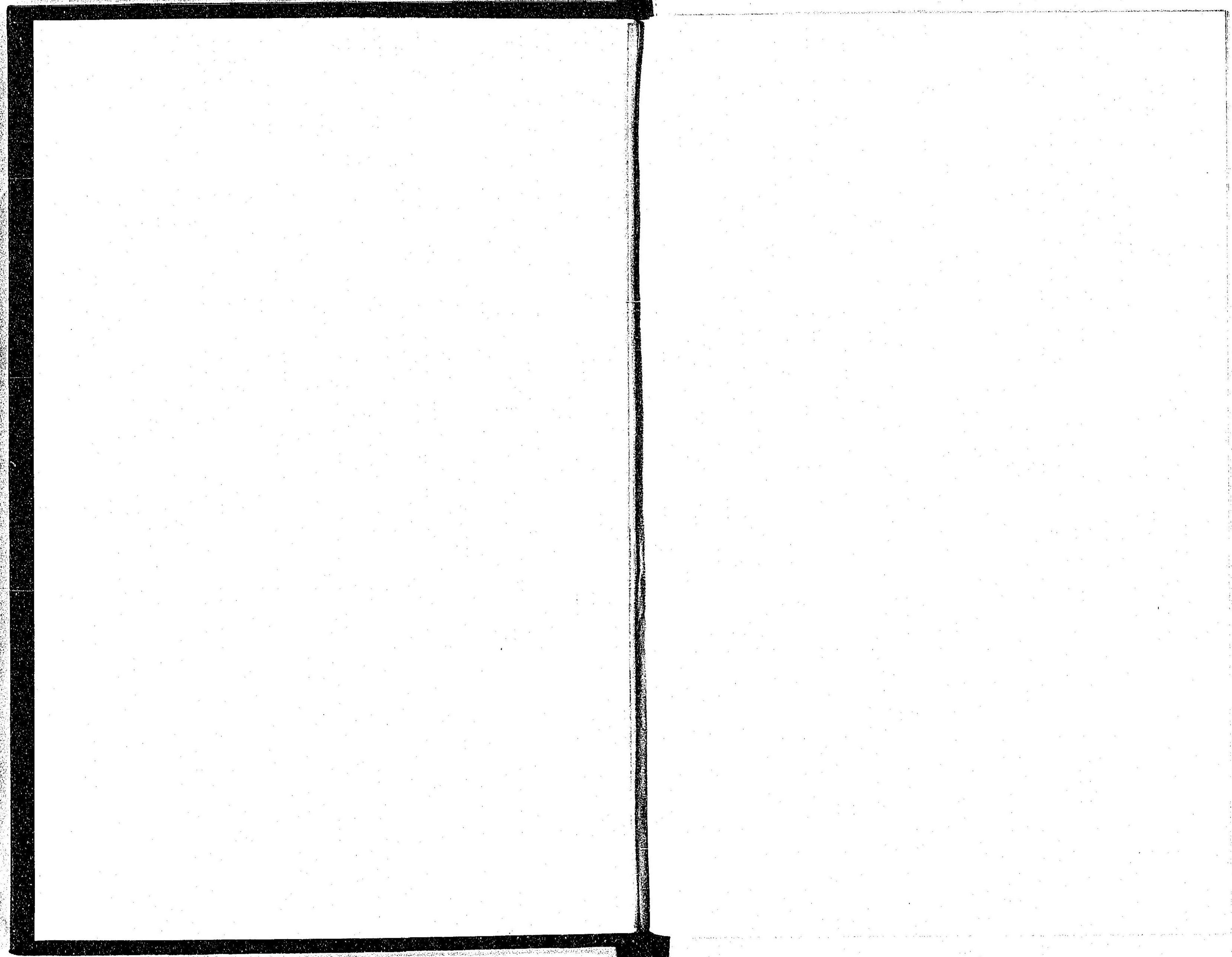
印刷所 高島活版所
東京市京橋區高代町四番地

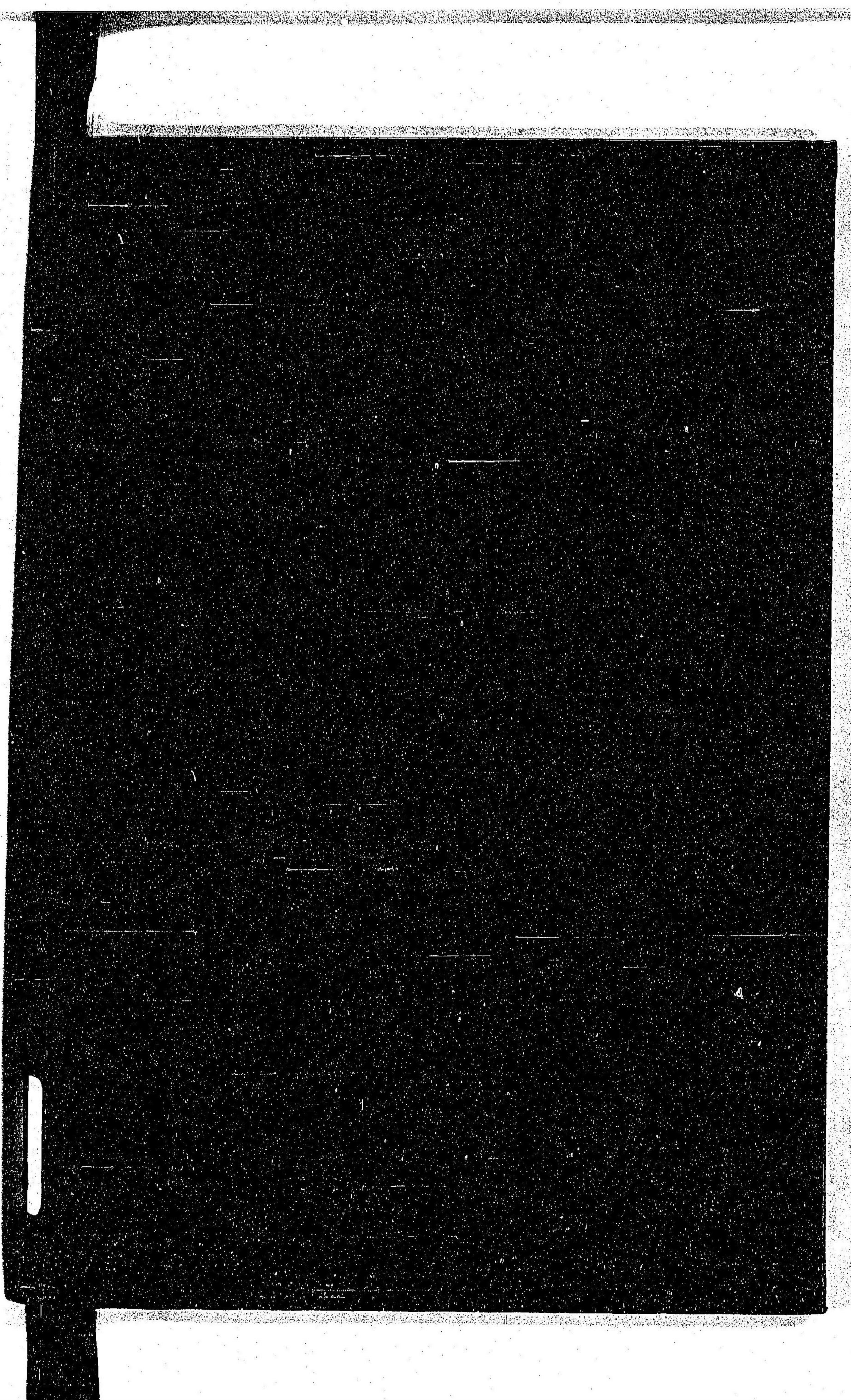


工 8N 24

正誤表注意







60

303

058671-000-6

60-303

新纂救急療法

松本 浦太/著

M45

CBC-0197



